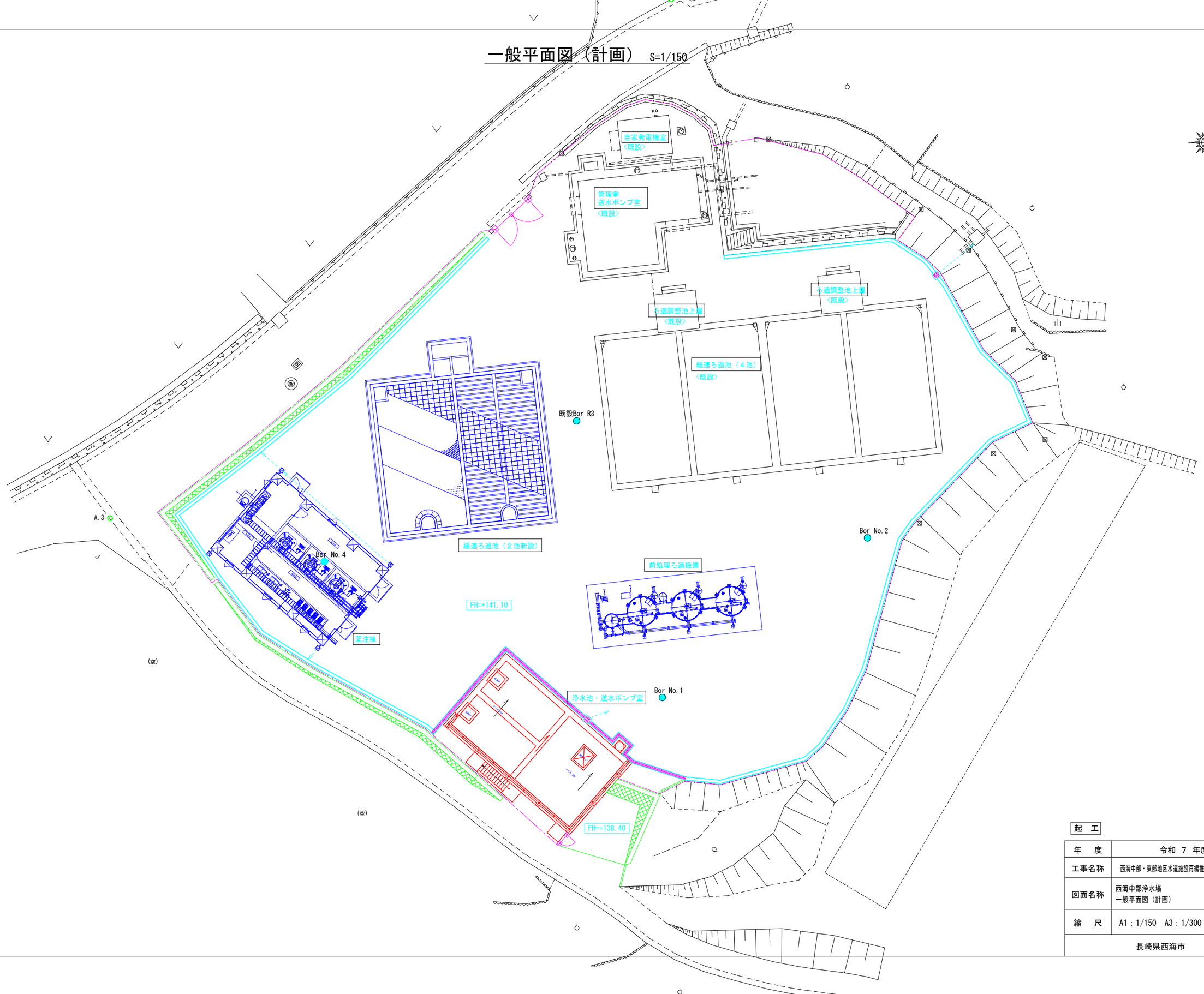
一般平面図（計画） S=1/150



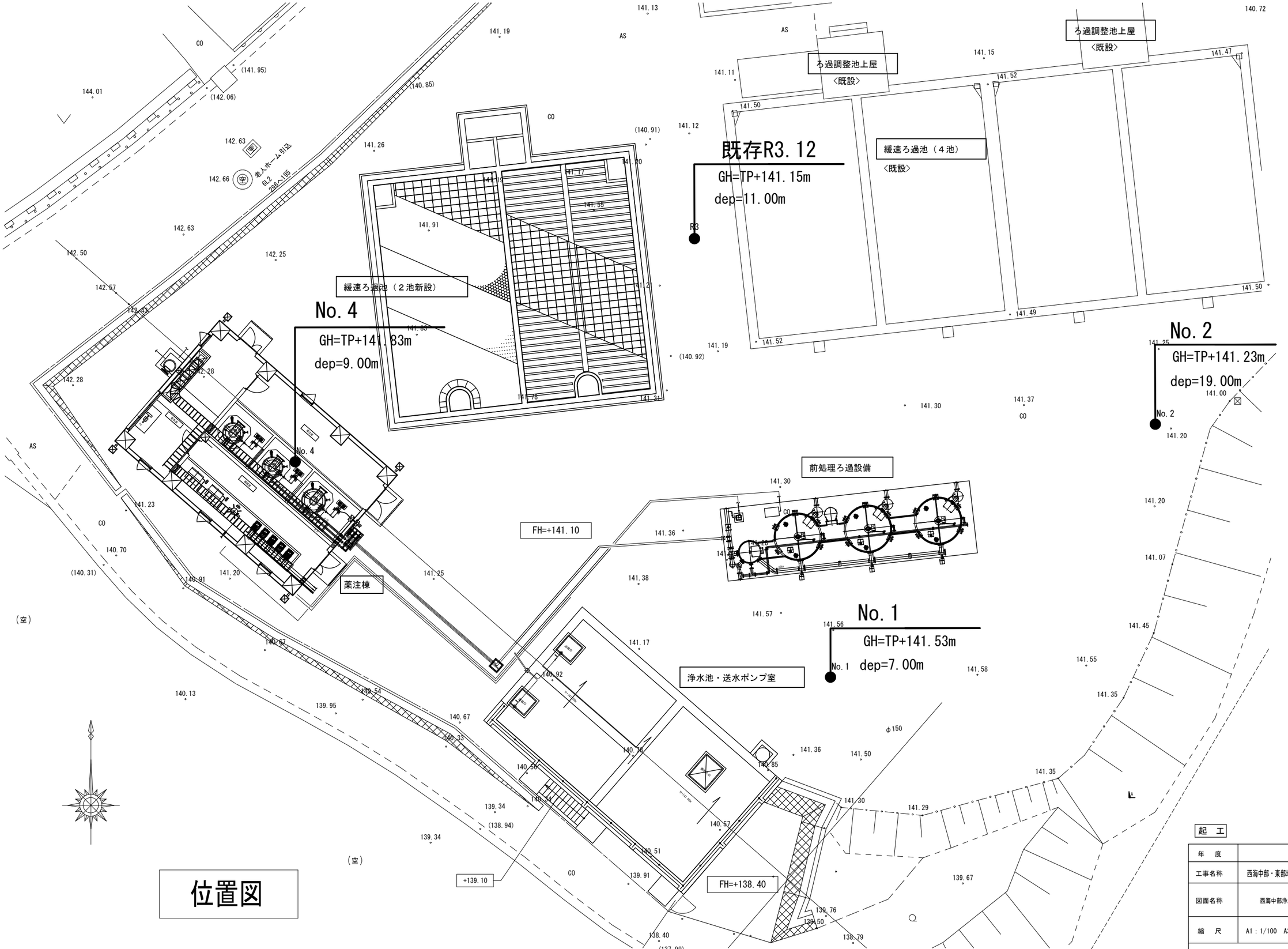
起　工

年　度	令和 ７ 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 一般平面図（計画）		
縮　尺	A1：1/150　A3：1/300	番号	1
長崎県西海市			

一般平面図（現況） S=1/150

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 一般平面図（現況）		
縮　尺	A1：1/150　A3：1/300	番号	2
長崎県西海市			



位置図

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場　ボーリング位置図		
縮　尺	A1：1/100　A3：1/200	番号	3
長崎県西海市			

ボーリング柱状図

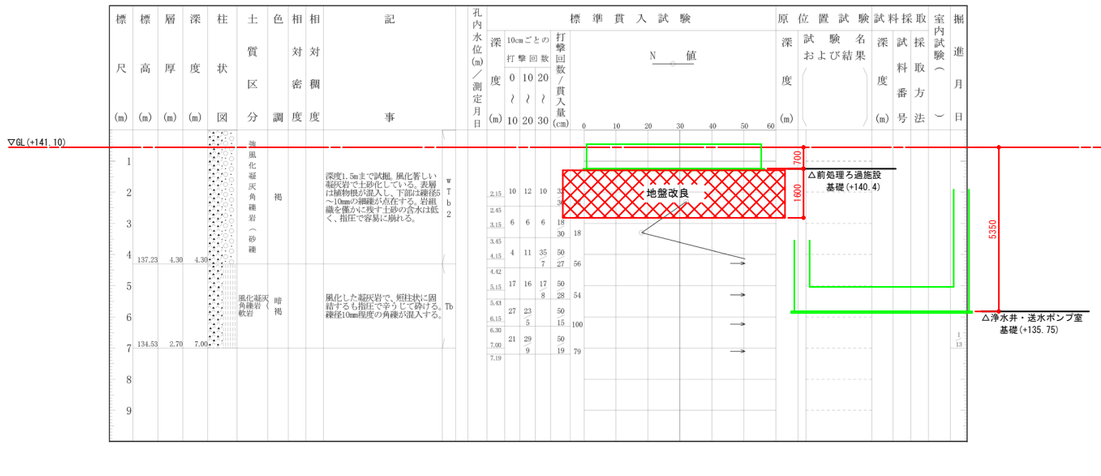
調　査　名　西海町中部・東部水道施設統合整備詳細設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	長崎県西海市西海町川内郷外地内（西海中部浄水場）	北緯	33° 2′ 54.3129″
発注機関	株式会社日建技術コンサルタント	調査期間	令和 5年 1月 12日 ～ 5年 1月 13日	東経	129° 43′ 04.2562″
調査業者名	エヌビー技術株式会社 電話（092-433-6682）	主任技師	柴原 勉	現場代理人	宮廻 達也
				コア鑑定者	宮廻 達也
				ボーリング責任者	野崎 洋一
孔口標高	TP +141.53m	角度	180°上 90° 下0° 0°	方向	北0° 0° 東90° 南180° 西270°
総掘進長	7.00m			地盤勾配	鉛直90° 0° 水平0°
				使用機種	
				試錐機	D0-DIIR
				エンジン	TF90M
				ハンマー落下用具	半自動
				ポンプ	BG-3C



ボーリング柱状図

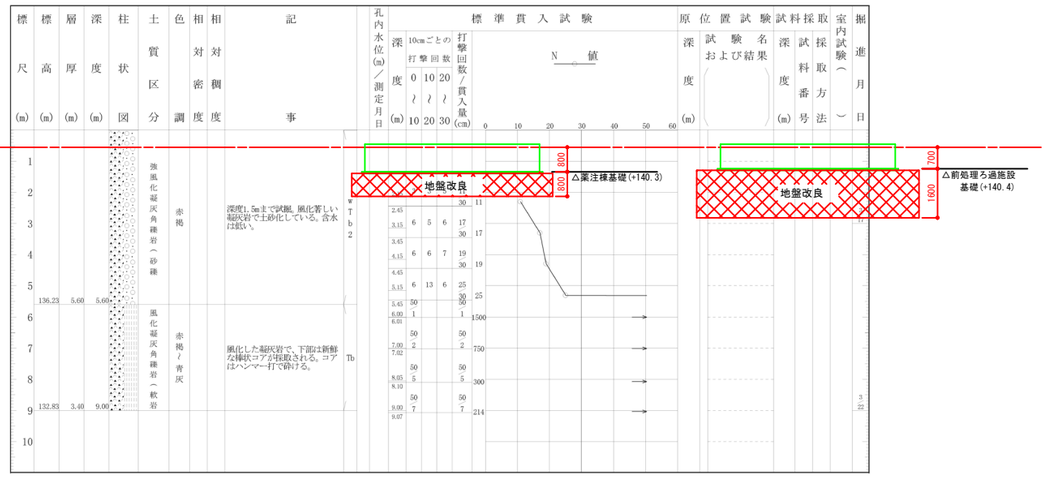
調　査　名　西海町中部・東部水道施設統合整備詳細設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.4	調査位置	長崎県西海市西海町川内郷外地内（西海中部浄水場）	北緯	33° 2′ 54.7416″
発注機関	株式会社日建技術コンサルタント	調査期間	令和 5年 3月 16日 ～ 5年 3月 22日	東経	129° 43′ 03.0184″
調査業者名	エヌビー技術株式会社 電話（092-433-6682）	主任技師	柴原 勉	現場代理人	宮廻 達也
				コア鑑定者	宮廻 達也
				ボーリング責任者	野崎 洋一
孔口標高	TP +141.83m	角度	180°上 90° 下0° 0°	方向	北0° 0° 東90° 南180° 西270°
総掘進長	9.00m			地盤勾配	鉛直90° 0° 水平0°
				使用機種	
				試錐機	YBM-05
				エンジン	NFAD-7K
				ハンマー落下用具	半自動
				ポンプ	YBM GP-3



起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場　土質柱状図（1）		
縮　尺	A1：1/100　A3：1/200	番号	4
長崎県西海市			

ボーリング柱状図

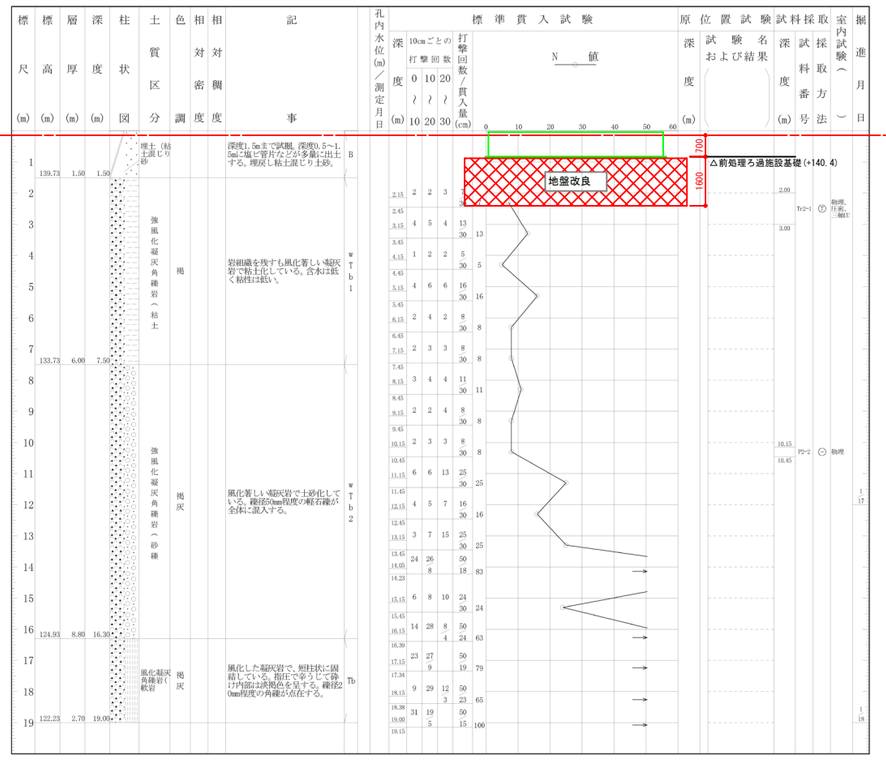
調　査　名　西海町中部・東部水道施設統合整備詳細設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.2	調査位置	長崎県西海市西海町川内郷外地内（西海中部浄水場）	北緯	33° 2' 54.8041"
発注機関	株式会社日建技術コンサルタント	調査期間	令和 5年 1月 16日 ～ 5年 1月 18日	東経	129° 43' 04.9286"
調査業者名	エヌピー技術株式会社 電話（092-433-6682）	主任技師	柴原 勉	現場代理人	宮廻 達也	コア鑑定者	宮廻 達也	ボーリング責任者	野崎 洋一
孔口標高	TP +141.23m	角度	上 180° 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	D0-D11R	ハンマー落下用具	半自動
総掘進長	19.00m								エンジン	TF90M	ポンプ	BG-3C



土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

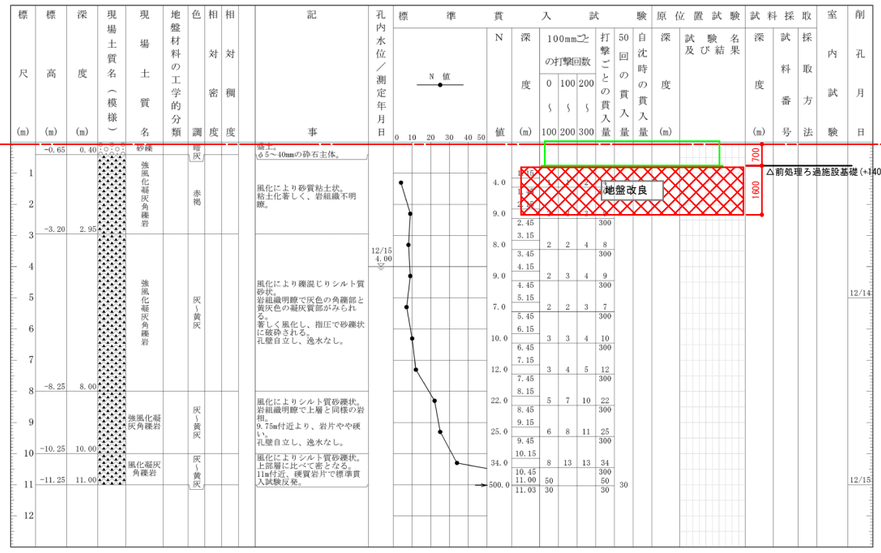
調　査　名　西海中部・東部水道施設統合基本設計業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象　上水道　構造物基礎

R3.12

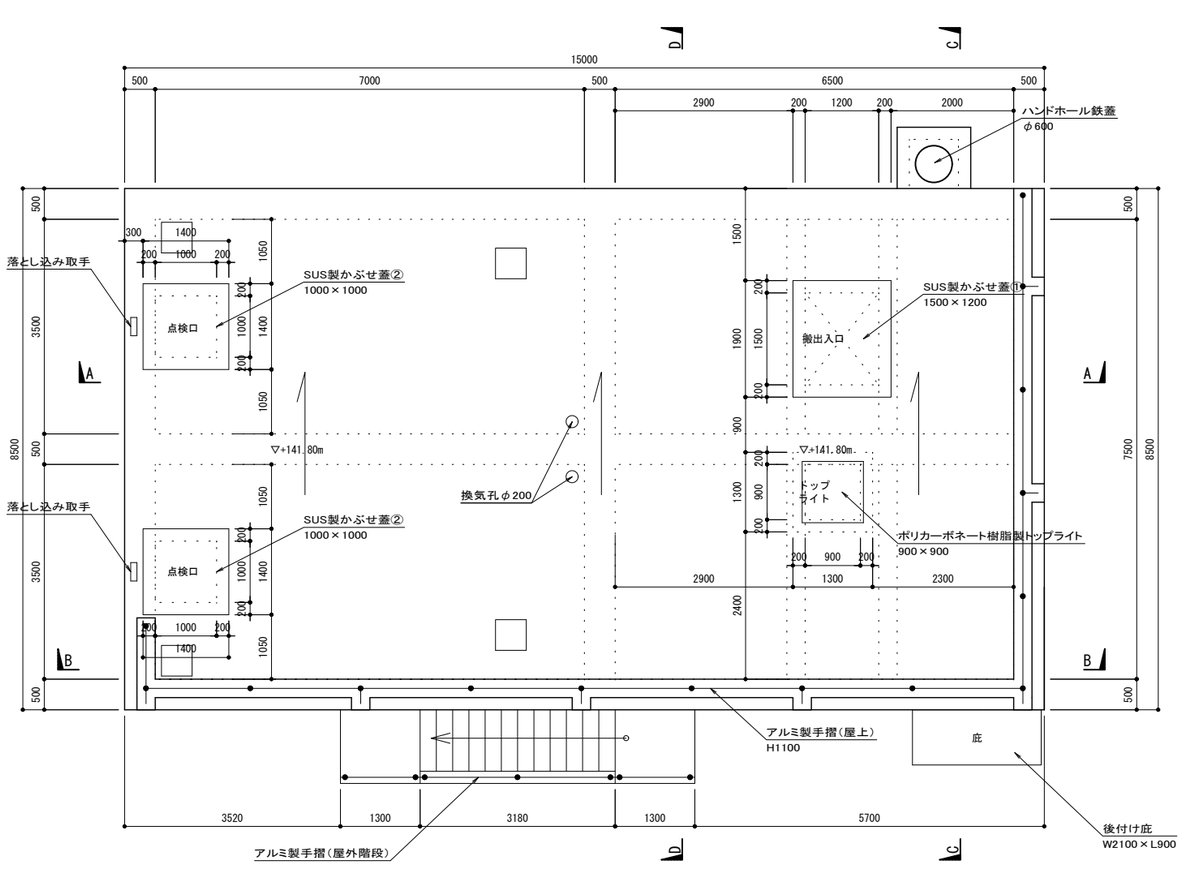
ボーリング名	No.1	調査位置	長崎県西海市西海町川内地内				北緯		
発注機関	西海市			調査期間	令和03年12月14日～03年12月15日		東経		
調査業者名	株式会社三水コンサルタント 電話(092-282-7050)	主任技術者	阿部安文	現場作業責任者		コア鑑定者	山口寛央	ボーリング責任者	古川卓也
孔口標高	+141.15 KBM -0.25 m	角度	上 180° 90° 下 0°	方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	DO-D		
総削孔長	11.00 m								エンジン	NFD-10	ポンプ	BG-3



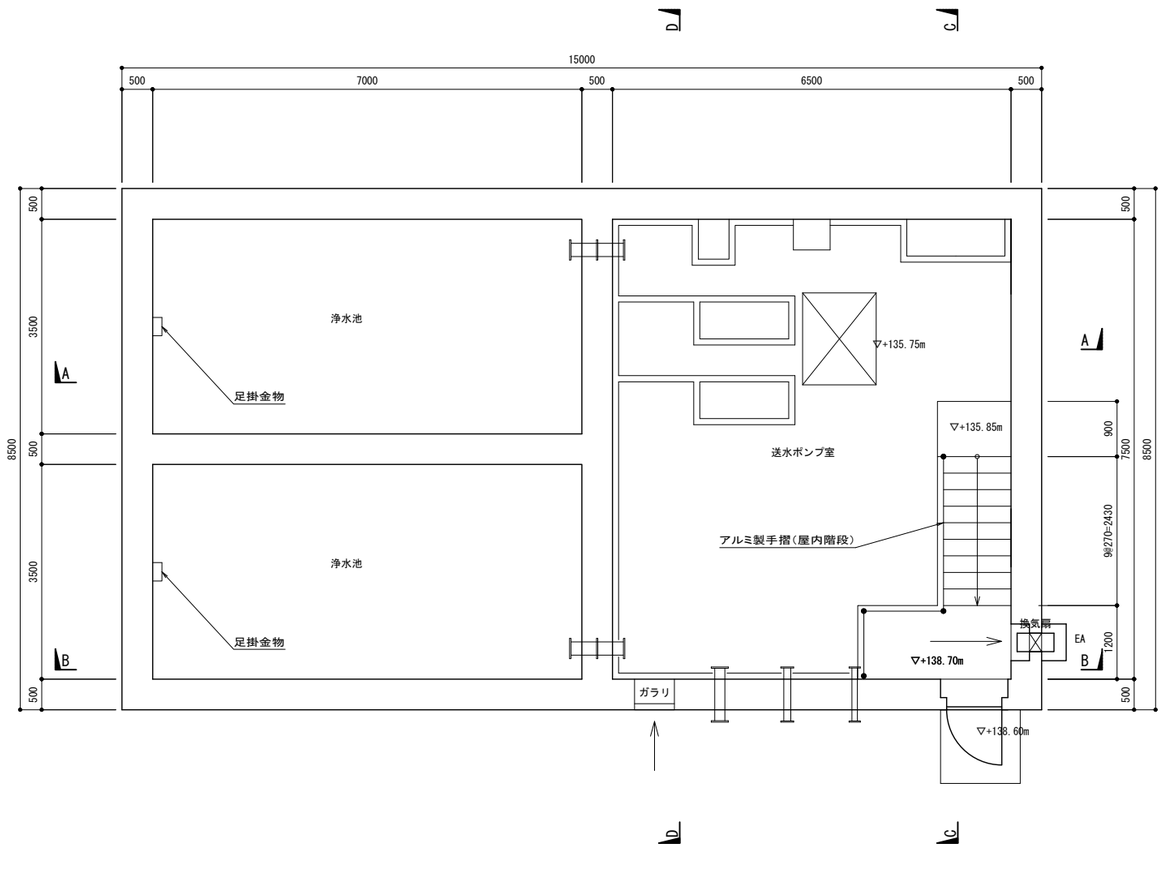
起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場　土質柱状図（2）		
縮　尺	A1：1/100　A3：1/200	番号	5
長崎県西海市			

浄水池・送水ポンプ室　平面図　S=1/50



１Ｆ平面図　S=1/50

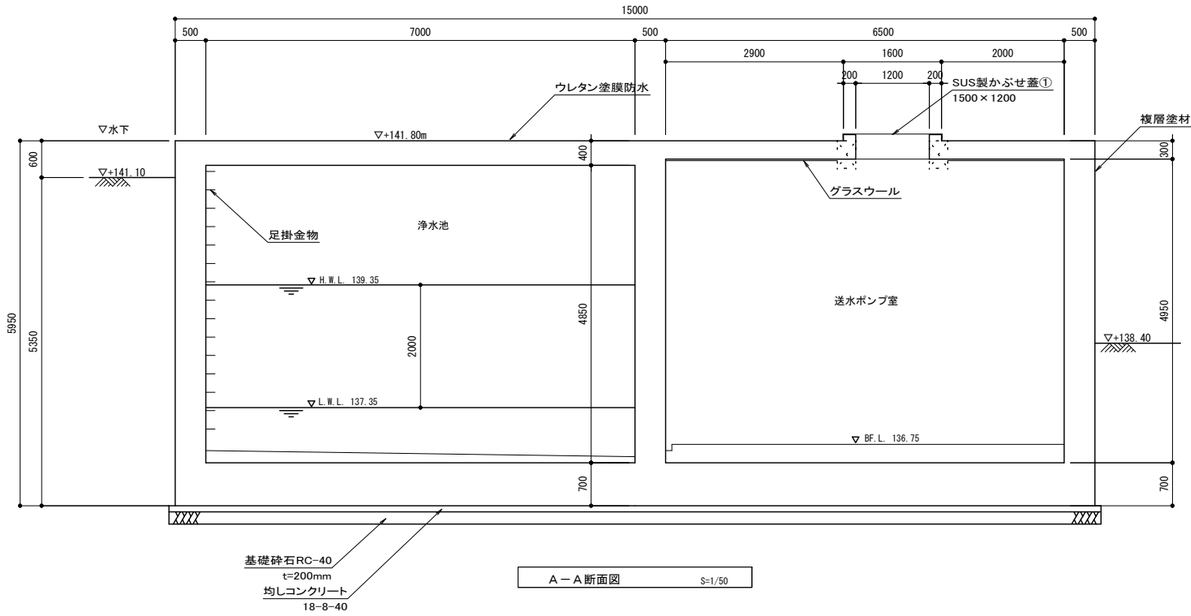


Ｂ１Ｆ平面図　S=1/50

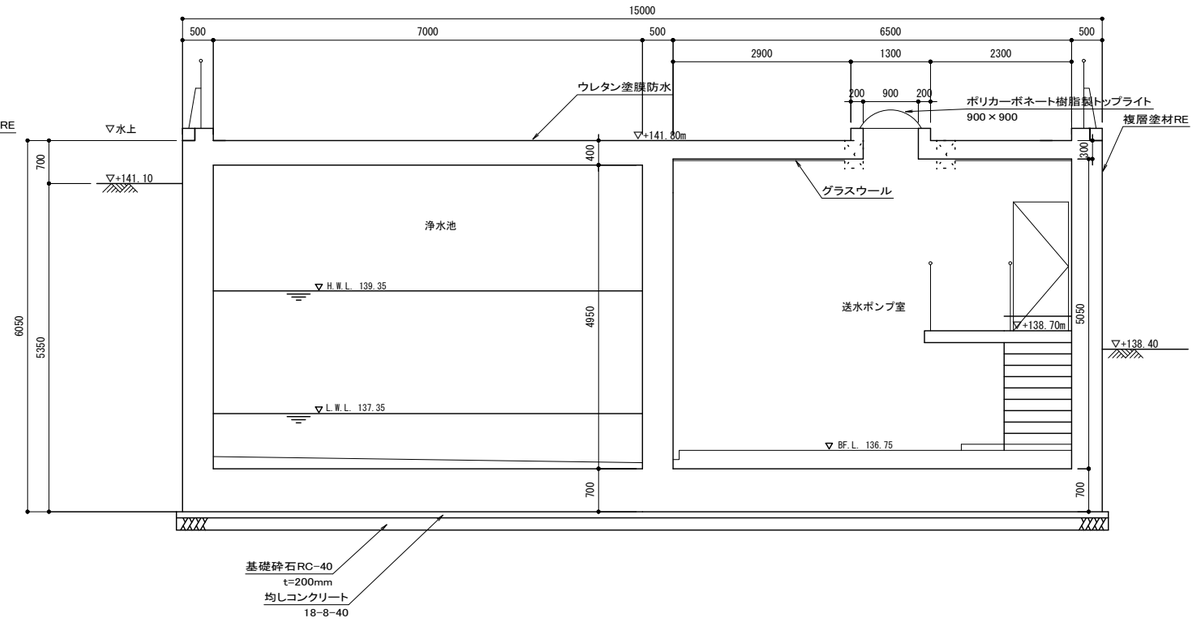
起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　平面図
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100　番号 6
長崎県西海市	

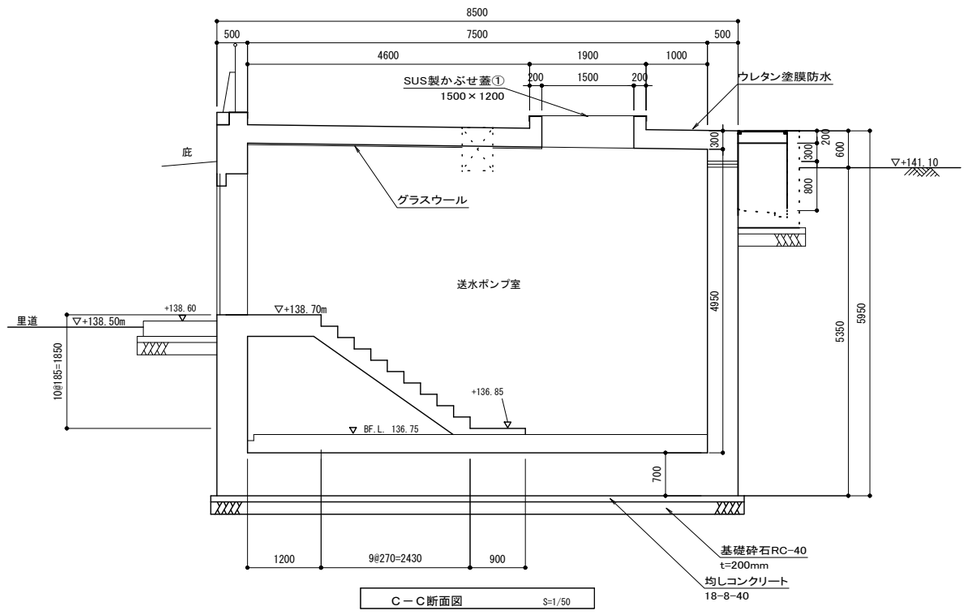
浄水池・送水ポンプ室　断面図　S=1/50



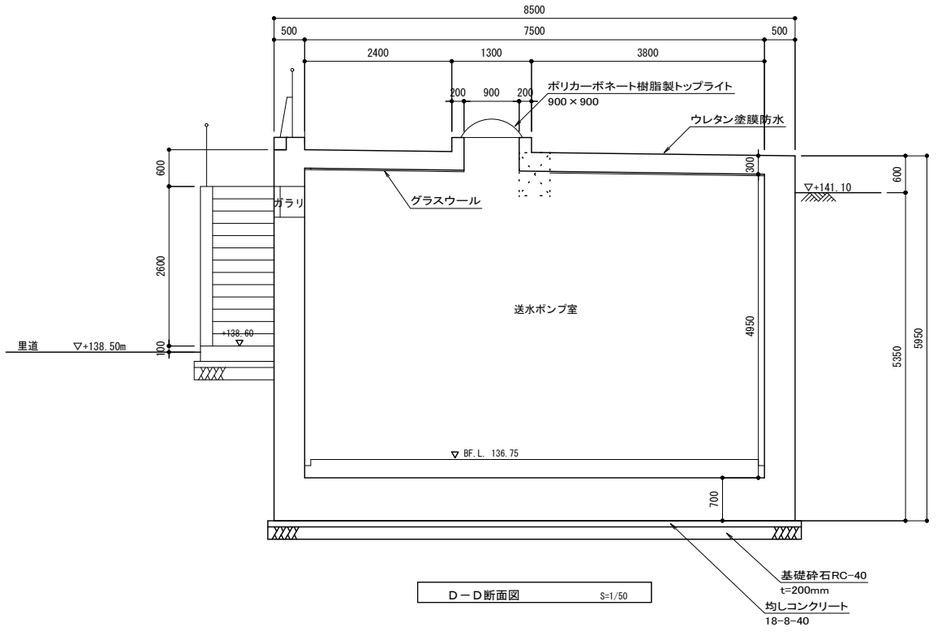
Ａ－Ａ断面図　S=1/50



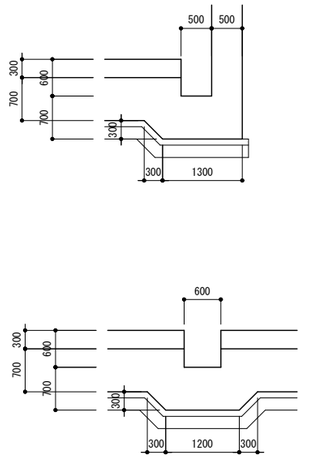
Ｂ－Ｂ断面図　S=1/50



Ｃ－Ｃ断面図　S=1/50



Ｄ－Ｄ断面図　S=1/50



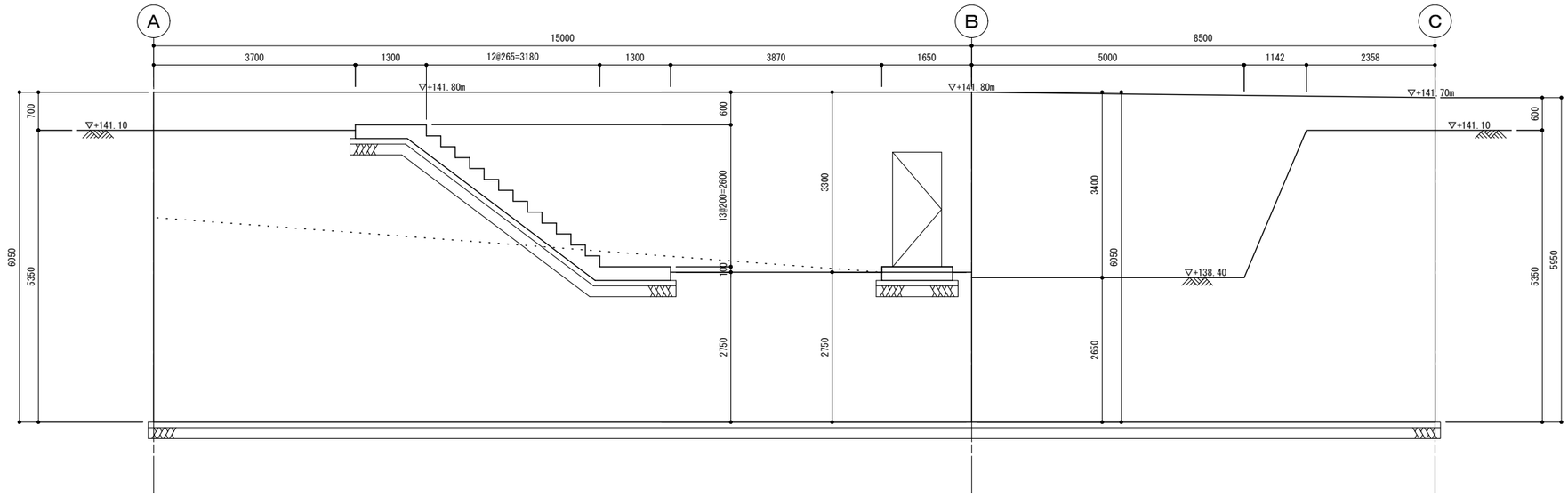
床排水ピット断面図　S=1/50

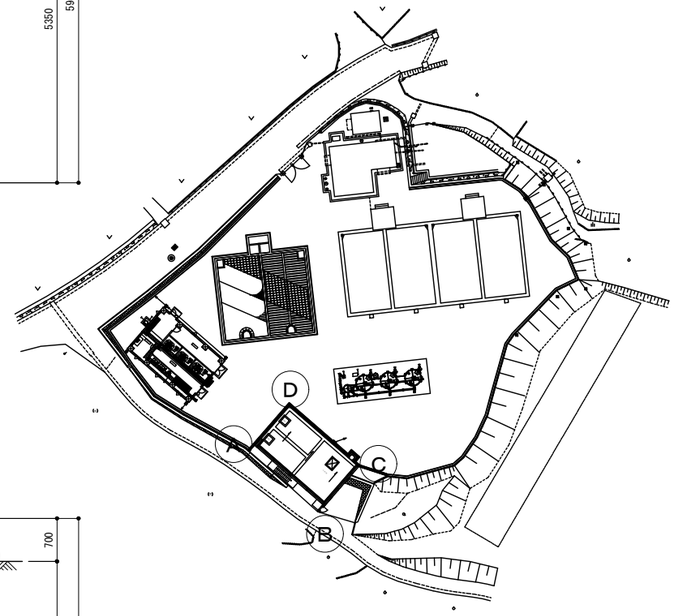
起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　断面図
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100　　番号　7
長崎県西海市	

浄水池・送水ポンプ室展開図

S=1/50





起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室展開図		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	8
長崎県西海市			

アルミ製手摺詳細図

A1：1／ 20
A3：1／ 40

＜材料＞

（1）材料は、ＪＩＳＨ４１００によるＡ６０６３Ｓ－Ｔ５またはＡ６０６３Ｓ－Ｔ６またはＡ６０６１Ｓ－Ｔ６とし押出し形材を使用する。

（2）設計条件

部材名	荷重方向		設計条件
笠木	水平方向	設計耐力	1.5kN/m
		たわみ量	500N/mで1/500以下かつ5mm以下,局部荷重500Nで1/100以下
	垂直方向	設計耐力	1.0kN/m
		たわみ量	500N/mで1/500以下かつ5mm以下,局部荷重500Nで1/100以下
支柱	水平方向	設計耐力	2.7kNまたは3.0kN
		たわみ量	局部荷重500Nで1/100以下

（3）表面処理は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）１４．２．２表のＢＢ－１種とする。

（4）支柱、笠木、控柱には補強材は使用しない。その他の部位に使用する補強材はＪＩＳＧ３１０１によるＳＳ４００とし亜鉛めっきはＪＩＳＨ８６１０の５級（クロメート被膜はＪＩＳＨ８６２５のＣＭ２Ｃ）以上とする。

（5）小ネジの類はステンレス製（ＳＵＳ３０４、ＳＵＳ３０５Ｊ１またはＳＵＳＸＭ７）とする。

＜取付・その他＞

（1）形状

単位（mm）

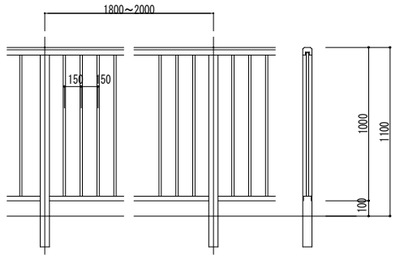
	支柱間隔	笠木	バラスター中心間隔	高さ	下枠までの隙間	控柱
庇下 バルコニー	1800～2000	－	@150	1100	100	－
屋上	1800～2000	－	@150	1100	100	@4,000程度
階段	1500程度	－	@125以内	900	50	
部材厚	3mm以上	3mm以上	－	－	－	3mm以上

（2）現場取付作業以外の組立などは工場製作とする。伸縮目地は必要に応じて設ける。

（3）切断面の処理はバリ等を適切な方法で除去する。端部の小口は同材にてふたをして仕上げる。

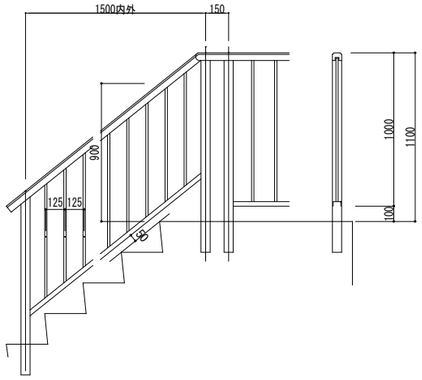
（4）設計耐力及びたわみ量は、工場にて試験を行い監督職員に報告する。なお、公的試験場の試験成績書をもってこれに代える事ができる。

固定式一般部

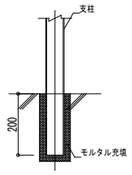


固定式階段部

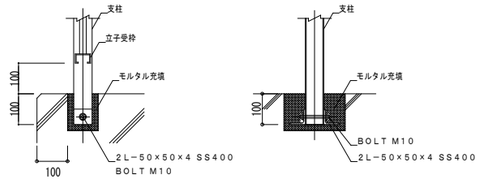
傾斜部と水平部取合いは参考とする。

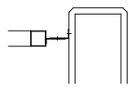


固定式埋込タイプ詳細

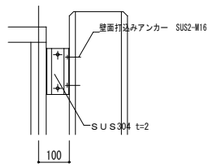


固定式ベースアングルタイプ詳細

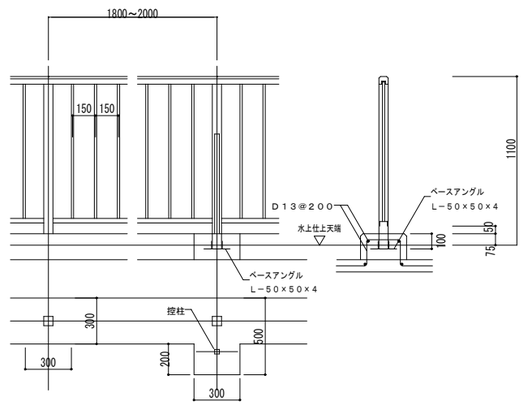




手摺つなぎ部詳細

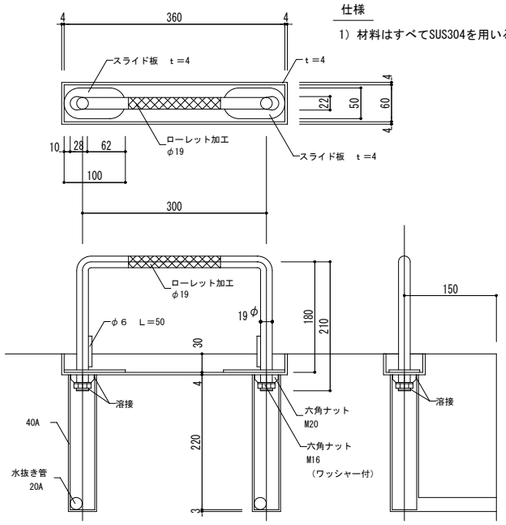


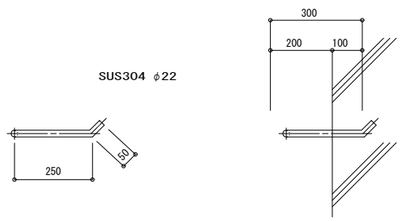
屋上部



仕様

1）材料はすべてSUS304を用いる。





1）壁に100mm 以上埋め込む。

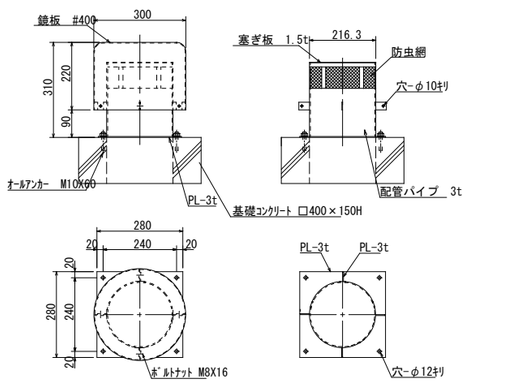
2）屋上を除く外部のタラップの最下段の踏子は、 GL より2000mm 程度とする。

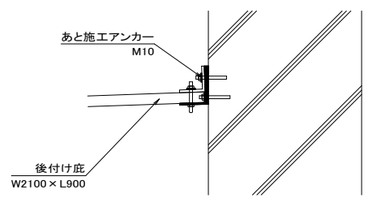
3）屋内及び屋上などへのタラップの最下段の踏子は、床面から 800mm 程度とする。

4）タラップは原則として先づけ工法とする。

5）タラップのバラペット取合い金物は、工場加工とし現場溶接としてはならない。

6）ステンレス丸鋼と平鋼の取合いは全周隅肉溶接とする。



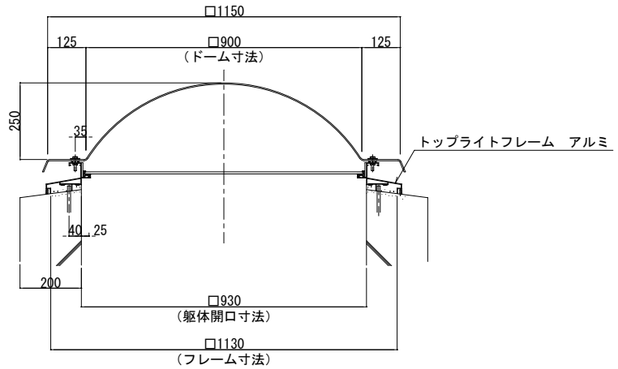


起　工

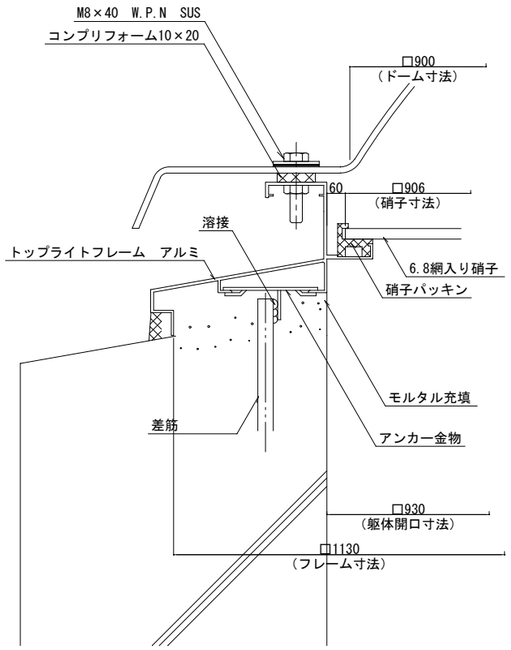
年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　部分詳細図 (1)		
縮　尺	図示	番号	9
長崎県西海市			

トップライト詳細図

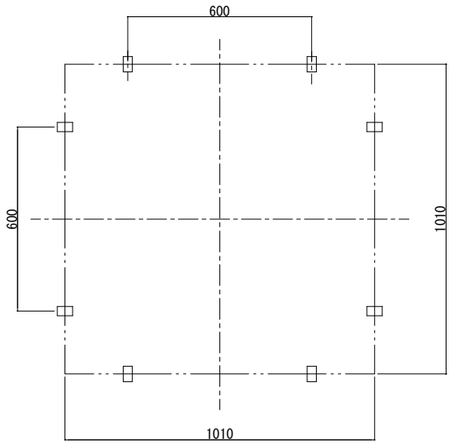
A1：1／10
A3：1／20



正　面　図　S=1:10



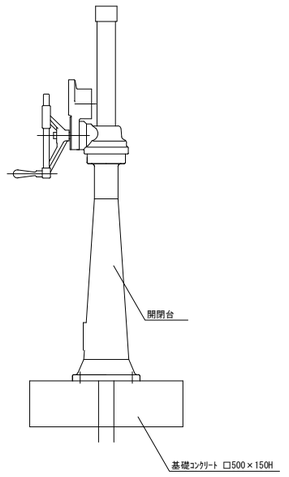
断面詳細図　S=1:2



アンカー位置図　S=1:10

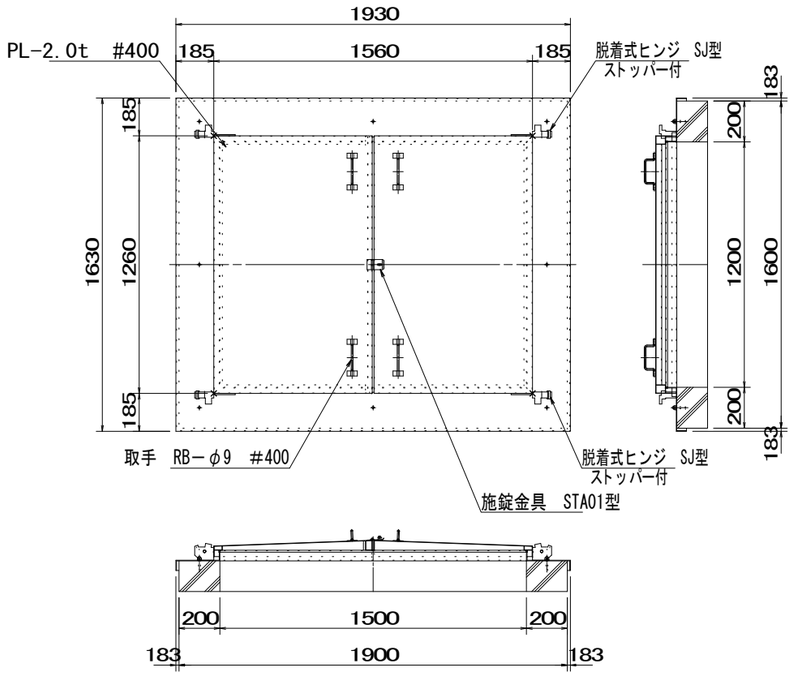
開閉台廻り詳細図

A1：1／10
A3：1／20



SUS製かぶせ蓋①

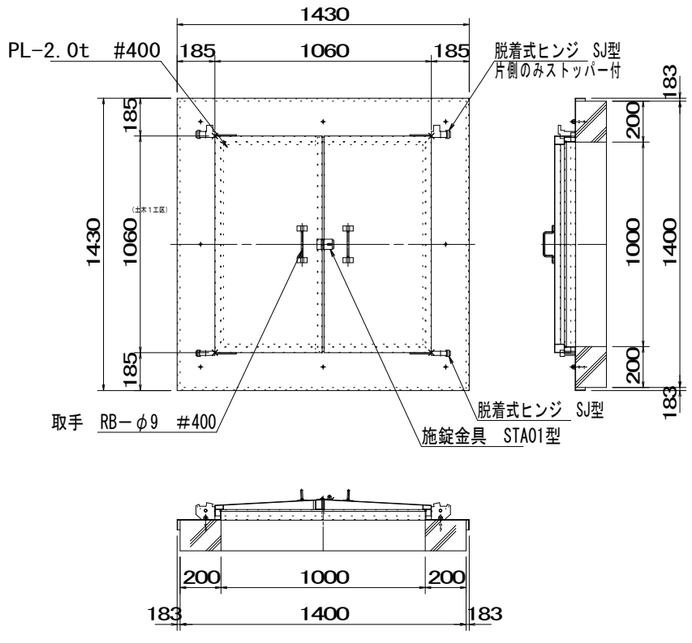
A1：1／15
A3：1／30



※使用鋼材は、全てSUS304とする。

SUS製かぶせ蓋②

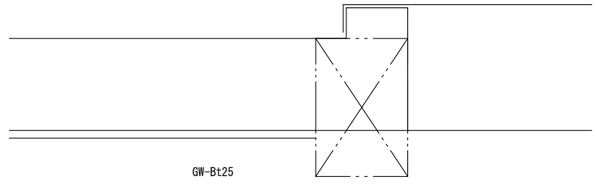
A1：1／15
A3：1／30



※使用鋼材は、全てSUS304とする。

グラスウール詳細図

A1：1／10
A3：1／20



GW-B:グラスウール吸音ボード2号32Kガラスブロック額縁貼
ステンレスファスナ止め（壁・天井8箇所/枚（910×1,820相当））

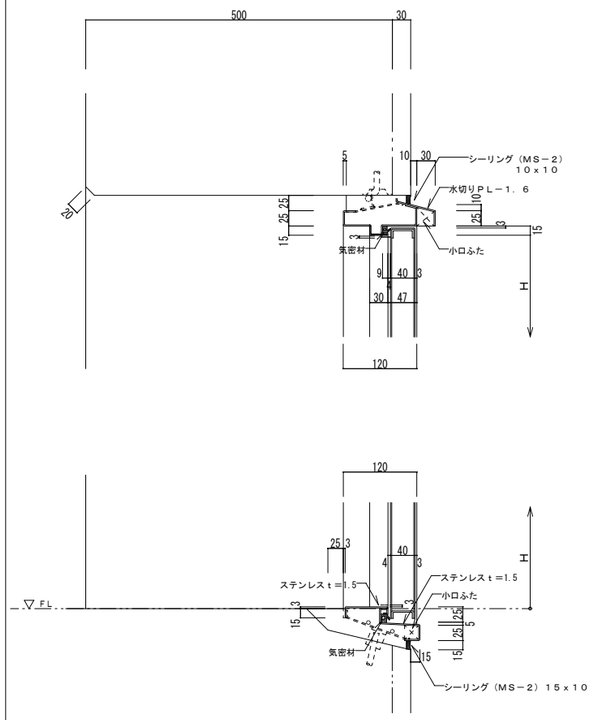
起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　部分詳細図 (2)		
縮　尺	図示	番号	１０
長崎県西海市			

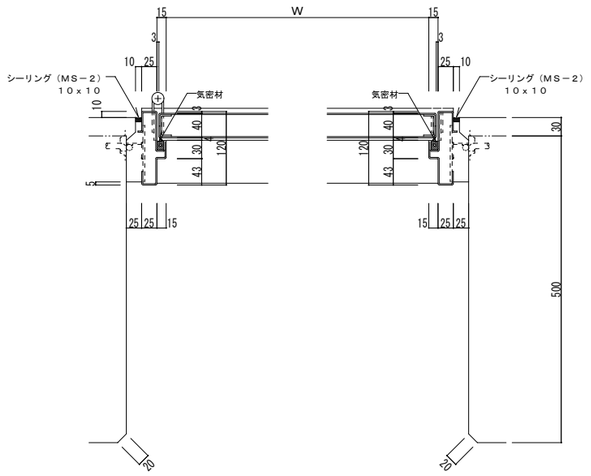
建具詳細図

D－1　外部簡易気密鋼製建具詳細図

A１：S＝１／　５
A３：S＝１／１０



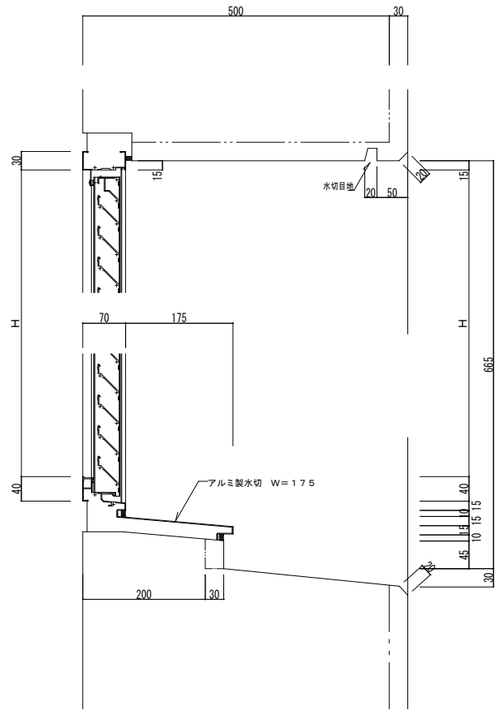
断　面　図



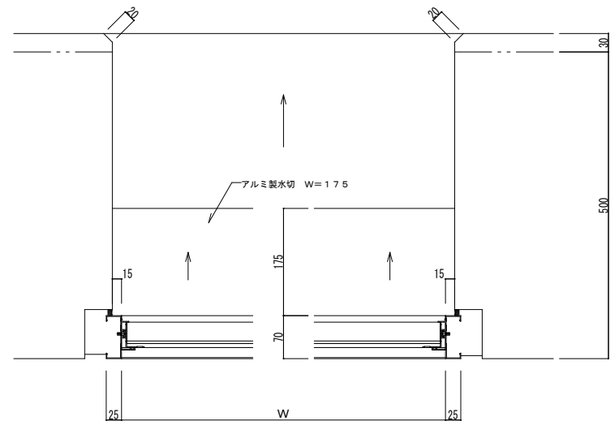
平　面　図

D－2　外部アルミ製ガラリ詳細図

A１：S＝１／　５
A３：S＝１／１０

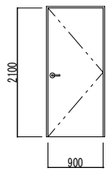
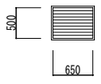


断　面　図



平　面　図

建具リスト

符号 ・ 名称 ・ 個数	(1/SD) 鋼製簡易気密片開き扉（外部） 1ヶ所			(1/AG) アルミ製ガラリ（外部） 1ヶ所		
場所	B１階　送水ポンプ室			B１階　送水ポンプ室		
仕上（枠共）	DP			BA－2<JIS H 8602（A2）>		
建具 見込（ランマ）	４０					
建具 硝子（ランマ）						
建具 ガラリ				D－2（開口率３０%）		
建具枠 見込取合 沓摺	１２０			７０		
枠記号 沓摺（水切）記号	D－1　D－1			D－2　D－2		
建具金物	ステンレス丁番（3） レバーハンドル DC（ストップ付） シリンダー本締り錠 戸当たり あおり止め			アルミ製水切 W＝１７５ 防鳥網(SUS 15×15) 附属金物一式		
形状・寸法	略号 SAT 					

共通事項

1．特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。
　但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2．パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。
　（内部はサムターン付）
3．便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4．ＡＨ、ＦＨを除きＤＣの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。
　壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）
5．特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6．アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から１．５００以内とする。
7．大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8．特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。（枠廻り詳細による。）
9．特記なき限り鋼製戸の見込みは４０mmとする。
10．防火戸の位置は建具配置図による。
11．特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
12．階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
13．特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
14．特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
15．ＡＴ－２、ＡＴ－４の補強材はアングル（Ｌ－５０×５０×６）の通し物とする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木製	WD	WW	WG		P	H		

ガラス略号

F	型板ガラス
P	フロート板ガラス
N	網入型板ガラス
NP	網入みがき板ガラス

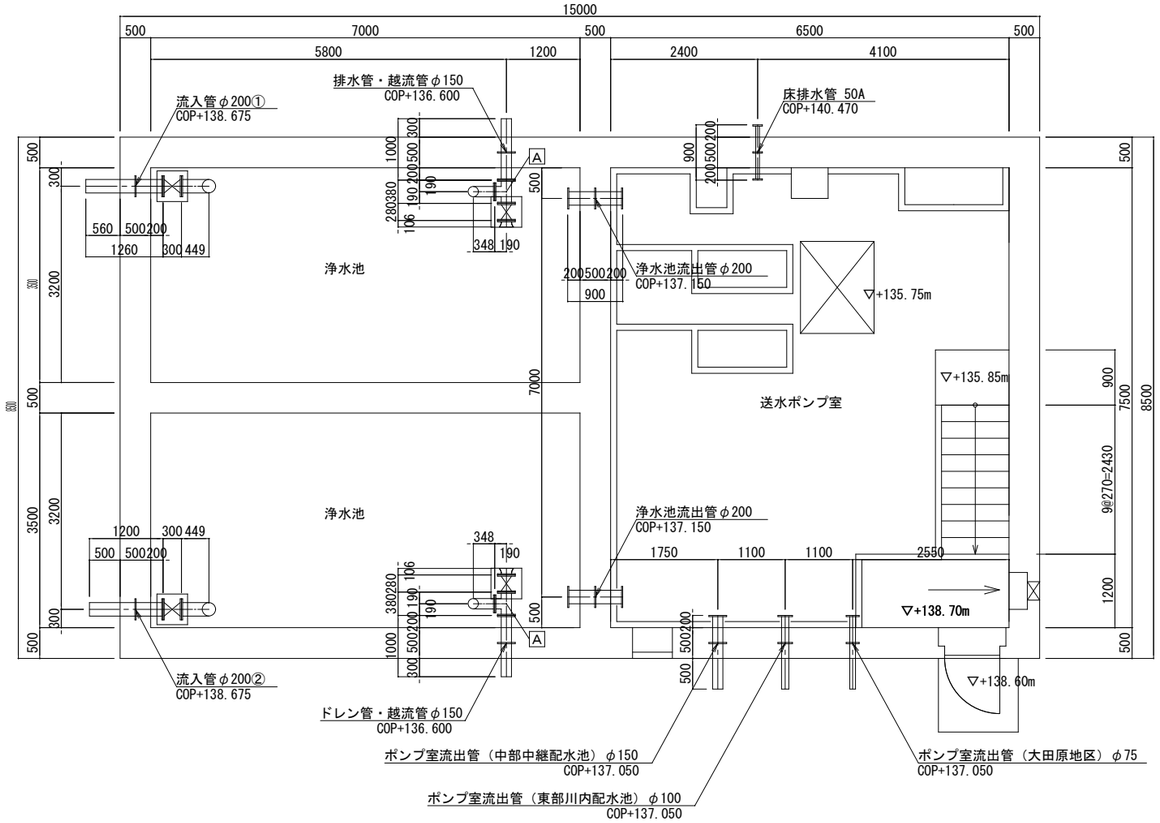
金物略号

DC	ドアクローザー
AH	オートヒンジ
FH	フロアヒンジ
PH	ピボットヒンジ

起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室建具詳細図
縮　尺	図示　番号　11
長崎県西海市	

浄水池・送水ポンプ室埋込管・池内配管図（1）　S=1/50



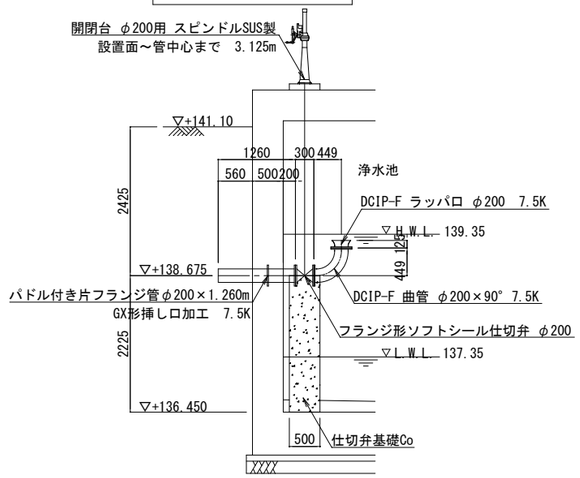
B１F平面図　S=1/50

起　工

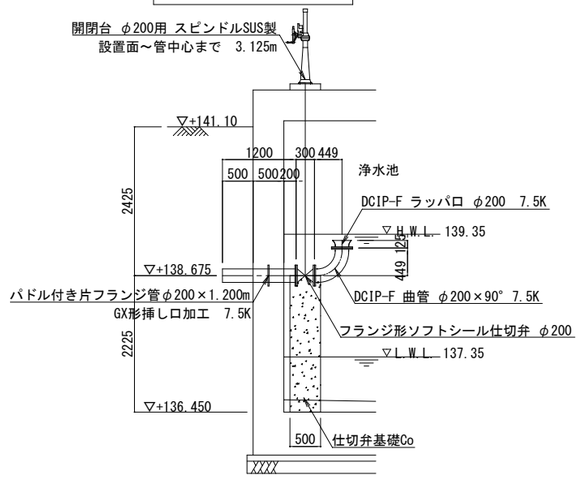
年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木1工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室埋込管・池内配管図 (1)		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	１２
長崎県西海市			

浄水池・送水ポンプ室埋込管・池内配管図（2）　S=1/50

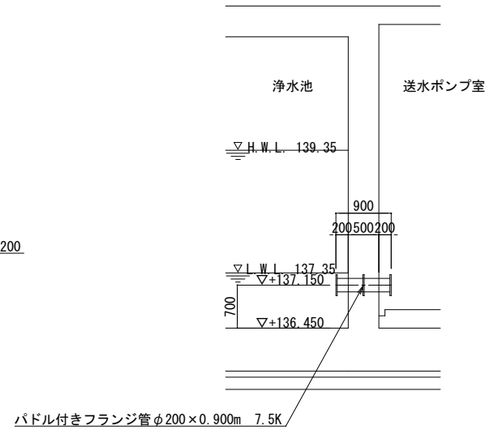
流入管①断面図



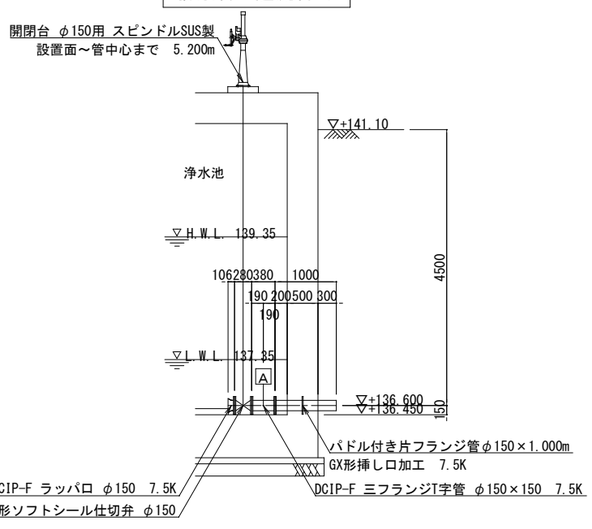
流入管②断面図



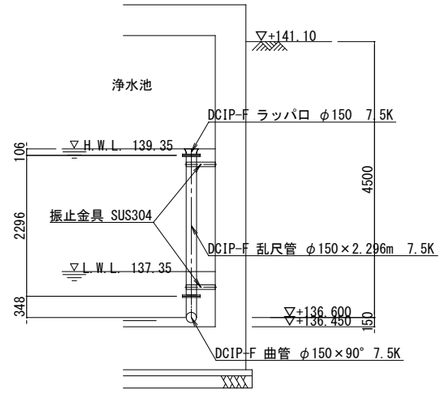
浄水池流出管断面図



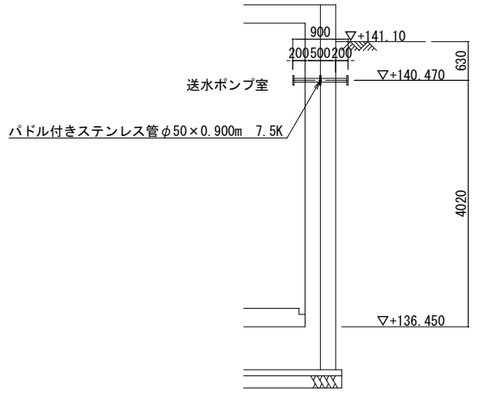
排水管・越流管 1



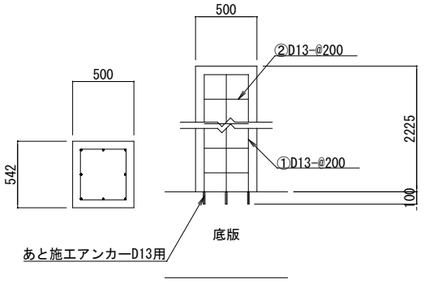
排水管・越流管 2



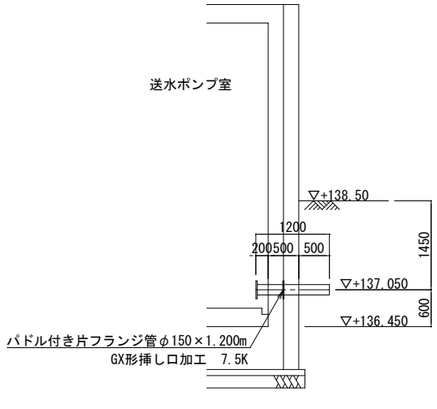
床排水管



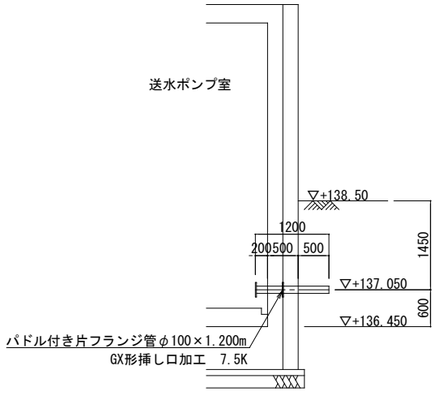
仕切弁基礎詳細図
S=1/25



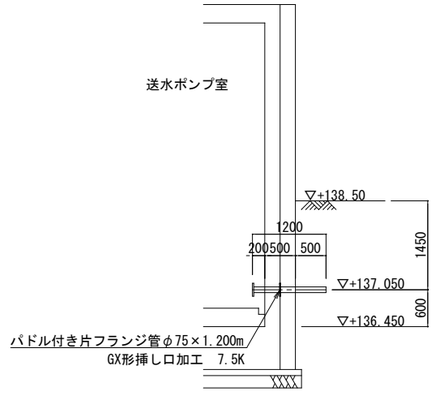
ポンプ室流出管（中部中継配水池）



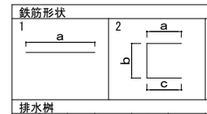
ポンプ室流出管（東部川内配水池）



ポンプ室流出管（大田原地区）



鉄筋形状



排水桝

記号	形状	径	a (m)	b (m)	c (m)	延長 (m)	本数 (本)	総延長 (m)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)
①	1	D13	2.27			2.27	8	18.16	0.995	18.07
②	2	D13	0.45	0.41	0.45	1.31	22	28.82	0.995	28.68
								計		46.75

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室埋込管・池内配管図 (2)		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	１３
長崎県西海市			

貫通孔、埋込管　及び　機器基礎仕様書

1. 一般事項

1．適用基準
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という）

2．施工図等
配管・配線系統を打ち合せ、位置・寸法及び方向を検討し、施工図を速やかに監督員に提出し、承諾を受ける。

3．発生材の処理
工事特記仕様書による。

4．符号
各設備に用いる符号は下記とする。

（例）ＡＭ・Ｓ－１
- 通し番号
- 貫通孔の形状の符号
  - Ｓ・・・・貫通孔
  - Ｐ・・・・埋込管
  - Ｂ・・・・基礎
- 各設備の符号
  - Ｃ　・・・土木
  - ＡＭ・・・建築機械設備
  - ＡＥ・・・建築電気設備
  - ＰＭ・・・プラント機械設備
  - ＰＥ・・・プラント電気設備

5．開口補強
ａ）開口補強方法については、標準仕様書別図各部配筋による。
1）壁開口補強は、４．２による。　・Ａ形　※Ｂ形
但し、耐震壁は図示による。
2）床版開口部補強は、５．３による。
3）梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ、７．１により、配筋種別は特記による。

6．工法
ａ）貫通孔、埋込管は、寸法・位置に充分注意して堅固に取り付ける
ｂ）埋込管を水槽・外壁に取付ける場合は、漏水のないように、充分考慮し施工する。

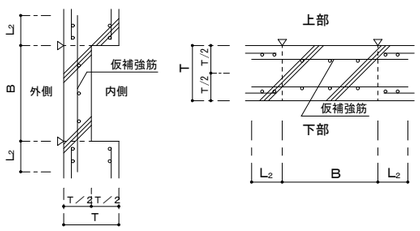
7．特記事項
ａ）○　・　印のついたものを適用する。　・　印のない場合は※印のあるものを適用する○又、　・　印と ⊗ 印のある場合は共に適用する。

2. 貫通孔

1．材料、材質
ａ）貫通孔に用いる材料は下記による。

記号	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ３	Ｓ４	Ｓ５	Ｓ６
材料	鋼管	硬質塩ビ管	溶融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木枠

2．次期工事の貫通孔処理
ａ）次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。



B	壁部	床版部
１５００未満	Ｄ１３－２００@シングル	構造体配筋に同じ

コンクリート強度　：　構造体強度に同じ
▽　：　シーリング（１０×１０）

ｂ）　土圧・水圧等を受ける場合は、Ｂ－０４－１を標準とし、その仕様は特記による。

3. 埋込管

1．材料、材質
ａ）埋込管に用いる材料は、下記のものとする。
埋込管の材料

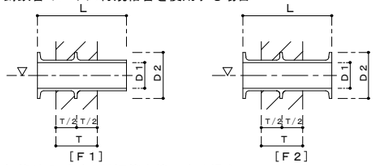
記号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５
材料	ステンレス管	鋼　管	鋳 鉄 管	塩 ビ 管	亜鉛鉄管

ｂ）埋込管の材質については、下記による。
1）ステンレス管 JIS G 3459 0.98Mpa
（SUS304）鋼管差し込み溶接フランジ規格
※ C-1 sch 20S
C-2 sch40
2）鋼　管　　JIS G ※ 3452(SGP)　※3442(SGPW)
3）鋳鉄管　　※　JSWAS G-1　・　JIS G 5526
4）塩ビ管　　JIS K 6741　※VP・VU
5）亜鉛鉄管　　JIS G 3302　※4mm以上　・6mm以上

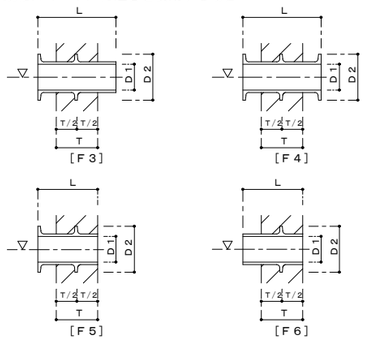
ｃ）埋込管の塗装は、「機械設備工事一般仕様書」の定めに準拠する。

3. 埋込管

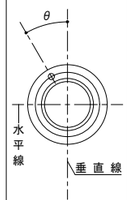
2．埋込管の形式
ａ）鋳鉄管のパドル付規格管を使用する場合



ｂ）規格外のパドル付短管を使用する場合



3．フランジ穴の取付け位置
ａ）フランジ穴取付け位置は、下表による。
（鋳鉄管：ＪＩＳ ７．５Ｋ、ステンレス管・鋼管：ＪＩＳ １０Ｋの場合）



	口径	θ	ボルトの呼び径		ボルト数
鋳鉄管	φ７５～１００	４５°	φ７５～２００	Ｍ１６	４
	φ１５０	３０°			６
	φ２００～２５０	２２．５°	φ２５０～３００	Ｍ２０	８
	φ３００～３５０	１８°	φ３５０～４００	Ｍ２２	１０
	φ４００～５００	１５°	φ４５０～６００	Ｍ２４	１２
	φ６００～７００	１１．２５°	φ７００～１１００	Ｍ３０	１６
	φ８００～９００	９°			２０
	φ１０００～１１００	７．５°			２４
ステンレス管・鋼管	１０～６５Ａ	４５°	１０～２０Ａ	Ｍ１２	４
	８０～１５０Ａ	２２．５°	２５～１００Ａ	Ｍ１６	８
	２００～２５０Ａ	１５°	１２５～２００Ａ	Ｍ２０	１２
	３００～４００Ａ	１１．２５°	２５０～３５０Ａ	Ｍ２２	１６
	４５０～５５０Ａ	９°	４００～５００Ａ	Ｍ２４	２０
	６００～７５０Ａ	７．５°	５５０～９００Ａ	Ｍ３０	２４
	８００～１０００Ａ	６．４２°			２８
	１２００Ａ	５．６２５°	１０００～１２００Ａ	Ｍ３６	３２

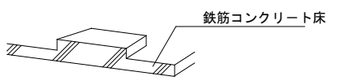
4. 機器基礎

1．分類
ａ）基礎の分類は下記による

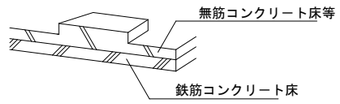
基礎の分類

記号	形状
Ｂ１	鉄筋コンクリート立ち上り基礎
Ｂ２	無筋コンクリート部分等の基礎
Ｂ３	防水層部分の立ち上り基礎
Ｂ４	土木・建築で差し筋のみを施す場合

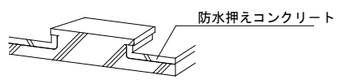
［Ｂ１］



［Ｂ２］

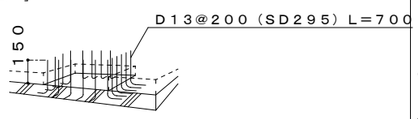


［Ｂ３］



4. 機器基礎

［Ｂ４］



5. その他

1．リスト記入方法
ａ）符号は　１．一般事項　４．符号による。
ｂ）形状寸法
1）貫通孔については、形状寸法を記入する。
（例）４００φ　　３００^{L}×５００^{W}
2）埋込管については、形状寸法を記入する。
（例）４００φ　×　８００^{L}
3）基礎については、形状寸法及び仕上り面よりの立ち上り高さを記入する。又、Ｂ４無筋コンクリートを抜く場合は、形状寸法及び無筋コンクリート厚さを記入する。
（例）５００^{W}×４００^{L}×１００^{H}
ｃ）材料－形式は－印の前に材料を、後に形式を記入する。
（例）　Ｓ１－　　Ｐ１－Ｆ１　　－Ｂ１
ｄ）床・壁の区分
1）壁部分は壁に○印を、床部分の場合は床に○印を記入する。
ｅ）位置の表示は、下記による。
1）壁部分の位置・・・平面は、最寄り通り芯よりの寸法を記入し高さは、基準面（　※ＴＰ　　・ＹＰ　　・ＡＰ　）より高さ表示とする。
（例）　②　→　①　８００　　○　→　○　＋８５００
2）床部分の位置表示は、最寄り通り芯よりの寸法を記入する。
（例）　Ⓐ　→　Ⓑ　２４００　　③　→　②　８００
3）位置の表示は、それぞれの施工芯表示とする。
ｆ）用途には配管系統（汚水管、脱臭ダクト等）等を記入する。
ｇ）備考には、施工部位、工事区分、その他特記すべき事項を記入する。
ｈ）その他
1）埋込管にフランジ蓋を設ける場合は、備考欄に特記する。
2）埋込管にフランジ規格の呼び圧力は次の場合を示す。
鋳鉄管　：　ＪＩＳ　７．５Ｋ
ステンレス管・鋼管　：　ＪＩＳ　１０Ｋ
上記以外は特記する。
3）貫通孔に仮壁を設ける場合は備考欄に特記する。
4）将来使用する開口については、仮壁、仮蓋等を施すものとし、備考欄に特記する。

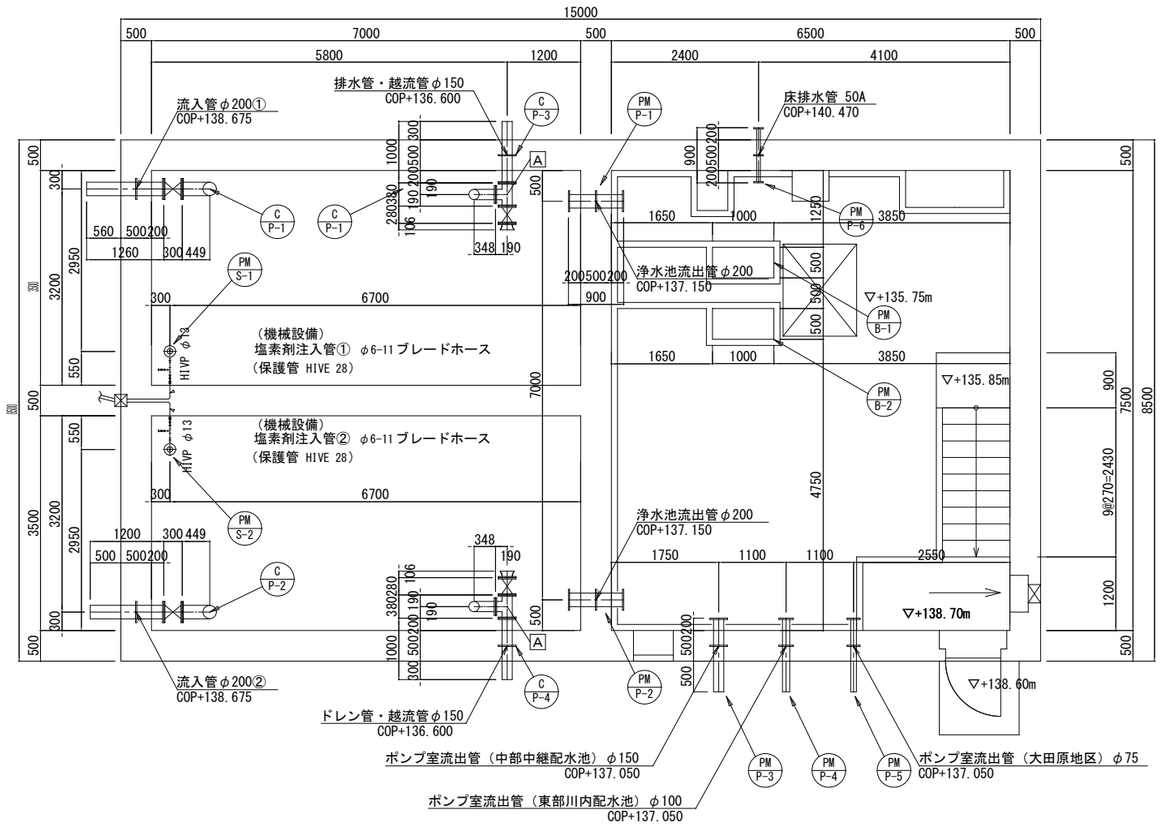
貫通孔、埋込管　及び　機器基礎リスト

符号	形状寸法	壁	床	用途	材料－形式	位置		備考
Ｃ・Ｐ－１	φ200 × 1260L	⊙	・	流入管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
Ｃ・Ｐ－２	φ200 × 1200L	⊙	・	流入管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
Ｃ・Ｐ－３	φ150 × 1000L	⊙	・	排水管・越流管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
Ｃ・Ｐ－４	φ150 × 1000L	⊙	・	排水管・越流管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｐ－１	φ200 × 900L	⊙	・	流出管	P3 － F4	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｐ－２	φ200 × 900L	⊙	・	流出管	P3 － F4	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｐ－３	φ150 × 1200L	⊙	・	ポンプ室流出管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｐ－４	φ100 × 1200L	⊙	・	ポンプ室流出管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｐ－５	φ75 × 1200L	⊙	・	ポンプ室流出管	P3 － F3	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｐ－６	50A × 900L	・	⊙	床排水管	P1 － F4	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｓ－１	φ150 ×	・	⊙	80A塩素剤注入管	S5 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｓ－２	φ150 ×	・	⊙	80A塩素剤注入管	S5 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｂ－１	W500 × 1000L	・	⊙	送水ポンプ	B4 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＭ・Ｂ－２	W500 × 1000L	・	⊙	送水ポンプ	B4 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＥ・Ｂ－１	W150 × H100	⊙	・	ケーブル引込用	S5 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＥ・Ｂ－２	W430 × H100	⊙	・	ケーブル引込用	S5 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＥ・Ｓ－１	φ100 × 500L	⊙	・	送水ポンプ空転防止電極用	S5 －	○→○ 図示	○→○	
ＰＥ・Ｓ－２	φ100 × 500L	⊙	・	送水ポンプ空転防止電極用	S5 －	○→○ 図示	○→○	

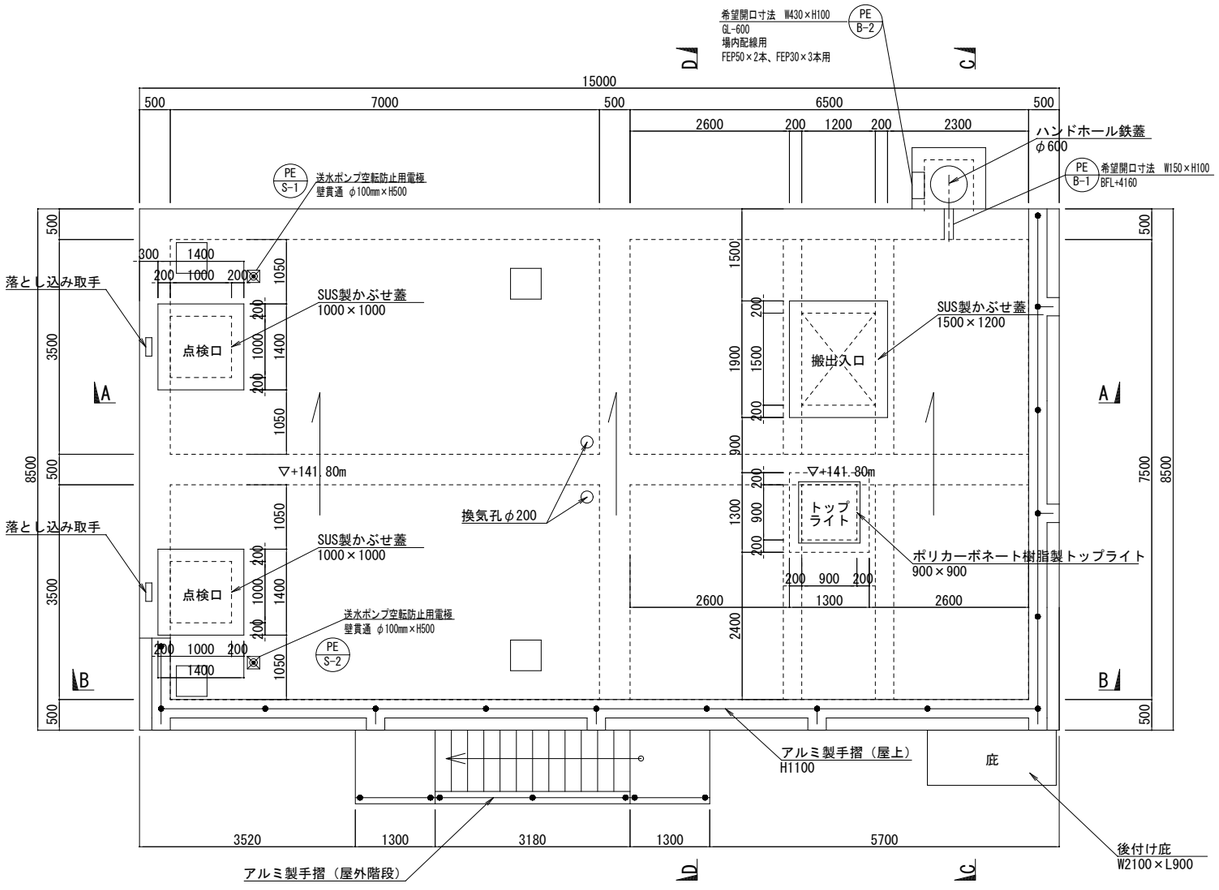
起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室貫通孔・埋込管及び機器基礎仕様書
縮　尺	A1：－　　A3：－　　番号　１４
長崎県西海市	

浄水池・送水ポンプ室貫通孔・埋込管及び機器基礎図　S=1/50



B１F平面図　S=1/50



１F平面図　S=1/50

起　工	
年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室貫通孔・埋込管及び機器基礎図
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100
番号	１５
長崎県西海市	

構 造 細 目 共 通 図（土木構造物）

＜ 令和4年版 ＞

※本図面は（一社）全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1　特記事項

1．1　適用範囲

（1）本構造細目共通図は、水道施設における土木構造物に適用する。

（2）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1）コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	（2017年版　）
2）コンクリート標準示方書・設計編	土木学会	（2017年版　）

（3）項目は、⊙ 印のついたものを適用する。⊙ 印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。⊙ 印と ㊟ 印のある場合は、共に適用する。

1．2　鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は1．1表による。

1．1表　鉄筋の種類及び継手

	種　別	径
鉄筋の種類	※ ＳＤ３４５ ・　ＳＤ３９０ ・　ＳＤ４９０	※ Ｄ１３以上 ・
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※ Ｄ１９以上の柱、梁主鉄筋 ・ Ｄ１６以上の増設端の床・壁鉄筋 ・
	機械式継手	・ 図面による

1．3　コンクリートの仕様

コンクリートは1．2表による。

1．2表　コンクリートの仕様

分　類	コンクリート種別	設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	セメントの種類
鉄筋コンクリート	※ 普通コンクリート ・	※ ２４ ・３０ ・	※ １２ ・	・ 高炉セメントＢ ※ 普通ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・
無筋コンクリート	※ 普通コンクリート ・	※１８ ・	※ ８ ・	※ 高炉セメントＢ ・ 普通ポルトランドセメント ・

注１：無筋コンクリートには均しコンクリートを含む。

1．4　砕石基礎工及び均しコンクリートエ

砕石基礎工及び均しコンクリートは1．3表による。

1．3表　砕石基礎工及び均しコンクリートエの仕様

種　別	厚　さ（mm）
砂利または砕石	※　２００ ・
均しコンクリート	※　１００

2　共通事項

2．1　用語の定義

本構造細目共通図中で使用する用語の定義は、２．１表のとおりとする。

２．１表　用語の定義

用　語	説　明
主 鉄 筋	各種限界状態を満足させるために計算し、配置される鉄筋
配 力 鉄 筋	応力を分散させる目的で、通常、主鉄筋に対して直角（スラブ、壁部材の場合）に配置される鉄筋
せん断補強鉄筋	せん断力に抵抗するように配置される主鉄筋を拘束する鉄筋
幅 止 め 鉄筋	はりの水平用心鉄筋、スラブ、壁の主鉄筋 あるいは配力鉄筋の厚み方向の間隔を確保するための鉄筋

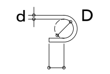
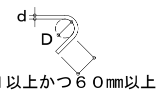
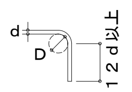
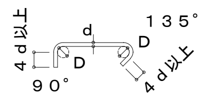
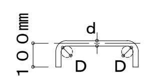
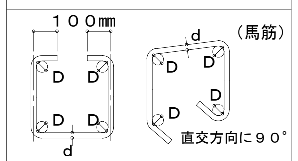
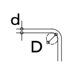
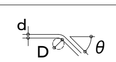
2．2　一般注意事項

設計図は、監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

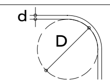
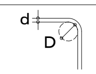
3　鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、３．１表及び３．２表を標準とする。
（１）Ｄは、折曲げ内法直径を示す。
（２）ｄは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

３．１表　鉄筋曲げ加工（１）

位　置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使用箇所	
末端部	１８０°	 ４ｄ以上かつ６０mm以上	５ｄ以上	定着末端部	
	１３５°	 ６ｄ以上かつ６０mm以上	５ｄ以上	スターラップ、帯鉄筋、フープ筋　等	
	９０°		５ｄ以上		
	９０° １３５°		５ｄ以上	梁	幅止め鉄筋
	９０°			壁	
				床版 底版	
中間部	９０°		５ｄ以上	あばら筋、帯筋 スパイラル筋	
	θ＜９０°		１０ｄ以上	折曲げ鉄筋	

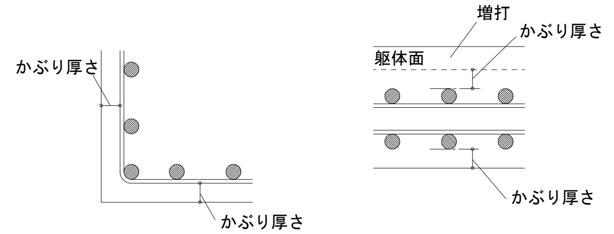
３．２表　鉄筋曲げ加工（２）

位　置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使用箇所
最上階	９０°		２０ｄ以上	ラーメン隅角部
一般階	９０°		５ｄ以上	

4　鉄筋のかぶり及び間隔

4．1　かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋を除く）の外面から躯体面までの距離（４．１図）をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差１０mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



４．１図　鉄筋のかぶり厚さ

4．2　最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、４．１表による。
床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

４．１表　鉄筋の最小かぶり厚さ（mm）

※ 通常の施工の場合

環境＼部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中	５０	５０	－
水中・土中等	５０	７０	７０

・ 塩害対策地域の施工の場合

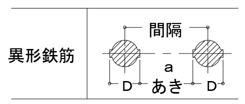
対策区分		環境＼部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
・	Ⅰ	大気中	７０	７０	－
		水中・土中等			７０
・	Ⅱ，Ⅲ	大気中	５０	７０	－
		水中・土中等			７０

１：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
２：杭基礎の底版・フーチング下端筋のかぶり厚さは、７.杭基礎の補強を参照する。

（注）梁：大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

4．3　鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあき（ａ）は、下記（１），（２），（３）の最大値以上とする。
なお、柱部材を設ける場合は、構造細目共通図（複合構造物）（２）を参照すること。
（１）粗骨材の最大寸法の 4/3 倍
（２）最小のあき２０mm
（３）異形鉄筋の直径（呼び名）



（注）Ｄ：鉄筋の最外径　ｄ：鉄筋直径（呼び名）

４．２図　鉄筋のあき

5　鉄筋の継手及び定着

5．1　鉄筋の継手及び定着

5．1．1　継手長及び定着長の基本

（１）鉄筋の重ね継手長さは５．１表、定着の長さは、５．２表による。
①本表の適用は、鉄筋種類ＳＤ３４５、鉄筋径Ｄ１３～Ｄ３２とする。
②定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。
③壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が１００mm未満の場合は、別途図示による。

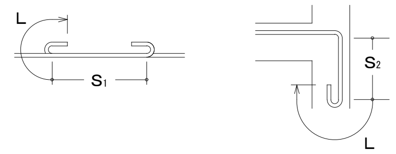
５．１表　鉄筋の重ね継手長さ

鉄筋の種類	鉄 筋 径	設計基準強度	S_1：重ね継手長			
			鉄筋中心間隔２００mm以上		１００mm以上２００mm未満	
			フックなし	フックあり	フックなし	フックあり
ＳＤ３４５	Ｄ１６以下	２４以上２７未満（N/mm²）	４０・ｄ	３０・ｄ	５０・ｄ	４０・ｄ
	Ｄ１９～Ｄ２２		４５・ｄ	３５・ｄ	６０・ｄ	５０・ｄ
	Ｄ２５以上		５０・ｄ	４０・ｄ	６５・ｄ	５５・ｄ

５．２表　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	鉄 筋 径	設計基準強度	S_2：定着長	
			フックなし	フックあり
ＳＤ３４５	Ｄ１６以下	２４以上２７未満（N/mm²）	４０・ｄ	３０・ｄ
	Ｄ１９～Ｄ２２		５０・ｄ	４０・ｄ
	Ｄ２５以上		６０・ｄ	５０・ｄ

（２）径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。
（３）継手は相互にずらすことを原則とする。
（４）フックのある場合の継手長及び定着長には、５．１図に示すようにフック部分Ｌを含まない。



５．１図　フックのある場合の定着及び継手要領

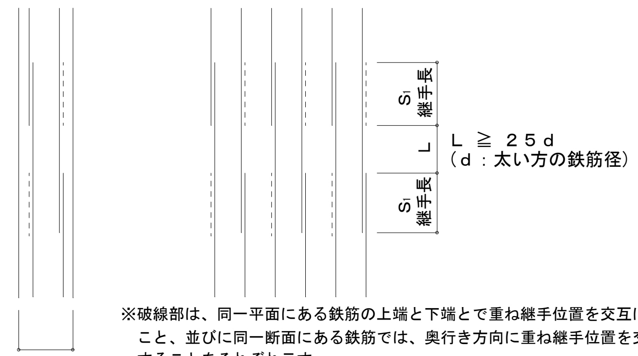
5．1．2　継手の特記事項

（１）　継手は極力応力の小さい位置に設ける。
（２）　異なる径の鉄筋をガス圧接する場合、鉄筋径の差が５mmを超える圧接をしてはならない。

5．2　隣り合う継手の位置

5．2．1　鉄筋の重ね継手

（１）　同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
（２）　ずらす距離（Ｌ）は、太い方の鉄筋径の２５倍以上とする。
（３）　前記（１）を確保できない場合は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。
（４）　継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。



※破線部は、同一平面にある鉄筋の上端と下端とで重ね継手位置を交互にすること、並びに同一断面にある鉄筋では、奥行き方向に重ね継手位置を交互とすることをそれぞれ示す。

５．２図　重ね継手工法

起　工

年　度	令和 ７ 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　構造細目共通図（土木構造物）（1）		
縮　尺	A1：－　　A3：－	番号	１６
長崎県西海市			

ＡＷＳＣＪ（第５版）－０００－００５

５．２．２ 鉄筋のガス圧接および機械式継手

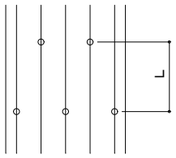
鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は土木学会「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」（土木学会）による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

（１）同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。

（２）ガス圧接の場合のずらす距離（Ｌ）は、太い方の鉄筋径の２５倍以上とする。

（３）機械式継手のずらす距離（Ｌ）は、太い方の鉄筋径の２５倍以上とする。

（４）機械式継手をイモ継ぎ部に使用する場合は、継手性能はＳＡ級かつ継手信頼度をI種とする。
Ⅰ種とする。



５．３図　ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

６　配筋要領

６．１　壁

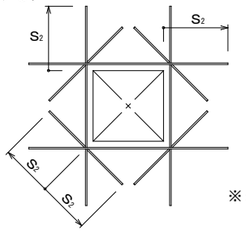
６．１．１ 一般事項

（１）壁の鉄筋の継手及び定着は、５．１項及び５．２項に基づくものとする。

（２）幅止め鉄筋の鉄筋径及び間隔は、図面による。

６．１．２ 壁開口部の補強

（１）壁開口部の補強は、図面による。補強鉄筋の長さ及び位置は、６．１図を標準とする。



※：鉄筋径及び本数は、図面による

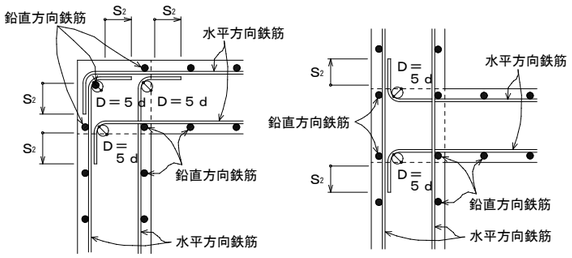
６．１図　壁開口部の補強要領

（２）開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強鉄筋を省略することができる。

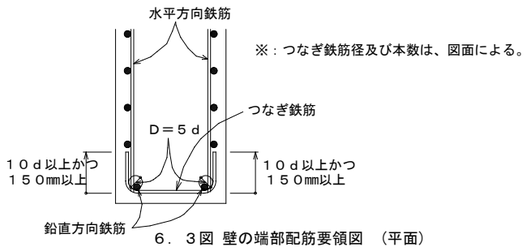
６．１．３ 壁と壁の交差部及び端部

（１）壁と壁の交差部の鉄筋加工要領は、６．２図による。

（２）壁の端部の鉄筋加工要領は、６．３図による。



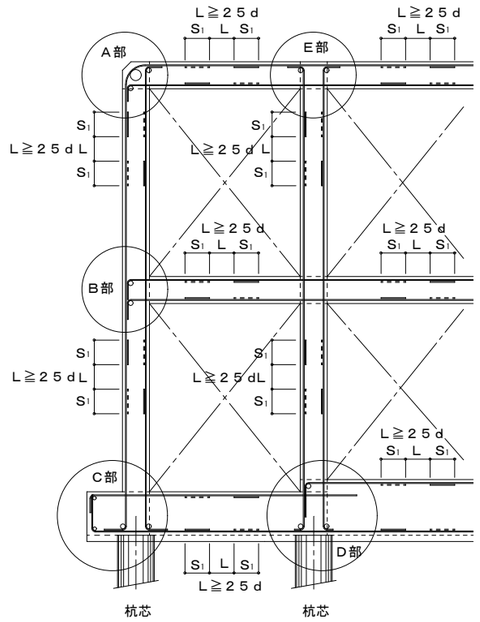
６．２図 壁と壁の交差部配筋要領図　（平面）



６．３図 壁の端部配筋要領図　（平面）

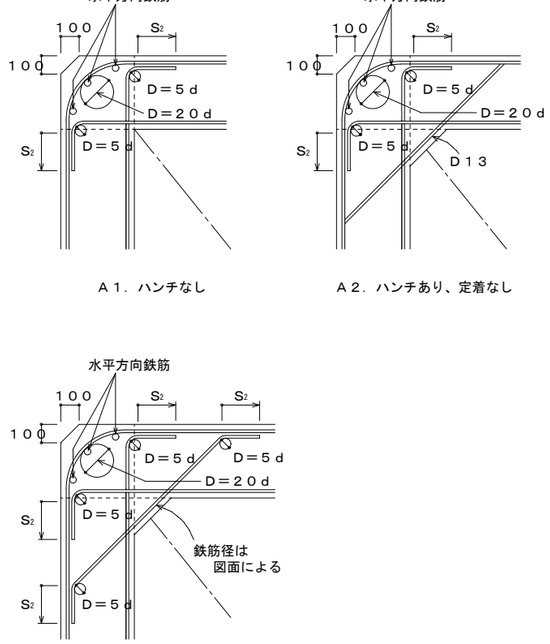
６．１．４ 壁と床版・底版の交差部

（１）壁と床版の交差部は、６．４図及び６．５図による。



注１：重ね継手は、応力の小さい位置とする。

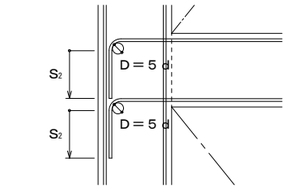
６．４図 壁と床版・底版の交差部配筋要領図　（断面）



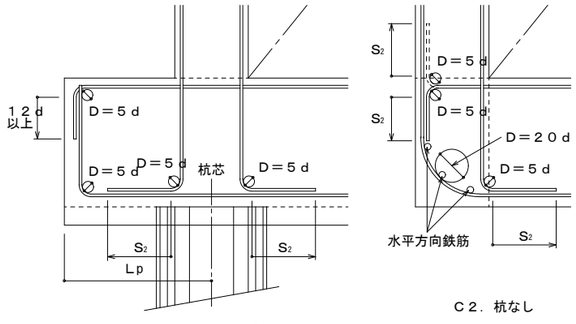
Ａ１．ハンチなし　　Ａ２．ハンチあり、定着なし

Ａ３．ハンチあり、定着あり

（１）Ａ部詳細図

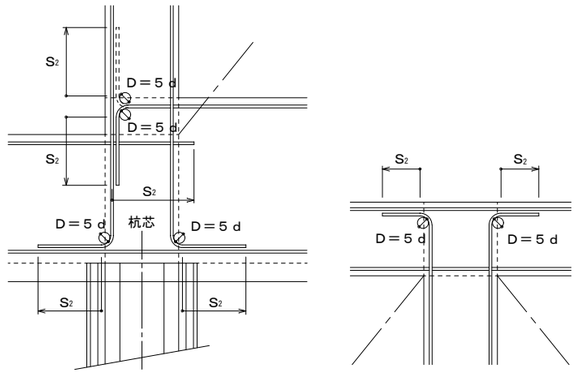


（２）Ｂ部詳細図



Ｃ１．杭あり　　Ｃ２．杭なし

（３） Ｃ部詳細図



※配筋要領は杭あり、杭なしとも同一

（４）Ｄ部詳細図　　（５）Ｅ部詳細図

凡例

・Ｄ：鉄筋の曲げ内法直径

・ｄ：鉄筋直径（呼び名）

・Ｓ ½Ｓ ： ５．１表のとおりであり、折曲げ加工後の直線長で確保する長さ

注１：Ａ部以外においてハンチを設ける場合は、ハンチ筋についてＡ部に準じた配筋とする。

注２：ハンチを設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はＡ２を、図面に指示がある場合はＡ３を適用する。

注３：Ｃ部の杭なしの場合、及びＤ部において、底版上端筋の曲げ定着は下方に取ることを原則とするが、部材厚等の関係で直線状にS2 定着長が確保できない場合は、上方に取ることでよいものとする。

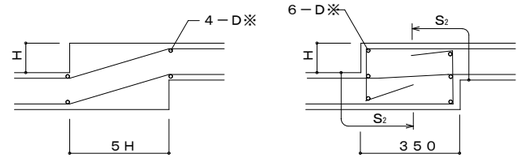
注４：Ｌp は、場所打杭・打ち込み杭・埋め込み杭は１．０Ｄ（Ｄは杭径）以上とする。

６．５図 壁と床版・底版の交差部配筋詳細図　（断面）

６．２　床

６．２．１ 段差床版の補強

（１）同一床版に段差がある場合、６．６図の補強を行う。

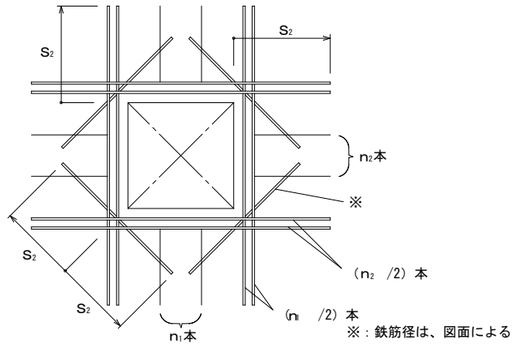


※：鉄筋径は、図面による。

６．６図　同一床版に段差がある場合の補強要領図（断面）

６．２．２ 床版開口部の補強

（１）床版開口部の補強は開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には斜め方向に主鉄筋径以上の鉄筋を上下筋の内側に配筋する。（６．７図）

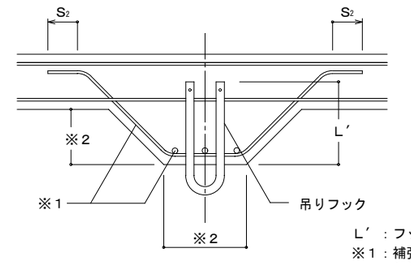


※：鉄筋径は、図面による

６．７図　床版開口部の補強要領図（平面）

（２）開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強鉄筋を省略することができる。

６．２．３ 吊りフックが取り付く場合の補強



L′：フック埋め込み長さ

※１：補強鉄筋は、図面による

※２：部材寸法は、図面による

６．８図　吊りフック取り付け部補強要領図（断面）

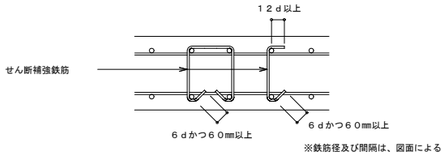
起　工

年　度	令和 ７ 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　構造細目共通図（土木構造物）（2）
縮　尺	A1：－　A3：－ / 番号 １７
長崎県西海市	

６．３　せん断補強鉄筋

６．３．１　底版・床版

（１）底版・床版のせん断補強要領は６．９図及び６．１１図による。

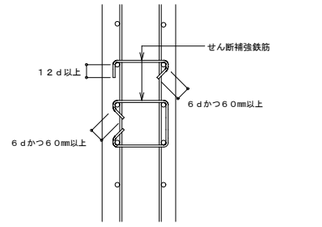


※鉄筋径及び間隔は、図面による

６．９図　底版・床版せん断補強要領図（断面）

６．３．２　壁

（１）壁のせん断補強要領は、６．１０図及び６．１１図による。



※鉄筋径及び間隔は、図面による

６．１０図　壁せん断補強要領図（断面）

D＝５ｄ
D：曲げ内法直径
ｄ：せん断補強鉄筋直径（呼び名）

６．１１図　せん断補強鉄筋加工要領図（断面）

６．４　柱及び梁

柱及び梁を設ける場合の配筋要領は、図面による。

７　　杭基礎の補強

７．１　一般事項

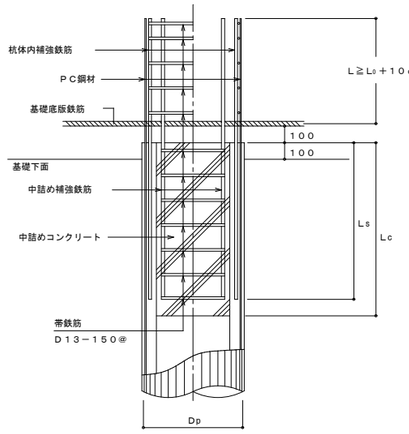
（１）補強鉄筋にＳＤ３９０またはＳＤ４９０を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計規準強度を３０Ｎ/㎜ 以上とする。

（２）鉄筋種別、径・本数は、図面による。

（３）杭基礎の補強鉄筋の定着長Ｌ は、SD３４５及びＳＤ３９０では３５ｄ以上、ＳＤ４９０では４１ｄ以上とする。

（４）杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、７．６図による。

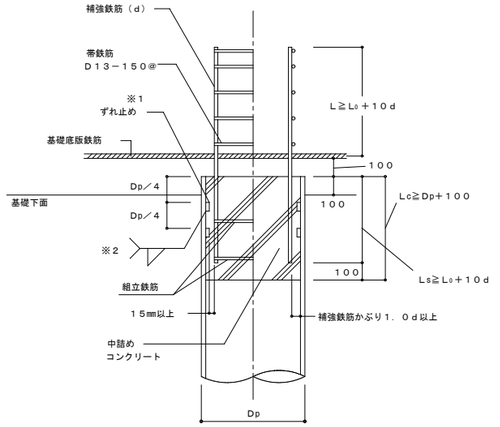
（５）杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



杭頭処理形態		Ｔｙｐｅ　Ｂ
カットオフする場合	鉄筋	Ls≧５０φ＋L₀＋１０ｄ
	コンクリート	Lc≧２．５Dp＋１００、かつ５０φ＋L₀＋１０ｄ＋（かぶり１００）
カットオフしない場合	鉄筋	Ls≧L₀＋１０ｄ
	コンクリート	Lc≧２．５Dp＋１００、かつL₀＋１０ｄ＋（かぶり１００）

注１．φは、ＰＣ鋼材径とする。

７．１図　ＰＨＣ杭の杭頭補強



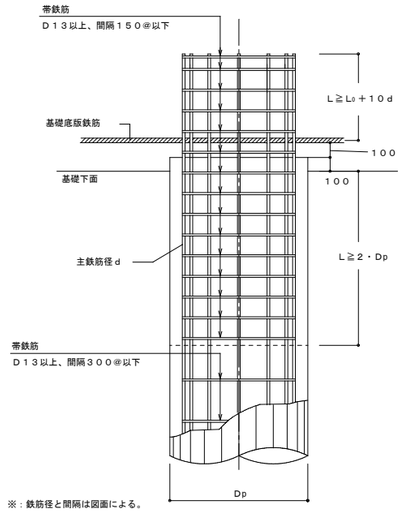
※１：ずれ止めの大きさは、７．１表による。
※２：全周現場すみ肉溶接

７．２図　鋼管杭の杭頭補強

７．１表　杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

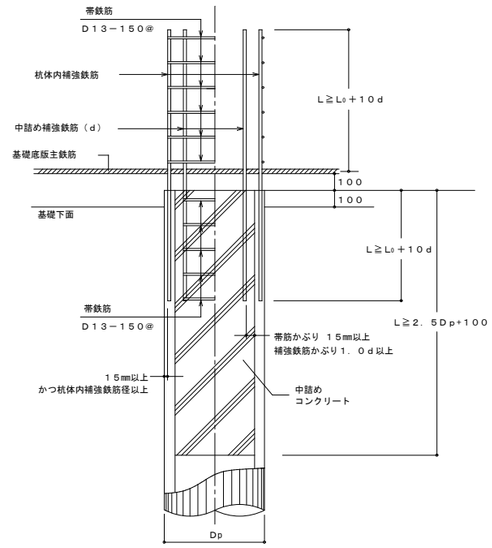
杭　径　（Dp）	ずれ止め厚さ
Dp＜８００	９
８００≦Dp＜１２００	１２
１２００≦Dp＜１５００	１６

※材質はＳＳ４００

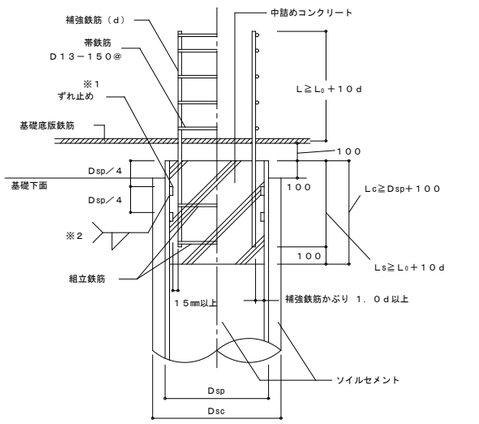


※：鉄筋径と間隔は図面による。

７．３図　場所打ち杭の杭頭補強

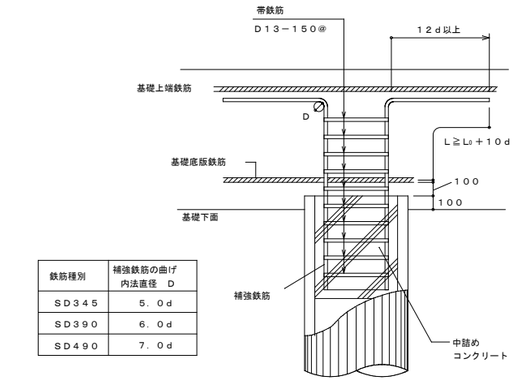


７．４図　ＳＣ杭の杭頭補強



※１：ずれ止めの大きさは、７．１表による。
※２：全周現場すみ肉溶接

７．５図　鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強



鉄筋種別	補強鉄筋の曲げ内法直径　D
ＳＤ３４５	５．０ｄ
ＳＤ３９０	６．０ｄ
ＳＤ４９０	７．０ｄ

７．６図　杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

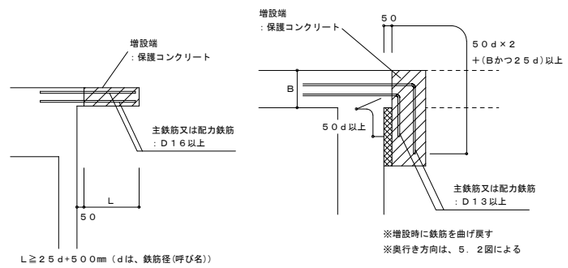
８　　増設予定端

８．１　増設予定端の配筋

（１）増設端鉄筋の継手工法は、Ｄ１６以上をガス圧接、Ｄ１３を重ね継手とすることを原則とし、８．１図のａ）、ｂ）による。部材寸法及び鉄筋の径と間隔は図面による。

（２）増設端の鉄筋を保護するコンクリート強度は１８Ｎ/㎜ とする。

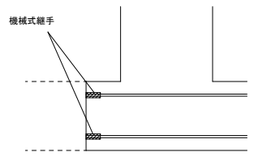
（３）Ｄ１３以上の鉄筋について機械式継手を用いる場合は、８．１図のｃ）による。機械式継手の仕様は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」（土木学会）によるものとし、継手部の詳細及び継手単体に必要な特性を図面に示す。



ａ）ガス圧接継手の場合

※増設時に鉄筋を曲げ戻す
※奥行き方向は、５．２図による

ｂ）重ね継手の場合



ｃ）機械式継手（Ａ級以上）

※鉄筋径は図面による。

※機械式継手は、Ｄ１３以上を対象とする。

※機械式継手をイモ継ぎに使用する場合は、構造計算書等により当該箇所に塑性ヒンジが発生しないことを確認する必要がある。施工上やむを得ず機械式継手によるイモ継ぎとなる場合は、継手部が所要の耐震性を有していることを、適切な実験や解析等で照査しなければならない。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]（土木学会）」による。

８．１図　増設予定端配筋要領図（断面）

起　工	年　度	令和　７　年度		
	工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
	図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　構造細目共通図（土木構造物）（３）		
	縮　尺	A1：－　　A3：－	番号	１８
	長崎県西海市			

９　耐震補強

９．１　適用範囲

（１）本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。

（２）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

１）土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	（別紙による。）
２）土木工事共通仕様書	国土交通省**地方整備局	（令和 6 年版）
３）コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	（2017年版）
４）コンクリート標準示方書・構造性能照査編	土木学会	（2002年版）
５）官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説	建築保全センター	（平成 8 年版）
６）鉄筋定着・継手指針	土木学会	（2020年版）
７）2017年改訂版　既存鉄筋コンクリート造　建築物の耐震改修設計指針・同解説	日本建築防災協会	（2017年版）
８）あと施工アンカー連続繊維補強設計・施工指針	国土交通省	（2006年版）

９．２　鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は９．２表による。

９．２表　鉄筋の種類及び継手

	種　別	径
鉄筋の種類	※ ＳＤ３４５	※ Ｄ１３以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接　※１）	・ Ｄ１９以上の柱、梁主鉄筋 ・ Ｄ１６以上の増設端の床・壁鉄筋 ・
	フレアー溶接	・ Ｄ１３以上
	機械式継手	・ 図面による

※１）既存の鉄筋種別がＳＲ２３５，２９５及びＳＤ２９５Ａの場合は、ＳＤ材との継手にガス圧接を使用してはならない。

９．３　鉄筋の継手長及び定着長

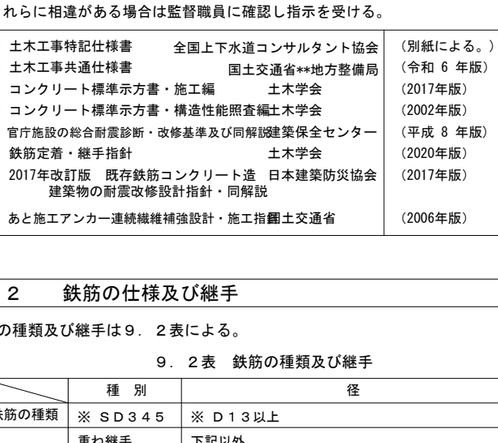
ＳＤ３４５以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

９．４　あと施工アンカー（接着系）

（１）アンカー径は、Ｄ１３以上、Ｄ２２以下とする。

（２）アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行うことを原則とする。

（３）アンカーの埋め込み・定着長さを９．４表に示す。



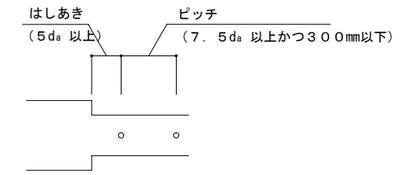
L　：コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
Le：アンカ-の有効埋め込み長さ
Ld　：アンカ-筋の全長
Ln：有効定着長さ
Da：既存コンクリート躯体への穿孔径
da　：アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名
Si　：補強筋との継手長

９．４．１図　あと施工アンカー埋め込み・定着図

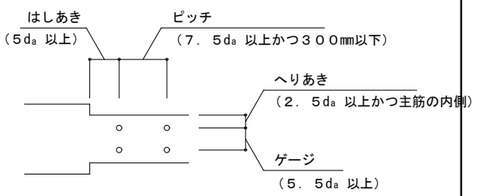
９．４表　あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区　分	位　置	用　途	長　さ	備　考
有効埋め込み長（Ｌe）	一般部	曲げモーメント	１２・da	先端形状45°カット
		せん断力	７・da	
	開口補強部	曲げモーメント	１２・da	
		せん断力	１０・da	
有効定着長（Ｌn）	一般部	－	２０・da	ナットあり
	開口補強部	－	Si ＋ ５・da	ナットなし

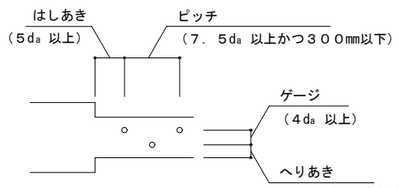
（あと施工アンカーの位置と間隔）



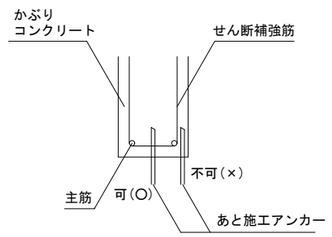
（ａ）シングル配置



（ｂ）ダブル配置



（ｃ）千鳥状配置



（ｄ）断面配置

９．４．２図　あと施工アンカー配置図

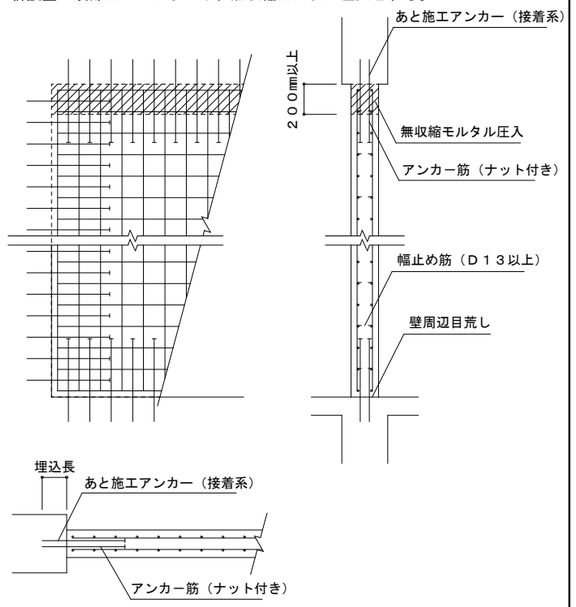
９．５　新設補強壁

（１）新設補強壁の配筋は９．５図を標準とする。

（２）新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。

（３）あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。

（４）新設壁の頂部２００㎜以上は、無収縮モルタル圧入とする。



９．５図　新設補強壁要領図

９．６　増打ち補強壁ほか

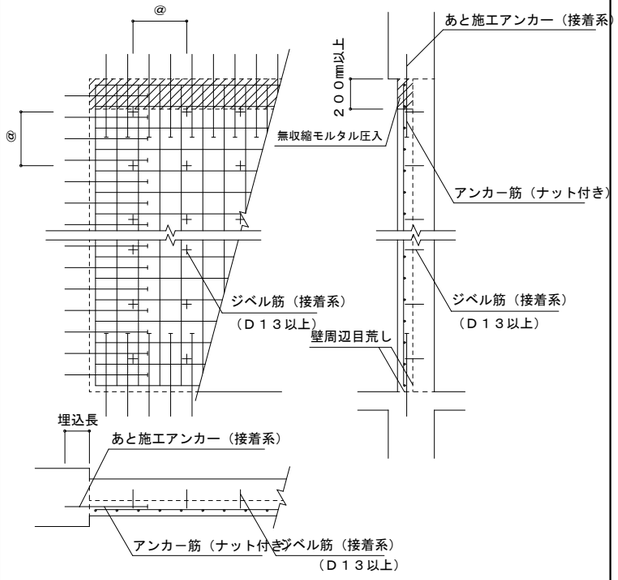
（１）増打ち補強壁の配筋は９．６図を標準とする。

（２）あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。

（３）増打ち部と接する既存の壁面を目荒しするほか、新旧の壁面にジベル筋を設けるものとし、配置間隔は図面による。

（４）増打ち壁の頂部２００㎜以上は、無収縮モルタル圧入とする。

（５）梁下端部や垂れ壁下端部の施工では、コンクリートのブリーディングや沈下を考慮して、打継目が一体となるように留意する。



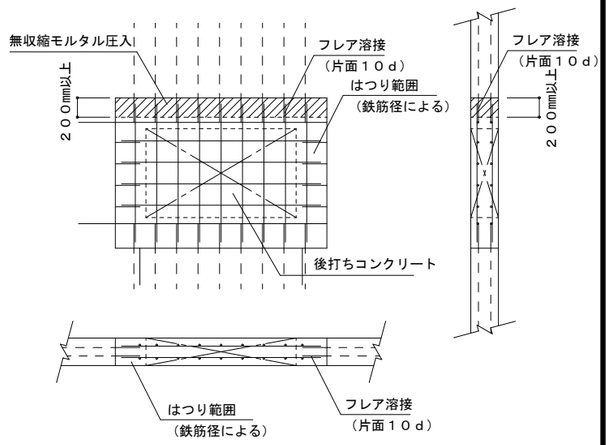
９．６図　増打ち補強壁要領図

９．７　開口閉塞

（１）既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。

（２）閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。

（３）閉塞部分の頂部２００㎜以上は、無収縮モルタル圧入とする。



はつり範囲例　㎜

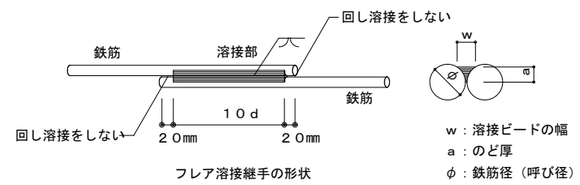
壁の鉄筋径	はつり幅
Ｄ１３	２００
Ｄ１６	２００
Ｄ１９	３００
Ｄ２２	３００
Ｄ２５	３００

９．７図　開口閉塞要領図

９．８　フレア溶接

（１）特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を９．８図に示す。
（詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」（土木学会）による。）

（２）継手長さは鉄筋径の１０倍とし、回し溶接は行わない。

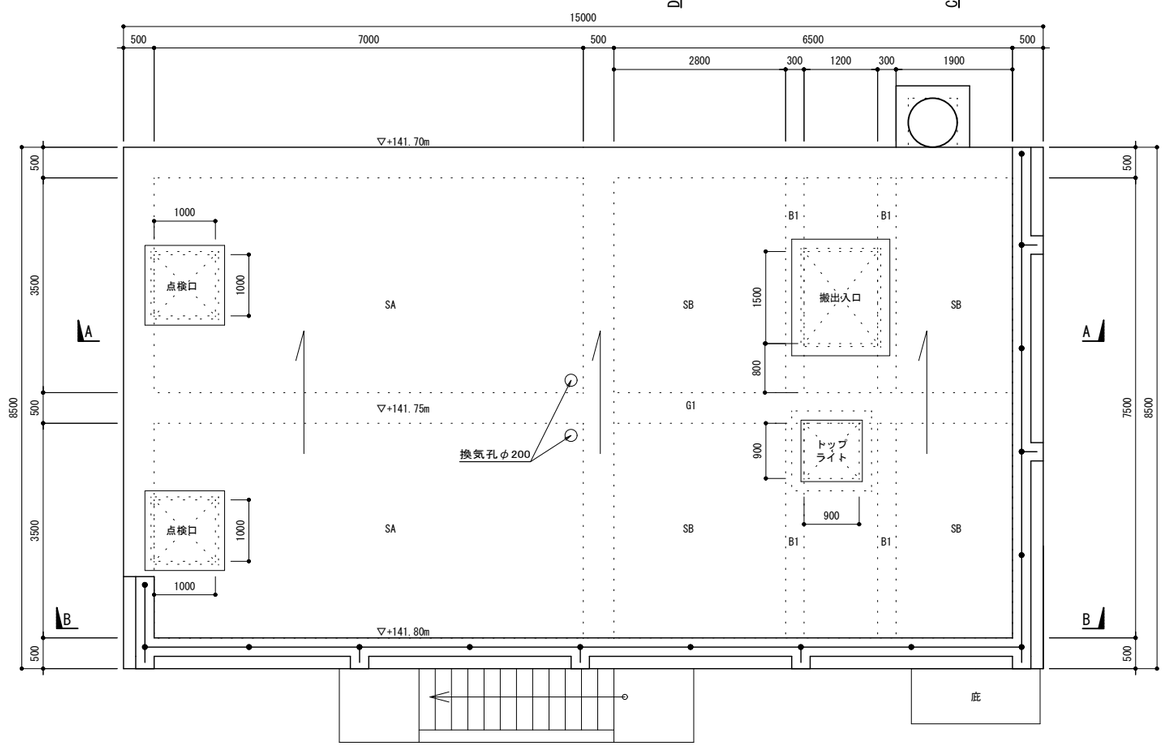


９．８図　フレア溶接継手形状

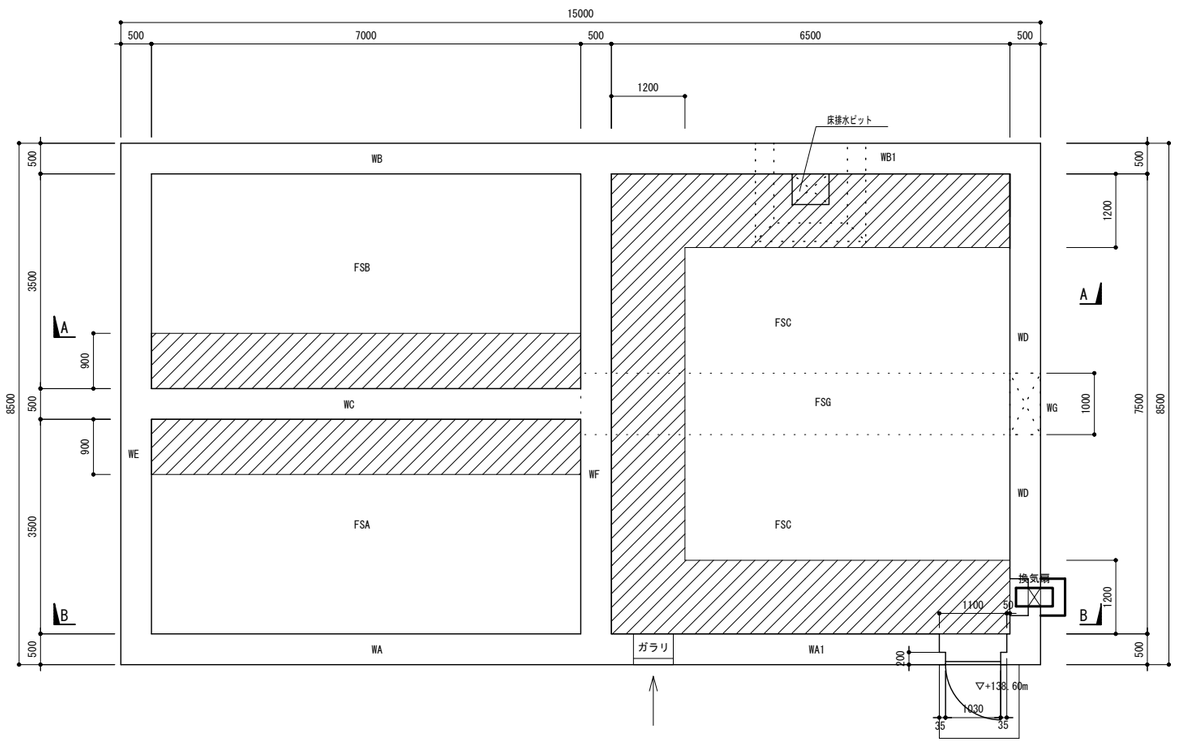
起　工

年　度	令和 ７ 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室　構造細目共通図（土木構造物）（4）
縮　尺	A1：－　A3：－　番号　１９
長崎県西海市	

浄水池・送水ポンプ室 配筋リスト図 (1)

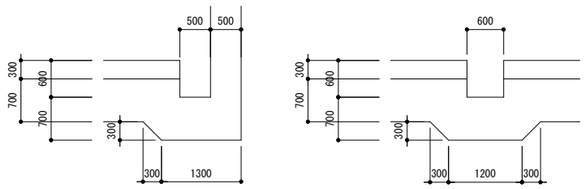


１Ｆ平面図　S=1/50



Ｂ１Ｆ平面図　S=1/50

せん断補強範囲 2.5-D13@200

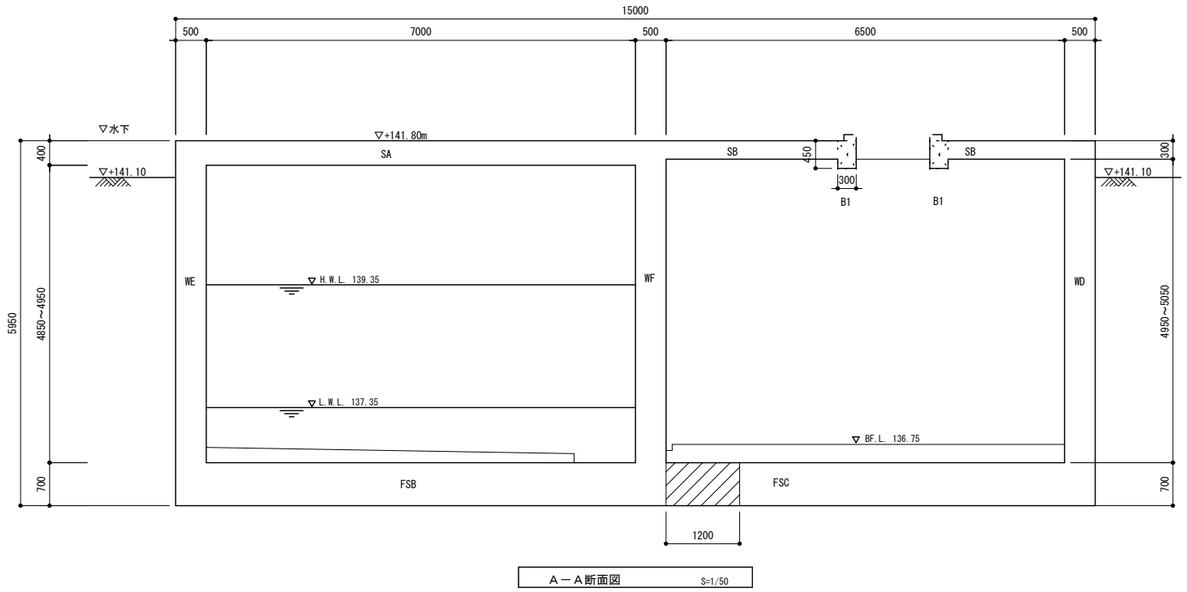


床排水ピット

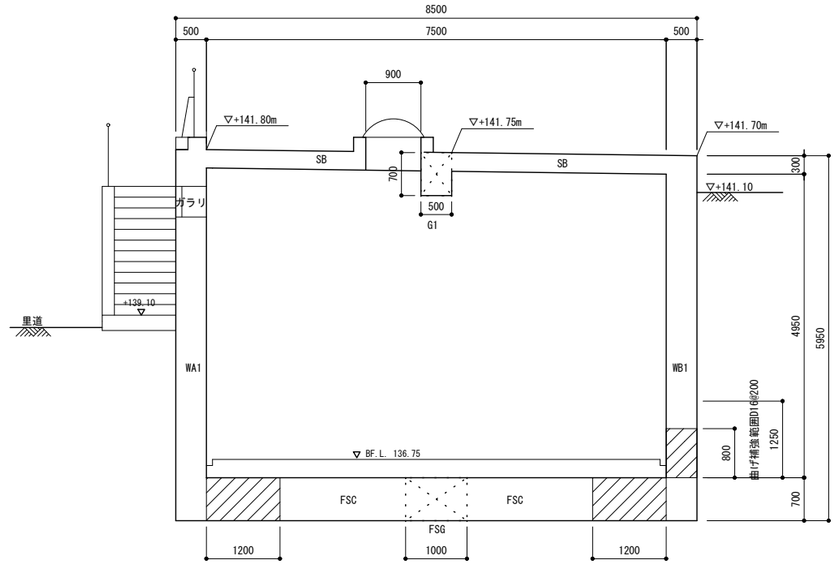
起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋リスト図 (1)
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100　番号　20
長崎県西海市	

浄水池・送水ポンプ室 配筋リスト図 (2)

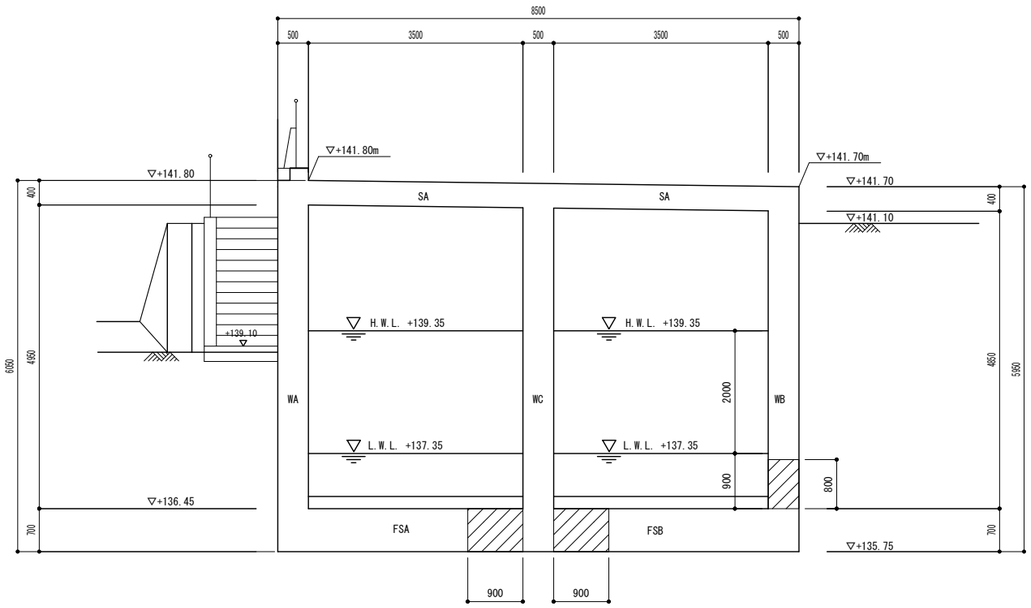


A－A断面図 S=1/50



D－D断面図 S=1/50

C－C断面図 S=1/50



E－E断面図 S=1/50

せん断補強範囲 2.5-D13@200

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋リスト図 (2)		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	21
長崎県西海市			

浄水池・送水ポンプ室 配筋リスト図 (3)

底版

符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	主筋方向 芯被り(cm)	主筋方向 端部	主筋方向 中央	主筋方向 中支点部	主筋方向 計算書	配力筋方向 芯被り(cm)	配力筋方向 端部	配力筋方向 中央	配力筋方向 計算書
FSA FSB	70	100	上筋	10	D19@200	←	←	E-E	12	D19@200	←	
			下筋	10	D19@200	←	←		12	D19@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		－	－	2.5-D13@200		－	－	－	
FSC	70	100	上筋	10	D19@200	←	←	A-A	12	D19@200	←	D-D
			下筋	10	D19@200	←	←		12	D19@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		2.5-D13@200	－	－		－	中端部のみ 2.5-D13@200	－	

床版

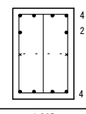
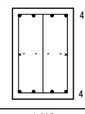
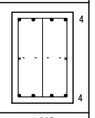
符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	主筋方向 芯被り(cm)	主筋方向 端部	主筋方向 中央	主筋方向 計算書	配力筋方向 芯被り(cm)	配力筋方向 端部	配力筋方向 中央	配力筋方向 計算書
SA	40	100	上筋	8	D16@200	←	E-E	10	D16@200	←	
			下筋	8	D16@200	←		10	D16@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		－	－			－	－	
SB	30	100	上筋	8	D13@200	←	D-D	10	D13@200	←	A-A
			下筋	8	D13@200	←		10	D13@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		－	－			－	－	

壁

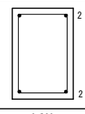
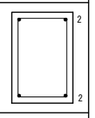
符号	版厚 (cm)	版幅 (cm)	区分	鉛直方向 芯被り(cm)	鉛直方向 下部	鉛直方向 中央	鉛直方向 上部	鉛直方向 計算書	水平方向 芯被り(cm)	水平方向 端部	水平方向 中央	水平方向 計算書
WA WA1	50	100	外筋	10	D19@200	←	←	E-E D-D	12	D16@200	←	
			内筋	10	D16@200	←	←		12	D16@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		－	－	－			－	－	
WB	50	100	外筋	10	D19@200	←	←	E-E	12	D16@200	←	
			内筋	10	D16@200	←	←		12	D16@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		2.5-D13@200	－	－			－	－	
WB1	50	100	外筋	10 10	D16@200 D19@200	D19@200	D19@200	D-D	12	D16@200	←	
			内筋	10	D16@200	←	←		12	D16@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		2.5-D13@200	－	－			－	－	
WC WF	50	100	縦筋	10	D16@200	←	←	E-E WF	12	D16@200	←	
			縦筋	10	D16@200	←	←		12	D16@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		－	－	－			－	－	
WD WE WG	50	100	外筋	10	D16@200	←	←	WD WE	12	D16@200	←	
			内筋	10	D16@200	←	←		12	D16@200	←	
			ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ		－	←	←			－	←	

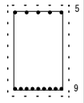
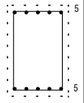
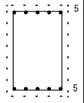
注）外筋は土側、内筋は池側の鉄筋を示す。

梁リスト

符　号	G1		
b x d	500x700	←	←
位　置	中端部	中央	外端部
上　筋	6-D25	4-D25	4-D25
上筋被り(cm)	9	←	←
断　面			
下　筋	4-D25	4-D25	4-D25
下筋被り(cm)	9	←	←
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	3-D13@200	←	←
腹　筋	2-D13	←	←
備　考			

小梁リスト

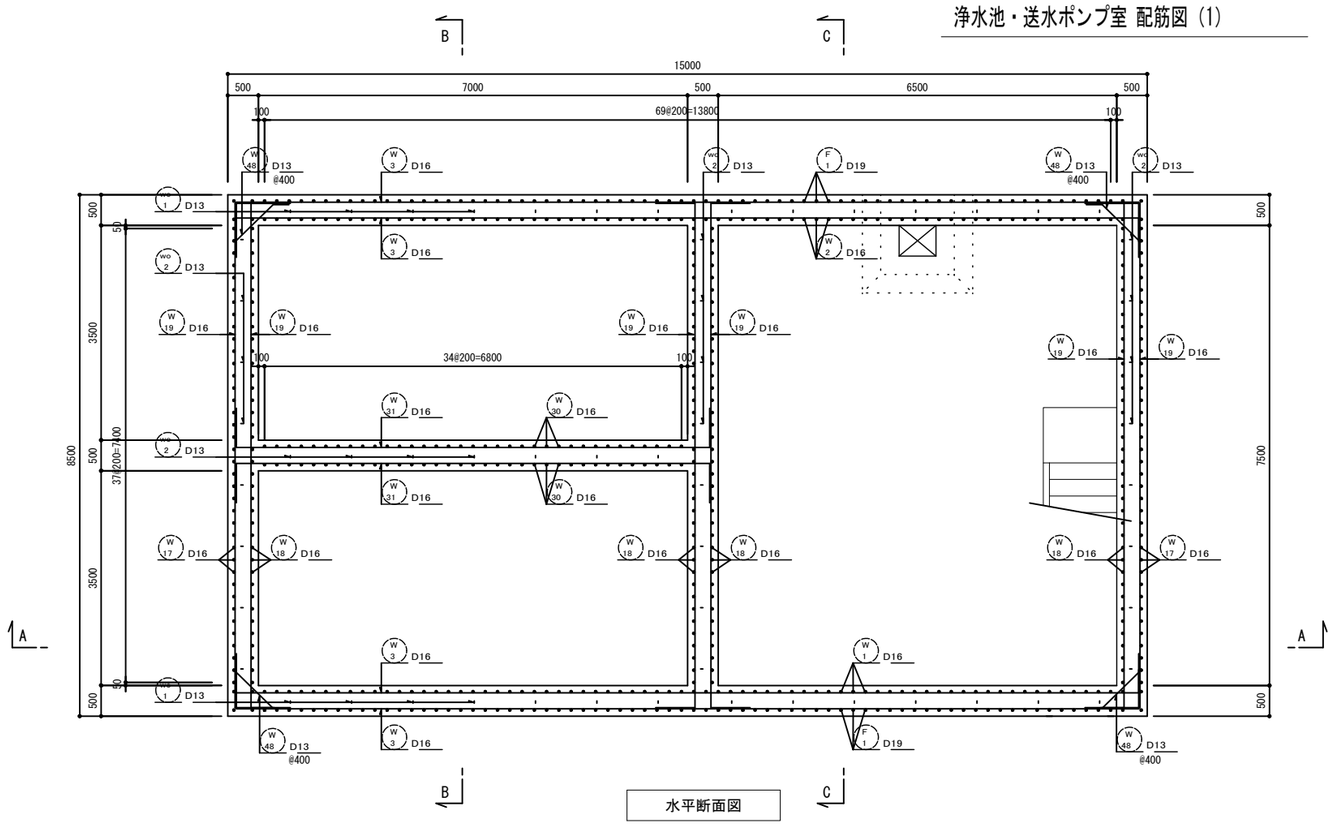
符　号	B1	
b x d	300x450	←
位　置	端部	中央
上　筋	2-D22	←
上筋被り(cm)	9	←
断　面		
下　筋	2-D22	←
下筋被り(cm)	9	←
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	2-D13@200	←
腹　筋	－	－
備　考		

符　号	FSG		
b x d	1000x700	←	
位　置	中端部	中央	外端部
上　筋	5-D19	←	←
上筋被り(cm)	10	←	←
断　面			
下　筋	9-D19	5-D19	←
下筋被り(cm)	10	←	←
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	2-D13@200	←	←
腹　筋	－	－	－

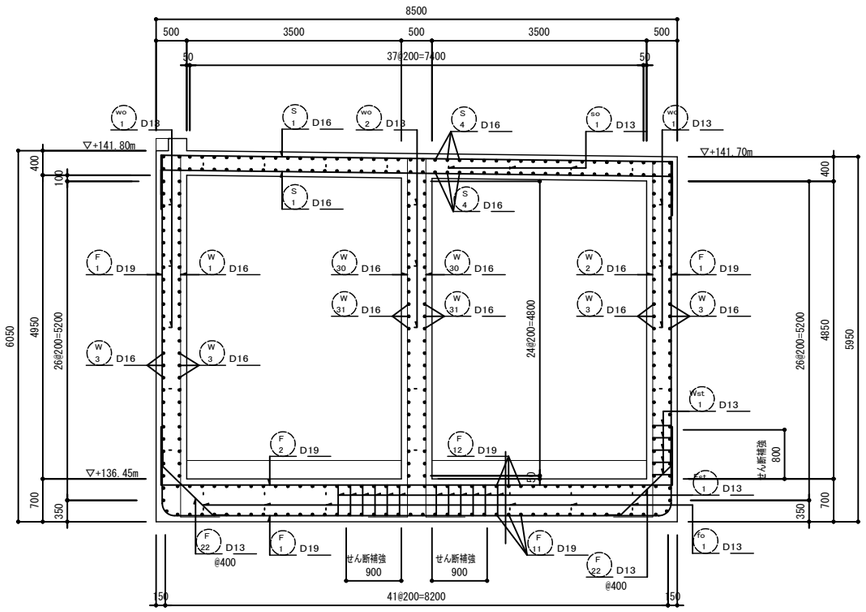
起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋リスト図 (3)
縮　尺	――― 番号 22
長崎県西海市	

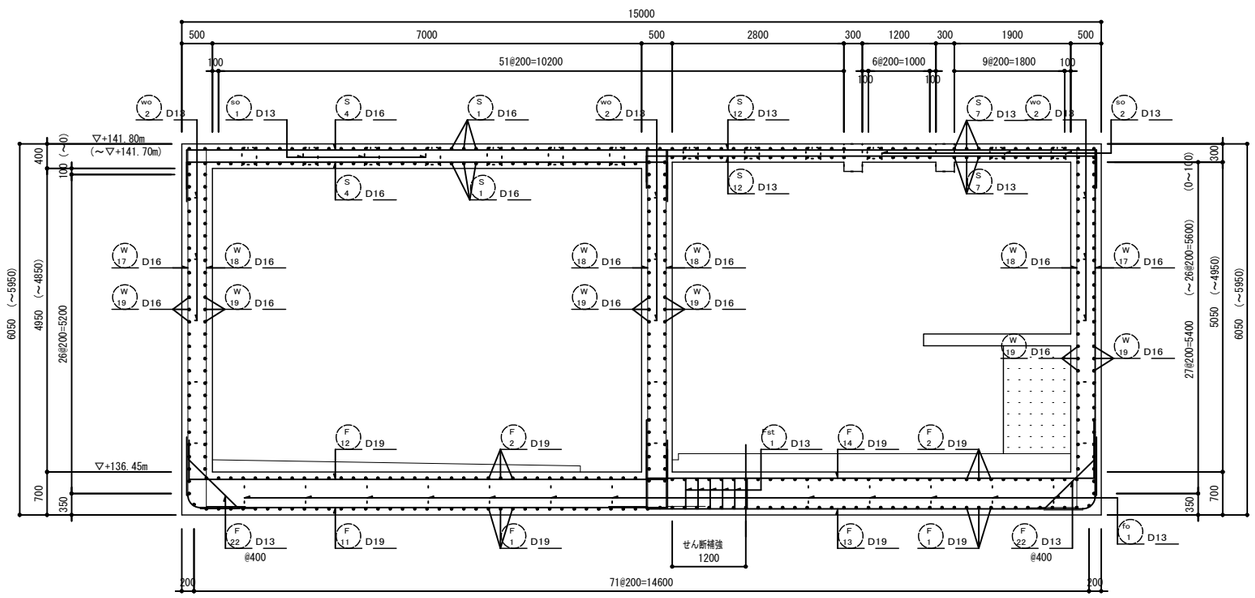
浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (1)



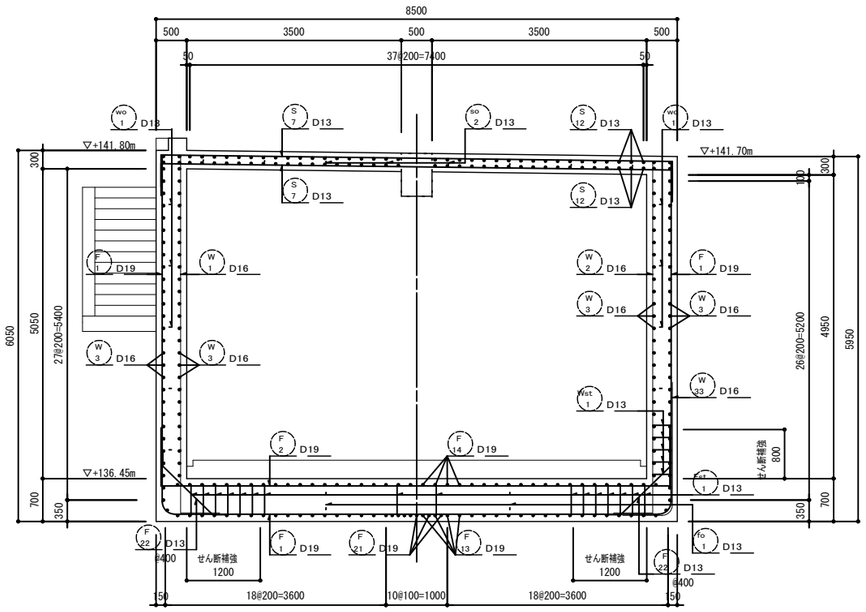
水平断面図



B-B 断面図



A-A 断面図



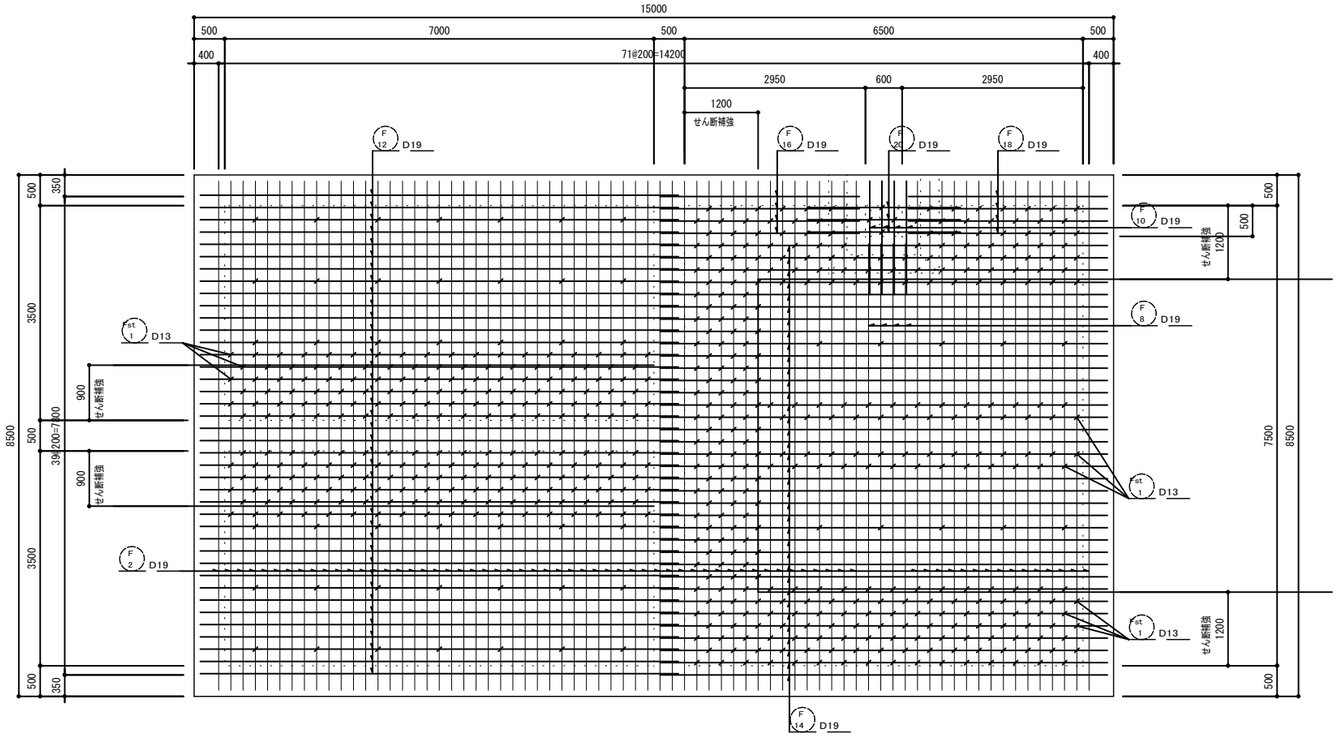
C-C 断面図

起 工

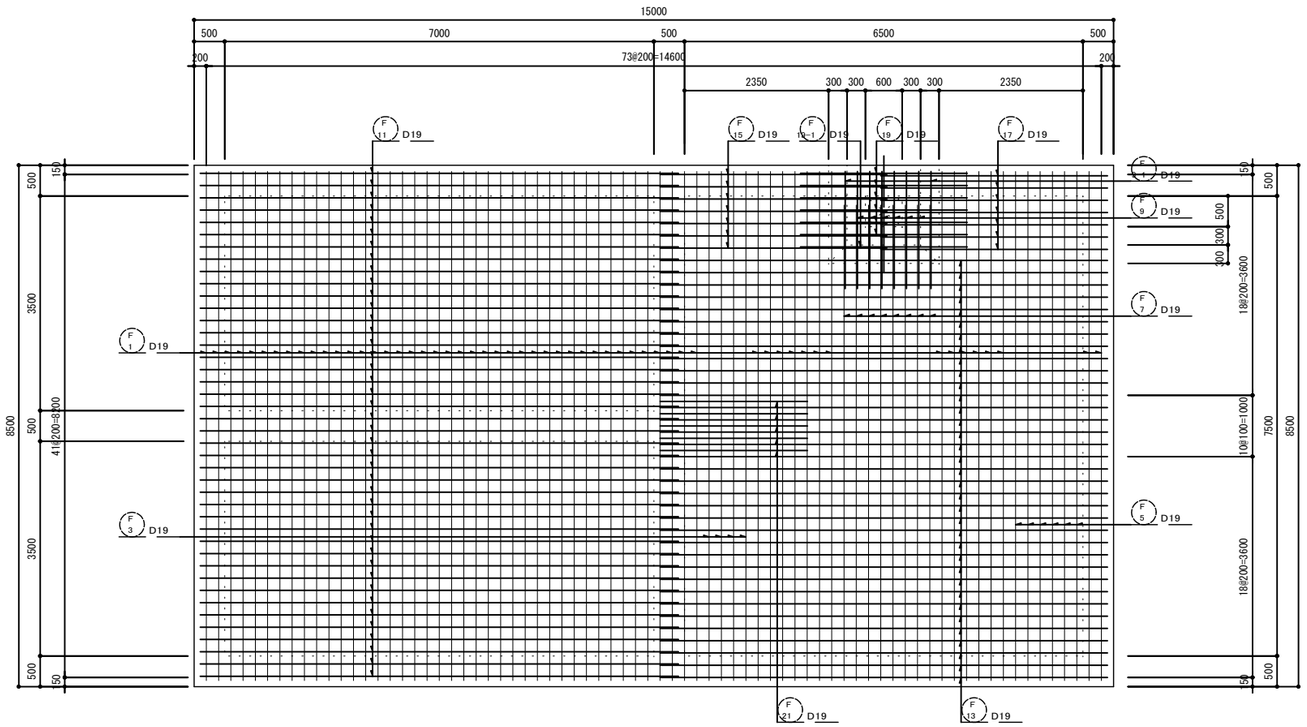
年 度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (1)
縮 尺	A1：1/50 A3：1/100
番号	23

長崎県西海市

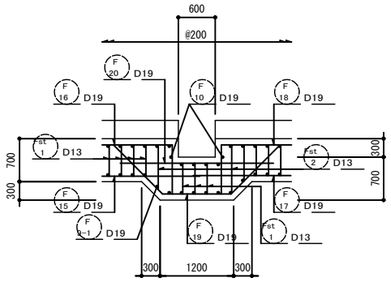
浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (2)



底版展開図（上面）

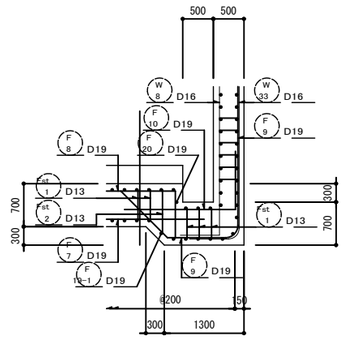


底版展開図（下面）



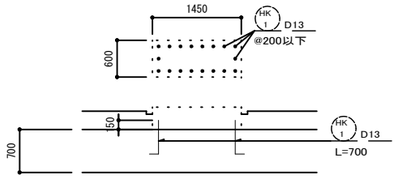
D-D 断面図

（床排水ﾋﾟｯﾄ部）



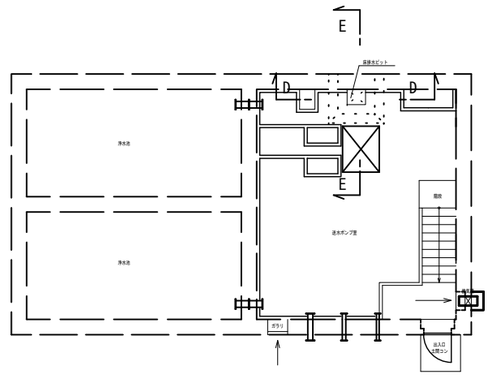
E-E 断面図

（床排水ﾋﾟｯﾄ部）



機械基礎差し筋

PM-B-1, B-2　2ヶ所



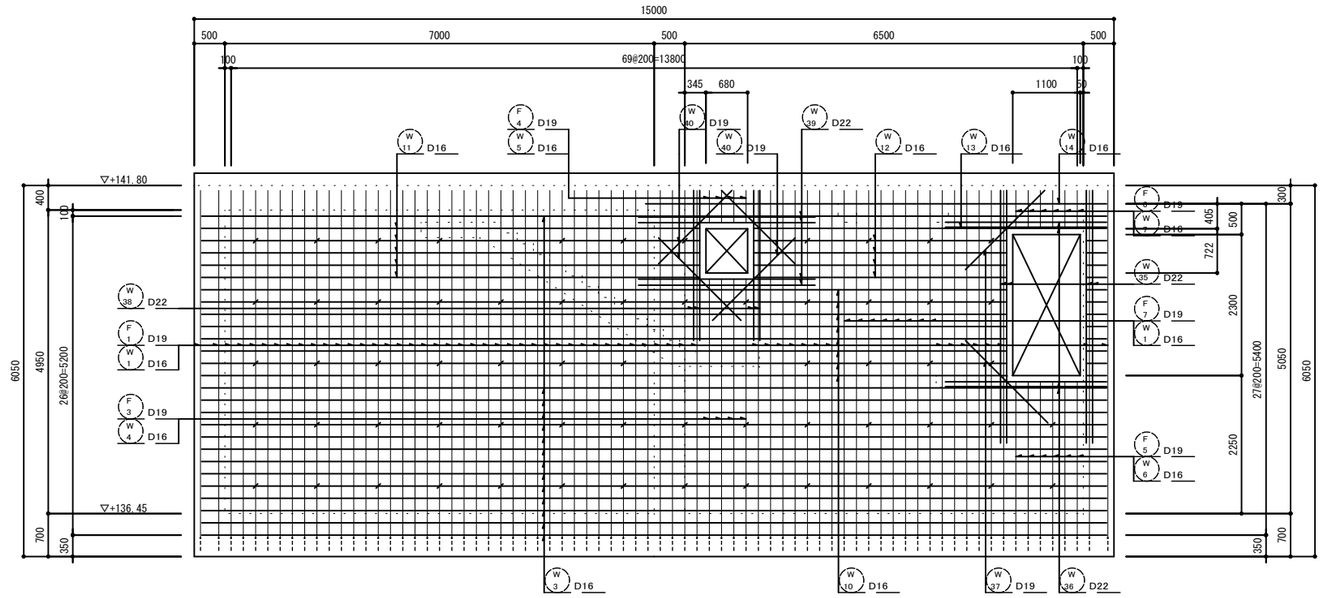
キープラン

起　工

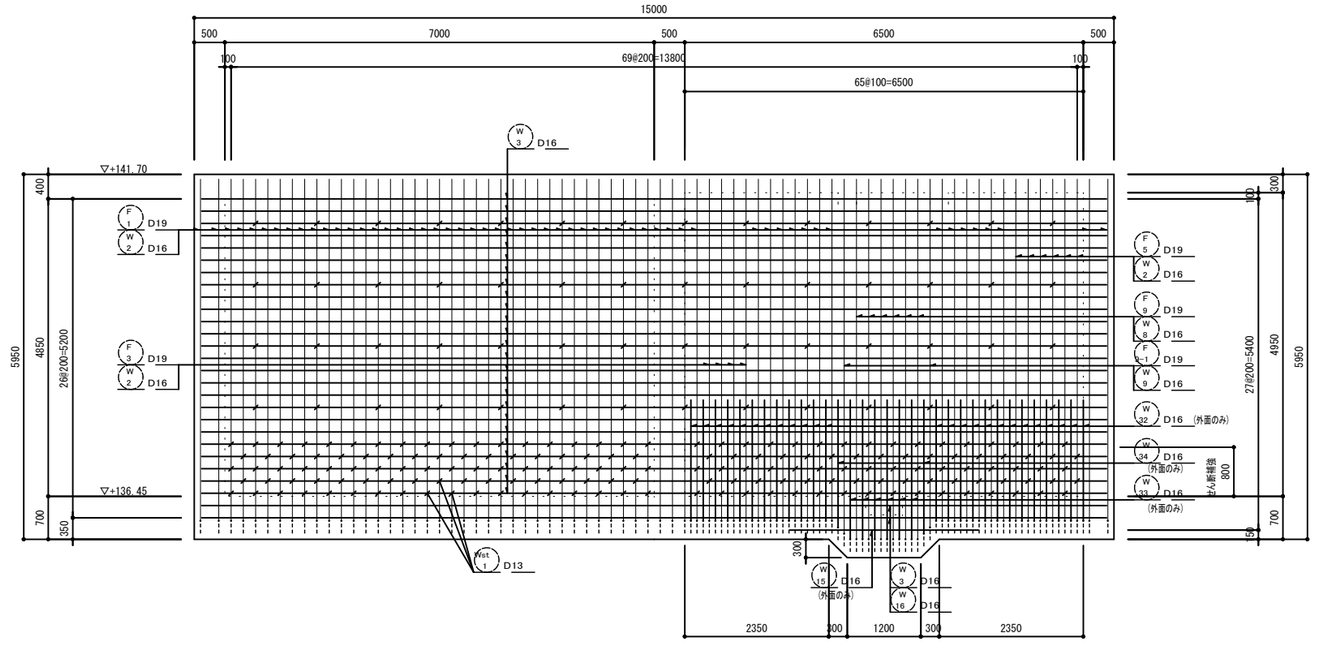
F 4 D19
F 6 D19　F-F展開図参照

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (2)
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100　番号　24
長崎県西海市	

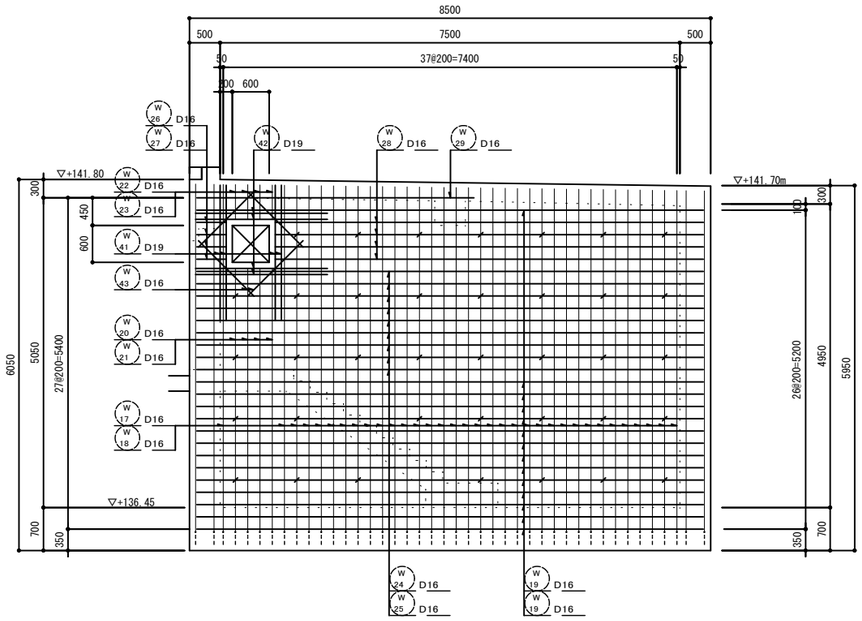
浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (3)



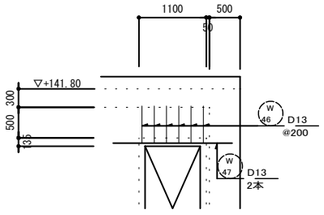
F-F 展開図（外面）



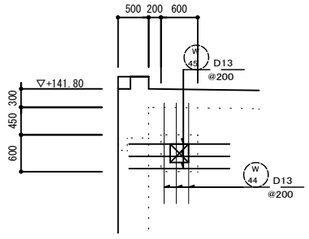
G-G 展開図（外面）



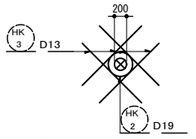
H-H 展開図（外面）



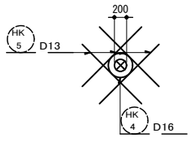
扉開口上部 展開図
（900×2100）



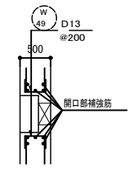
換気扇部 展開図



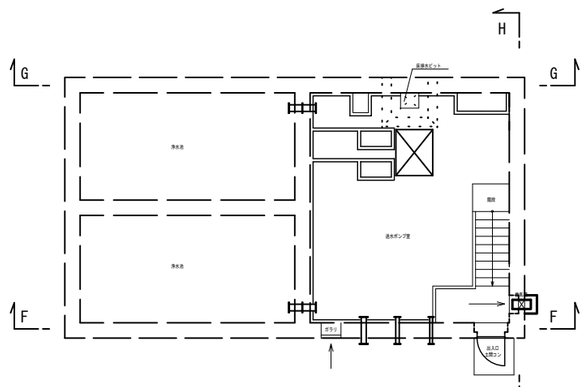
埋込配管補強筋
流入管①② φ200 ×2ヶ所



埋込配管補強筋
PM-P-1,P-2 φ200 ×2ヶ所



開口部補強筋



キープラン

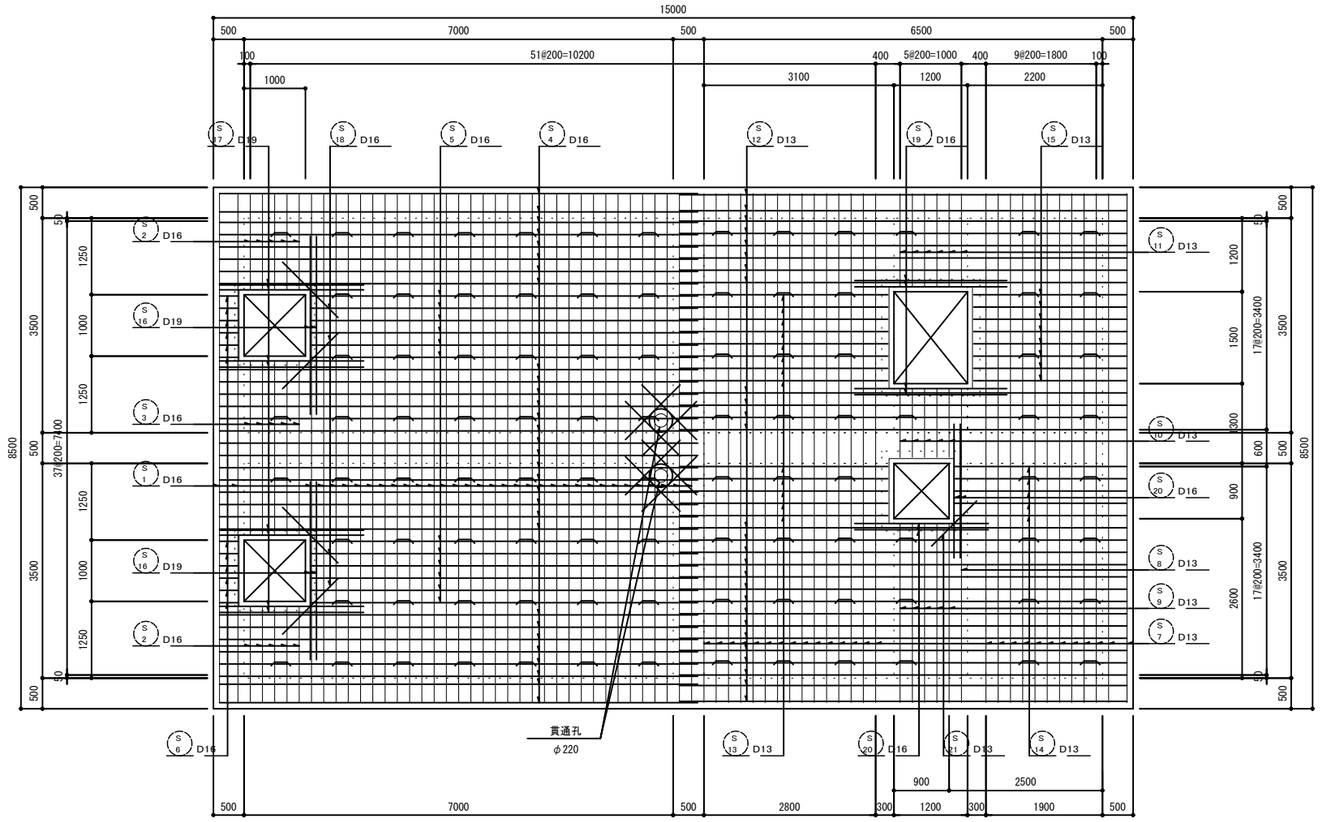
注）下段　(印)は，反対面を示す
注）特記なき1段引出しは、反対面も同じを示す

起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (3)
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100
番号	25

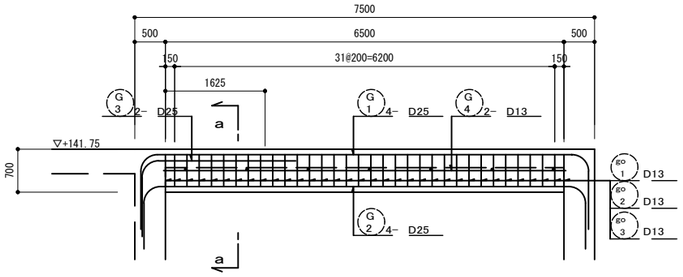
長崎県西海市

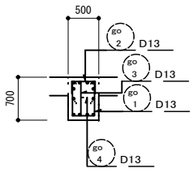
浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (4)



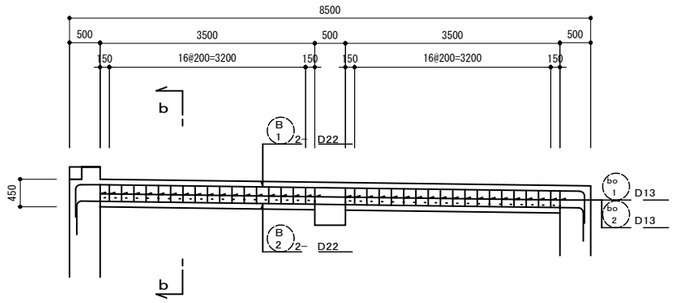
床版展開図（上面）

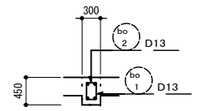
注）特記なき1段引き出しは、反対面も同じを示す



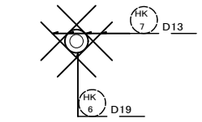


a－a断面図



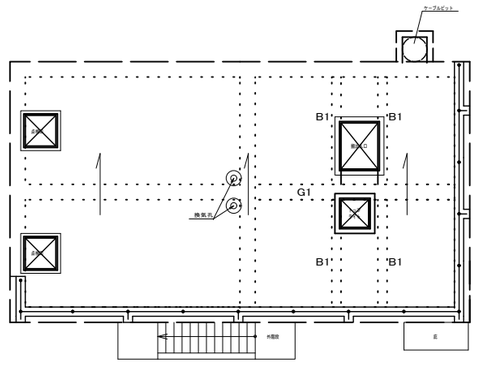


b－b断面図



貫通孔補強筋

φ220 ×2ヶ所
上下面に配置

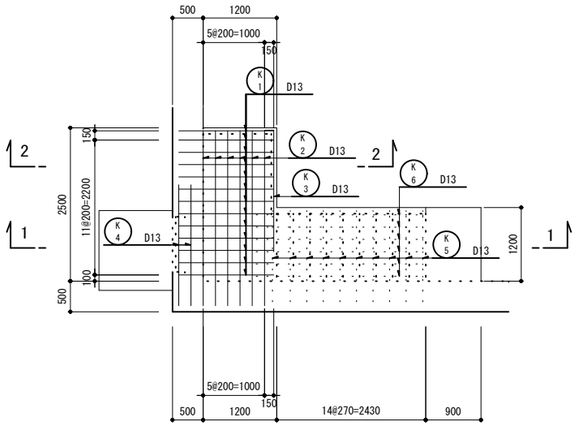


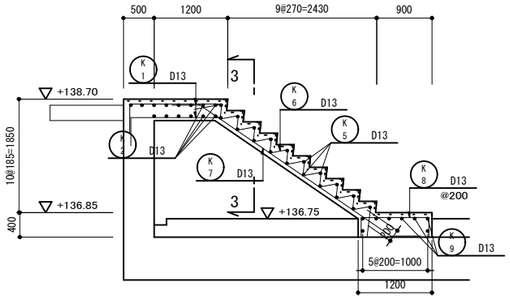
キープラン

起　工

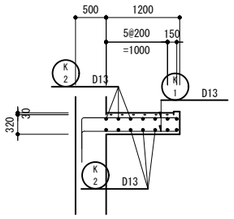
年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (4)		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	26
長崎県西海市			

浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (5)

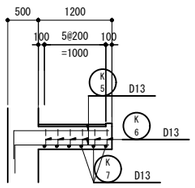




1－1断面図

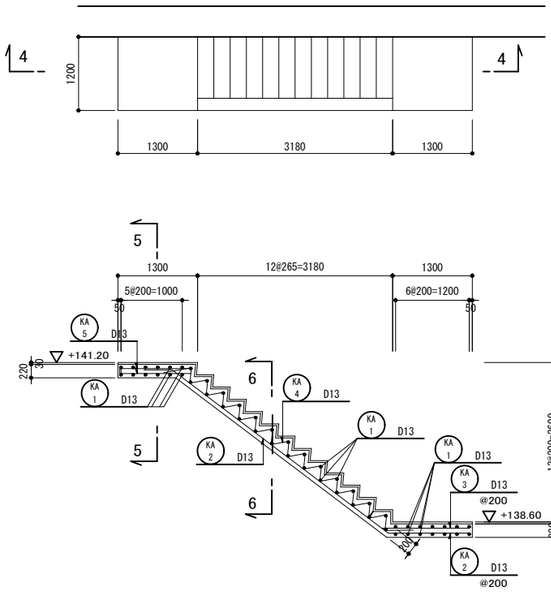


2－2断面図



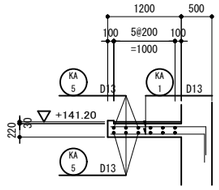
3－3断面図

階段

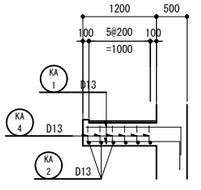


4－4断面図

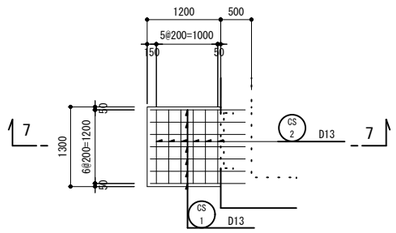
外階段



5－5断面図

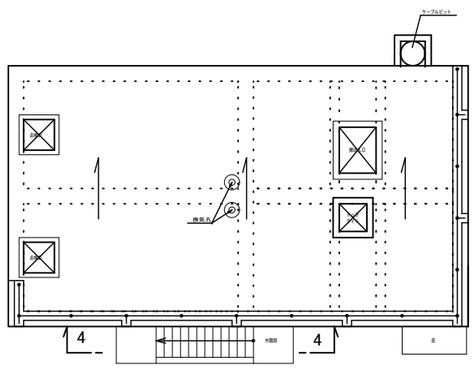


6－6断面図



7－7断面図

出入口土間コン

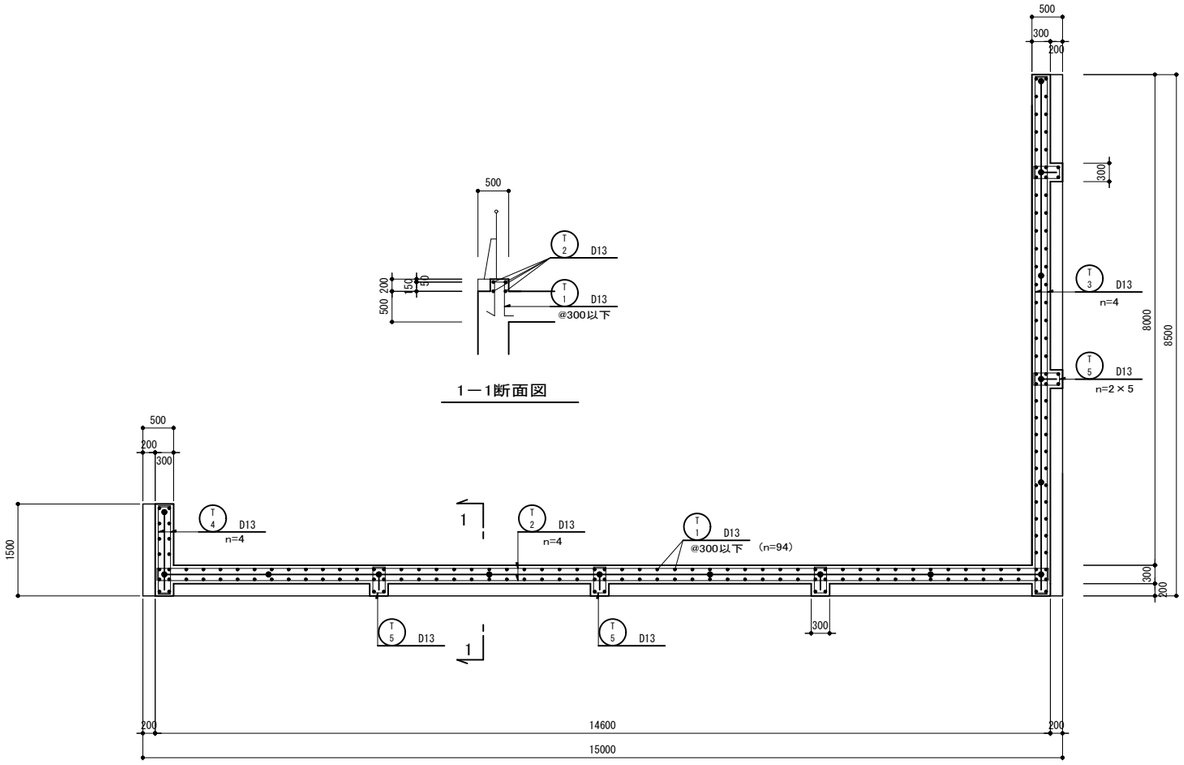


キープラン

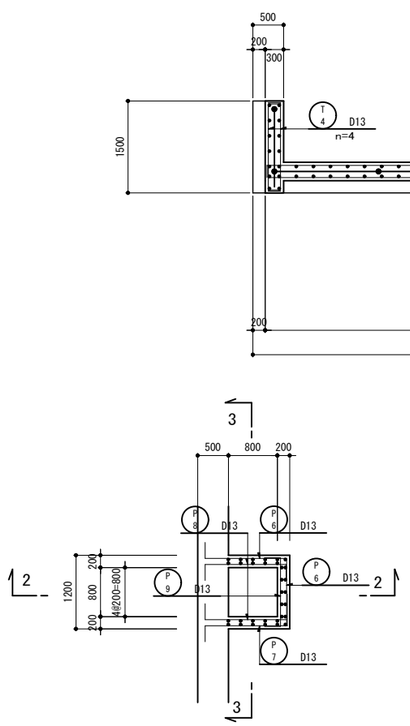
起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (5)		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	27
長崎県西海市			

浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (6)

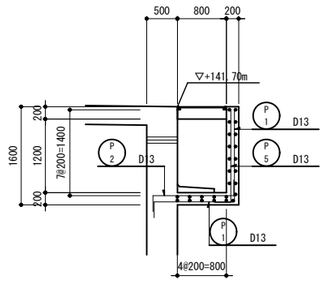


手摺基礎

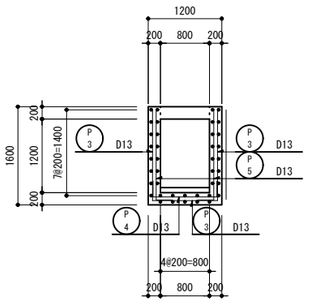


水平断面図

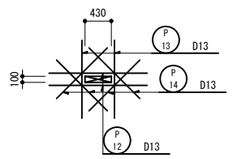
頂版展開図 (上下面に配置)



2－2断面図



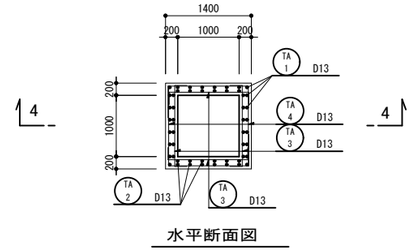
3－3断面図



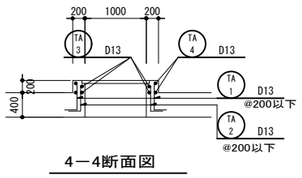
ケーブル引込用箱抜き補強筋

PE-S-2

ケーブルピット



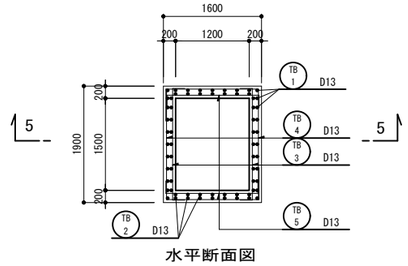
水平断面図



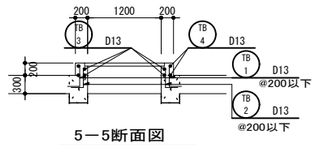
4－4断面図

点検口

(2ヶ所)

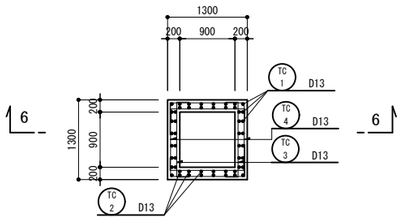


水平断面図

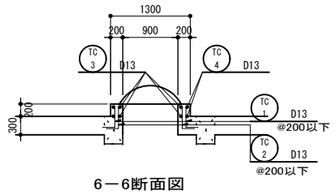


5－5断面図

搬出入口

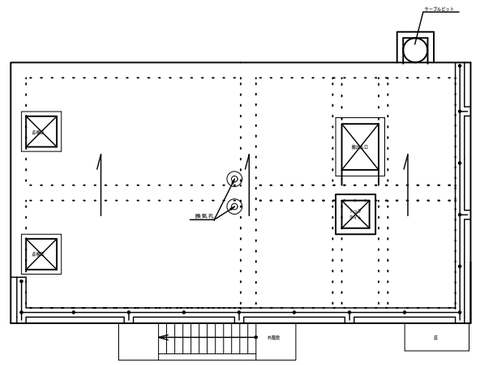


水平断面図



6－6断面図

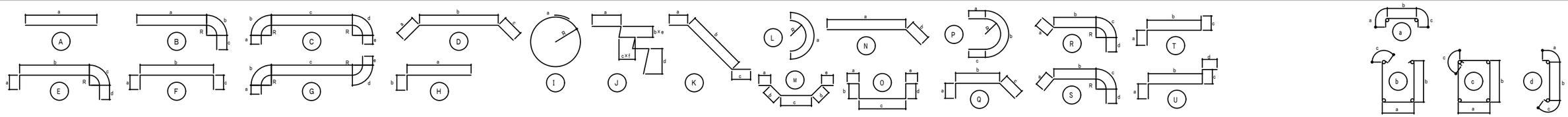
トップライト



キープラン

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 配筋図 (6)		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	28
長崎県西海市			



番号	径	形状	a	b	c	d	e	f	HorR	延長	本数	ラップ(圧接)
底版												
F 1	D19	C	5670	320	7900	320	5570		200	21.49	56	2
2	〃	F	950	8300	950					11.06	68	1
3	〃	C	4243	320	7900	320	5570		200	19.21	4	1
4	〃	F	300	545	300					1.15	4	
5	〃	C	2570	320	7900	320	5570		200	17.54	6	1
6	〃	F	300	620	300					1.22	6	
7	〃	B	7550	320	5670				200	14.40	8	1
8	〃	T	950	7280	800					9.03	4	
9	〃	S	1070	950	320	5870			200	8.21	6	
9−1	〃	S	930～790	1050～1150	320	5750～5650			200	7.98	2	
10	〃	H	1850	950						2.80	6	
11	〃	E	950	7600	320	950			200	9.82	42	
12	〃	F	950	7800	950					9.70	40	
13	〃	E	950	7100	320	950			200	9.32	35	
14	〃	F	950	7300	950					9.20	36	
15	〃	H	3700	950						4.65	7	
16	〃	T	950	3250	800					5.00	4	
17	〃	B	3500	320	950				200	4.77	7	
18	〃	T	800	3250	950					5.00	4	
19	〃	D	1130	1120	1130					3.38	6	
19−1	〃	D	1000	1290	1000					3.29	1	
20	〃	A	2500							2.50	4	
21	〃	H	2410	950						3.36	5	
22	D13	D	520	1135	520					2.18	104	
Fst 1	〃	d	200	532	130					0.86	546	
2	〃	d	200	832～741	130					1.12	7	
fo 1	D13	d	100	532	100					0.73	52	
送水ポンプ基礎①	D13	H	150	520						0.67	12	
送水ポンプ基礎②	D13	H	150	520						0.67	12	

番号	径	延長	本数	総延長 (m) D13	D16	D19	D22	D25	D29	ラップ(圧接)	摘要
底版											
F 1	D19	21.49	56			1203.44				2	
2	〃	11.06	68			752.08				1	
3	〃	19.21	4			76.84				1	
4	〃	1.15	4			4.60					
5	〃	17.54	6			105.24				1	
6	〃	1.22	6			7.32					
7	〃	14.40	8			115.20				1	
8	〃	9.03	4			36.12					
9	〃	8.21	6			49.26					
9−1	〃	7.98	2			15.96					
10	〃	2.80	6			16.80					
11	〃	9.82	42			412.44					
12	〃	9.70	40			388.00					
13	〃	9.32	35			326.20					
14	〃	9.20	36			331.200					
15	〃	4.65	7			32.55					
16	〃	5.00	4			20.00					
17	〃	4.77	7			33.39					
18	〃	5.00	4			20.00					
19	〃	3.38	6			20.28					
19−1	〃	3.29	1			3.29					
20	〃	2.50	4			10.00					
21	〃	3.36	5			18.80					
22	D13	2.18	104	226.72							
Fst 1	〃	0.86	546	469.56							
2	〃	1.12	7	7.84							
fo 1	D13	0.73	52	37.96							
送水ポンプ基礎①		0.67	12	8.04							
送水ポンプ基礎②		0.67	12	8.04							
			計	758.16		3997.01					

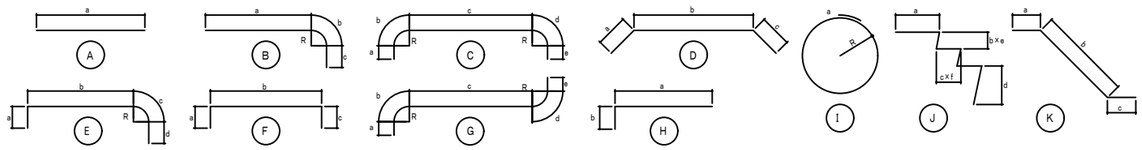
番号	径	形状	a	b	c	d	e	f	HorR	延長	本数	ラップ(圧接)
壁												
W 1	D16	H	5870	640						6.51	64	
2	〃	H	5770	640						6.41	66	
3	〃	F	640	14760	640					16.68	82	1
4	〃	H	4443	640						5.08	4	
5	〃	F	300	545	300					1.15	4	
6	〃	H	2770	640						3.41	6	
7	〃	F	300	620	300					1.22	6	
8	〃	H	6070	640						6.71	6	
9	〃	H	5980～5880	640						6.57	2	
10	〃	H	13140	640						14.42	16	1
11	〃	H	8145	640						8.79	10	
12	〃	A	4125							4.13	8	
13	〃	H	5775	640						6.42	2	
14	〃	H	7520	640						8.16	2	
15	〃	A	3080							3.08	1	
16	〃	A	1880							1.88	2	
17	〃	B	5700～5600	270	640				170	6.56	72	
18	〃	H	5870～5770	640						6.46	148	
19	〃	F	640	8260	640					9.54	128	
20	〃	B	4350	270	640				170	5.26	4	
21	〃	H	4520	640						5.16	4	
22	〃	F	300	590	300					1.19	4	
23	〃	F	300	590	300					1.19	4	
24	〃	F	350	8260	640					9.25	9	
25	〃	H	8260	640						8.90	9	
26	〃	F	300	500	300					1.10	4	
27	〃	F	300	500	300					1.10	4	
28	〃	H	7000	640						7.64	8	
29	〃	H	4520	640						5.16	2	
30	〃	F	640	5820	640					7.10	70	
31	〃	F	640	7760	640					9.04	50	
32	〃	B	2000	270	640				170	2.91	25	
33	〃	B	2300	270	640				170	3.21	6	
34	〃	B	2210～2110	270	640				170	3.07	2	
35	D22	A	4120							4.12	10	
36	〃	A	2630							2.63	10	
37	D19	A	1900							1.90	4	
38	D22	A	2450							2.45	10	
39	〃	A	2880							2.88	10	
40	D19	A	1900～1690							1.80	8	
41	〃	A	2220							2.22	10	
42	〃	A	2150							2.15	10	
43	D16	A	1280							1.28	8	
44	D13	A	1640							1.64	3	
45	〃	A	1640							1.64	3	
46	〃	F	610	100	610					1.32	6	
47	〃	A	1940							1.94	2	
48	〃	D	260	890	260					1.41	43	
49	〃	F	260	300	260					0.82	60	
Wst 1	〃	d	200	331	130					0.66	168	
wo 1	D13	d	100	331	100					0.53	119	
2	〃	d	100	329	100					0.53	152	

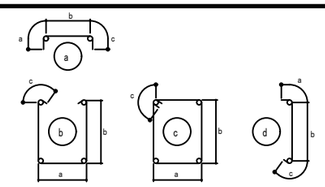
番号	径	延長	本数	総延長 (m) D13	D16	D19	D22	D25	D29	ラップ(圧接)	摘要
壁											
W 1	D16	6.51	64		416.64						
2	〃	6.41	66		423.06						
3	〃	16.68	82		1367.76					1	
4	〃	5.08	4		20.32						
5	〃	1.15	4		4.60						
6	〃	3.41	6		20.46						
7	〃	1.22	6		7.32						
8	〃	6.71	6		40.26						
9	〃	6.57	2		13.14						
10	〃	14.42	16		230.72					1	
11	〃	8.79	10		87.90						
12	〃	4.13	8		33.04						
13	〃	6.42	2		12.84						
14	〃	8.16	2		16.32						
15	〃	3.08	1		3.08						
16	〃	1.88	2		3.76						
17	〃	6.56	72		472.32						
18	〃	6.46	148		956.08						
19	〃	9.54	128		1221.12						
20	〃	5.26	4		21.04						
21	〃	5.16	4		20.64						
22	〃	1.19	4		4.76						
23	〃	1.19	4		4.76						
24	〃	9.25	9		83.25						
25	〃	8.90	9		80.10						
26	〃	1.10	4		4.40						
27	〃	1.10	4		4.40						
28	〃	7.64	8		61.12						
29	〃	5.16	2		10.32						
30	〃	7.10	70		497.00						
31	〃	9.04	50		452.00						
32	〃	2.91	25		72.75						
33	〃	3.21	6		19.26						
34	〃	3.07	2		6.14						
35	D22	4.12	10				41.20				
36	〃	2.63	10				26.30				
37	D19	1.90	4			7.60					
38	D22	2.45	10				24.50				
39	〃	2.88	10				28.80				
40	D19	1.80	8			14.40					
41	〃	2.22	10			22.20					
42	〃	2.15	10			21.50					
43	D16	1.28	8		10.24						
44	D13	1.64	3	4.92							
45	〃	1.64	3	4.92							
46	〃	1.32	6	7.92							
47	〃	1.94	2	3.88							
48	〃	1.41	43	60.63							
49	〃	0.82	60	49.20							
Wst 1	〃	0.66	168	110.88							
wo 1	D13	0.53	119	63.07							
2	〃	0.53	152	80.56							
			計	385.98	6702.92	65.70	120.80				

径(D)	単位重量 kg/m	半径(10.5D)	周長/4(10.5D)	S1(重ね継手長)	S2(定着長)	摘要
D13	0.995	140	220	520	520	
D16	1.56	170	270	640	640	
D19	2.25	200	320	855	950	
D22	3.04	240	370	990	1100	
D25	3.98	270	420	1250	1500	

起 工

年 度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木1工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 鉄筋加工寸法表(1)
縮 尺	—— 番号 29
長崎県西海市	





番号	径	形状	a	b	c	d	e	f	HorR	延長	本数	ラップ(圧接)
床版												
S 1	D16	F	640	8300	640					9.58	68	
2	〃	H	1570	640						2.21	20	
3	〃	A	2840							2.84	10	
4	〃	F	640	7800	640					9.08	60	
5	〃	H	6320	640						6.96	24	
6	〃	F	240	300	240					0.78	12	
7	D13	F	520	8300	520					9.34	54	
8	〃	H	5120	520						5.64	2	
9	〃	H	2920	520						3.44	10	
10	〃	H	1120	200						1.32	10	
11	〃	H	1520	520						2.04	12	
12	〃	F	520	7300	520					8.34	54	
13	〃	F	520	3420	300					4.24	26	
14	〃	H	2820	520						3.34	10	
15	〃	F	300	2520	520					3.34	16	
16	D19	A	2900							2.90	8	
17	〃	A	2350							2.35	16	
18	D16	A	1280							1.28	8	
19	〃	A	2480							2.48	8	
20	〃	A	2180							2.18	8	
21	D13	A	1040							1.04	2	
so 1	D13	b	229	269	100					0.97	52	
2	〃	b	226	166	100					0.76	45	
G1梁												
G 1	D25	C	1000	420	6680	420	1000		270	9.52	4	
2	〃	C	1050	420	6580	420	1050		270	9.52	4	
3	〃	B	2240	420	1050				270	3.71	2	
4	D13	A	6560							6.56	2	
go 1	D13	b	358	558	200					1.87	34	
2	〃	a	200	358	200					0.76	34	
3	〃	d	200	558	200					0.96	34	
4	〃	d	100	358	100					0.56	7	
B1小梁												
B 1	D22	C	410	121	8066	121	410		77	9.13	4	
2	〃	C	460	121	7966	121	460		77	9.13	4	
bo 1	D13	b	155	285	200					1.13	76	
2	〃	a	200	155	200					0.56	76	

番号	径	延長	本数	総延長 (m) D13	D16	D19	D22	D25	D29	ラップ(圧接)	摘要
床版											
S 1	D16	9.58	68		651.44						
2	〃	2.21	20		44.20						
3	〃	2.84	10		28.40						
4	〃	9.08	60		544.80						
5	〃	6.96	24		167.04						
6	〃	0.78	12		9.36						
7	D13	9.34	54	504.36							
8	〃	5.64	2	11.28							
9	〃	3.44	10	34.40							
10	〃	1.32	10	13.20							
11	〃	2.04	12	24.48							
12	〃	8.34	54	450.36							
13	〃	4.24	26	110.24							
14	〃	3.34	10	33.40							
15	〃	3.34	16	53.44							
16	D19	2.90	8			23.20					
17	〃	2.35	16			37.60					
18	D16	1.28	8		10.24						
19	〃	2.48	8		19.84						
20	〃	2.18	8		17.44						
21	D13	1.04	2	2.08							
so 1	D13	0.97	52	50.44							
2	〃	0.76	45	34.20							
			計	1321.88	1492.76	60.80					
G1梁											
G 1	D25	9.52	4					38.08			
2	〃	9.52	4					38.08			
3	〃	3.71	2					7.42			
4	D13	6.56	2	13.12							
go 1	D13	1.87	34	63.58							
2	〃	0.76	34	25.84							
3	〃	0.96	34	32.64							
4	〃	0.56	7	3.92							
B1小梁											
B 1	D22	9.13	4				36.52				
2	〃	9.13	4				36.52				
bo 1	D13	1.13	76	85.88							
2	〃	0.56	76	42.56							
			計	267.54			73.04	83.58			

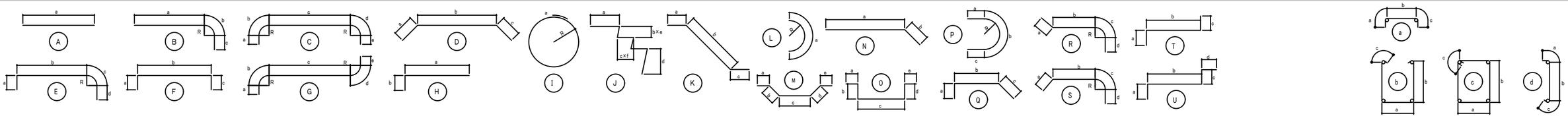
番号	径	形状	a	b	c	d	e	f	HorR	延長	本数	ラップ(圧接)
階段												
K 1	D13	H	1550	260						1.81	26	
2	〃	H	2850	260						3.11	12	
3	〃	H	2000	200						2.20	2	
4	〃	A	2000							2.00	2	
5	〃	H	1550	260						1.81	19	
6	〃	J	460	240	300	500	9	9		5.82	6	
7	〃	K	460	3800	460					4.72	6	
8	〃	F	320	1060	320					1.70	6	
9	〃	H	1550	320						1.87	8	
外階段												
KA 1	D13	H	1550	260						1.81	52	
2	〃	K	460	4420	1320					6.20	6	
3	〃	N	1430	460						1.89	6	
4	〃	J	460	260	300	460	13	12		7.90	6	
5	〃	H	1150	100						1.25	12	
出入口土間コン												
CS 1	D13	T	160	1550	260					1.97	7	
1a	〃	F	160	1550	260					1.97	7	
2	〃	F	160	1200	160					1.52	12	
手摺基礎												
T 1	D13	O	260	610	120	610	260			1.86	94	
2	〃	F	160	14460	160					15.30	4	1
3	〃	F	160	8360	160					8.68	4	
4	〃	F	160	1360	160					1.68	4	
5	〃	c	160	360	200					1.44	10	
点検口												
TA 1	D13	H	430	200						0.63	56	
2	〃	H	380	200						0.58	48	
3	〃	F	200	1300	200					1.70	16	
4	〃	F	1300	1300	520					3.12	8	
搬出入口												
TB 1	D13	H	330	200						0.53	36	
2	〃	H	280	200						0.48	32	
3	〃	F	200	1800	200					2.20	4	
4	〃	F	1800	1500	520					3.82	4	
5	〃	F	200	1500	200					1.90	4	
トップライト												
TC 1	D13	H	330	200						0.53	28	
2	〃	H	330	200						0.53	24	
3	〃	F	200	1200	200					1.60	8	
4	〃	F	1200	1200	520					2.92	4	

番号	径	延長	本数	総延長 (m) D13	D16	D19	D22	D25	D29	ラップ(圧接)	摘要
階段											
K 1	D13	1.81	26	47.06							
2	〃	3.11	12	37.32							
3	〃	2.20	2	4.40							
4	〃	2.00	2	4.00							
5	〃	1.81	19	34.39							
6	〃	5.82	6	34.92							
7	〃	4.72	6	28.32							
8	〃	1.70	6	10.20							
9	〃	1.87	8	14.96							
外階段											
KA 1	D13	1.81	52	94.12							
2	〃	6.20	6	37.20							
3	〃	1.89	6	11.34							
4	〃	7.90	6	47.40							
5	〃	1.25	12	15.00							
出入口土間コン											
CS 1	D13	1.97	7	13.79							
1a	〃	1.97	7	13.79							
2	〃	1.52	12	18.24							
			計	466.45							
手摺基礎											
T 1	D13	1.86	94	174.84							
2	〃	15.30	4	61.20						1	
3	〃	8.68	4	34.72							
4	〃	1.68	4	6.72							
5	〃	1.44	10	14.40							
点検口											
TA 1	D13	0.63	56	35.28							
2	〃	0.58	48	27.84							
3	〃	1.70	16	27.20							
4	〃	3.12	8	24.96							
搬出入口											
TB 1	D13	0.53	36	19.08							
2	〃	0.48	32	15.36							
3	〃	2.20	4	8.80							
4	〃	3.82	4	15.28							
5	〃	1.90	4	7.60							
トップライト											
TC 1	D13	0.53	28	14.84							
2	〃	0.53	24	12.72							
3	〃	1.60	8	12.80							
4	〃	2.92	4	11.68							
			計	525.32							

径 (D)	単位重量 kg／m	半径 (10.5D)	周長／4 (10.5D)	S1 (重ね継手長)	S2 (定着長)	摘要
D13	0.995	140	220	520	520	
D16	1.56	170	270	640	640	
D19	2.25	200	320	855	950	
D22	3.04	240	370	990	1100	
D25	3.98	270	420	1250	1500	

起 工

年 度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 鉄筋加工寸法表(2)
縮 尺	―― 番号 30
長崎県西海市	



番号	径	形状	a	b	c	d	e	f	HorR	延長	本数	ラップ(注意)
ケーブルピット												
P 1	D13	T	260	1330	1500					3.09	5	
2	〃	T	260	1330	260					1.85	5	
3	〃	F	1480	1060	1480					4.02	6	
4	〃	F	260	1060	260					1.58	5	
5	〃	H	1480	260						1.74	15	
6	〃	T	260	1330	1100					2.69	8	
7	〃	T	260	1330	520					2.11	8	
8	〃	F	260	1330	260					1.85	14	
9	〃	F	260	1100	260					1.62	7	
10	〃	I	2827						140	3.35	2	1
11	〃	F	260	660	260					1.18	8	
12	〃	A	1600							1.60	4	
13	〃	A	1140							1.14	4	
14	〃	A	1170							1.17	8	
埋込配管補強筋、機械基礎差し筋等												
HK 1	D13	H	550	150						0.70	36	
2	D19	I	1257						200	2.11	4	1
3	D13	A	1370							1.37	16	
4	D16	I	1257						170	1.90	4	1
5	D13	A	1370							1.37	16	
6	D19	I	1194						200	2.05	4	1
7	D13	A	1260							1.26	16	

番号	径	延長	本数	総延長 (m) D13	D16	D19	D22	D25	D29	ラップ(注意)	摘要
ケーブルピット											
P 1	D13	3.09	5	15.45							
2	〃	1.85	5	9.25							
3	〃	4.02	6	24.12							
4	〃	1.58	5	7.90							
5	〃	1.74	15	26.10							
6	〃	2.69	8	21.52							
7	〃	2.11	8	16.88							
8	〃	1.85	14	25.90							
9	〃	1.62	7	11.34							
10	〃	3.35	2	6.70						1	
11	〃	1.18	8	9.44							
12	〃	1.60	4	6.40							
13	〃	1.14	4	4.56							
14	〃	1.17	8	9.36							
計				194.92							
補強筋、差し筋等											
HK 1	D13	0.70	36	25.20							
2	D19	2.11	4			8.44				1	
3	D13	1.37	16	21.92							
4	D16	1.90	4		7.60					1	
5	D13	1.37	16	21.92							
6	D19	2.05	4			8.20				1	
7	D13	1.26	16	20.16							
計				89.20	7.60	16.64					

番号	径	形状	a	b	c	d	e	f	HorR	延長	本数	ラップ(注意)

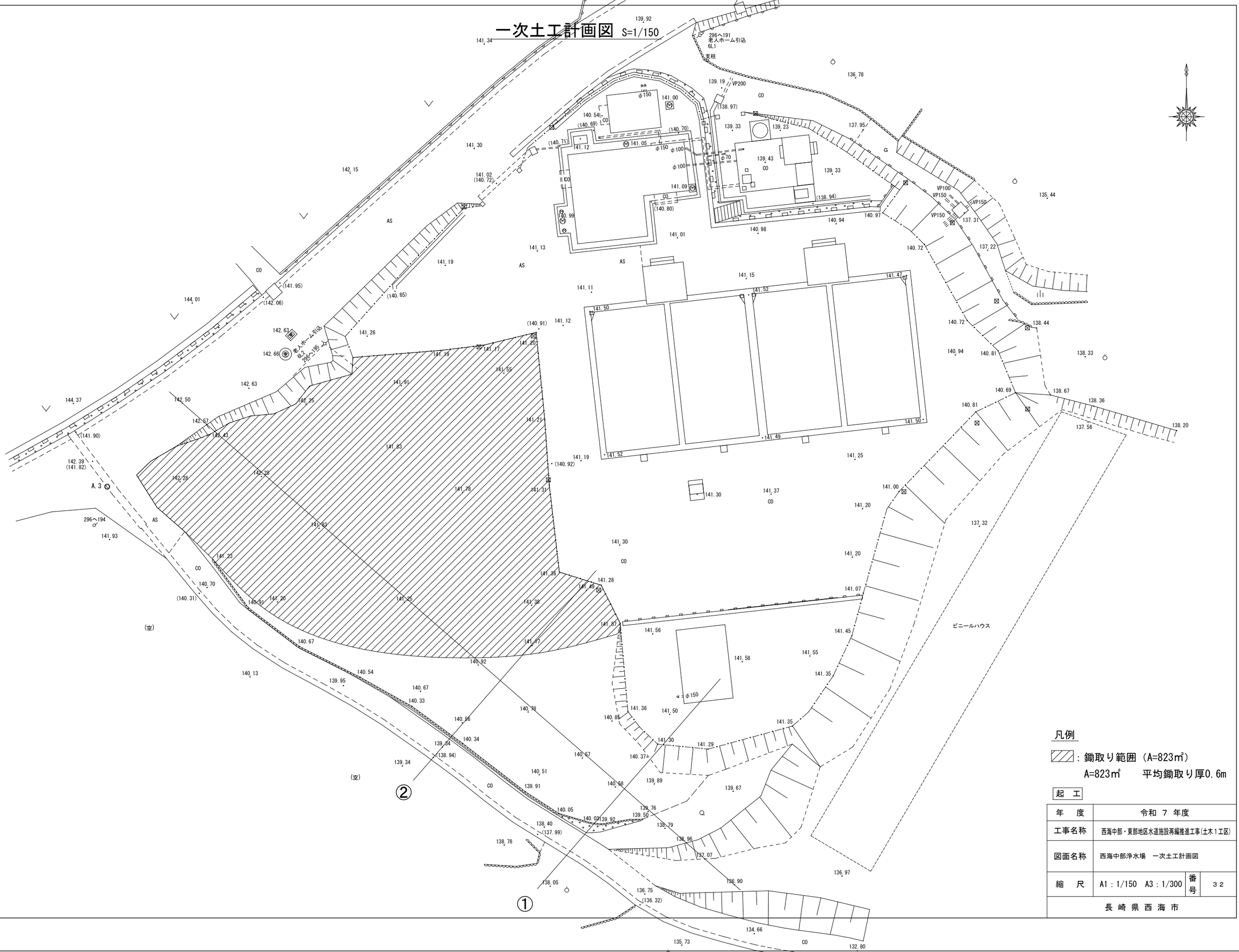
番号	径	延長	本数	総延長 (m) D13	D16	D19	D22	D25	D29	ラップ(注意)	摘要

径 (D)	単位重量 kg／m	半径 (10.5D)	周長／4 (10.5D)	S1 (重ね継手長)	S2 (定着長)	摘要
D13	0.995	140	220	520	520	
D16	1.56	170	270	640	640	
D19	2.25	200	320	855	950	
D22	3.04	240	370	990	1100	
D25	3.98	270	420	1250	1500	

起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場 浄水池・送水ポンプ室 鉄筋加工寸法表(3)
縮　尺	―― 番号 31
長崎県西海市	

一次土工計画図 S=1/150



凡例

：鋤取り範囲（A=823㎡）

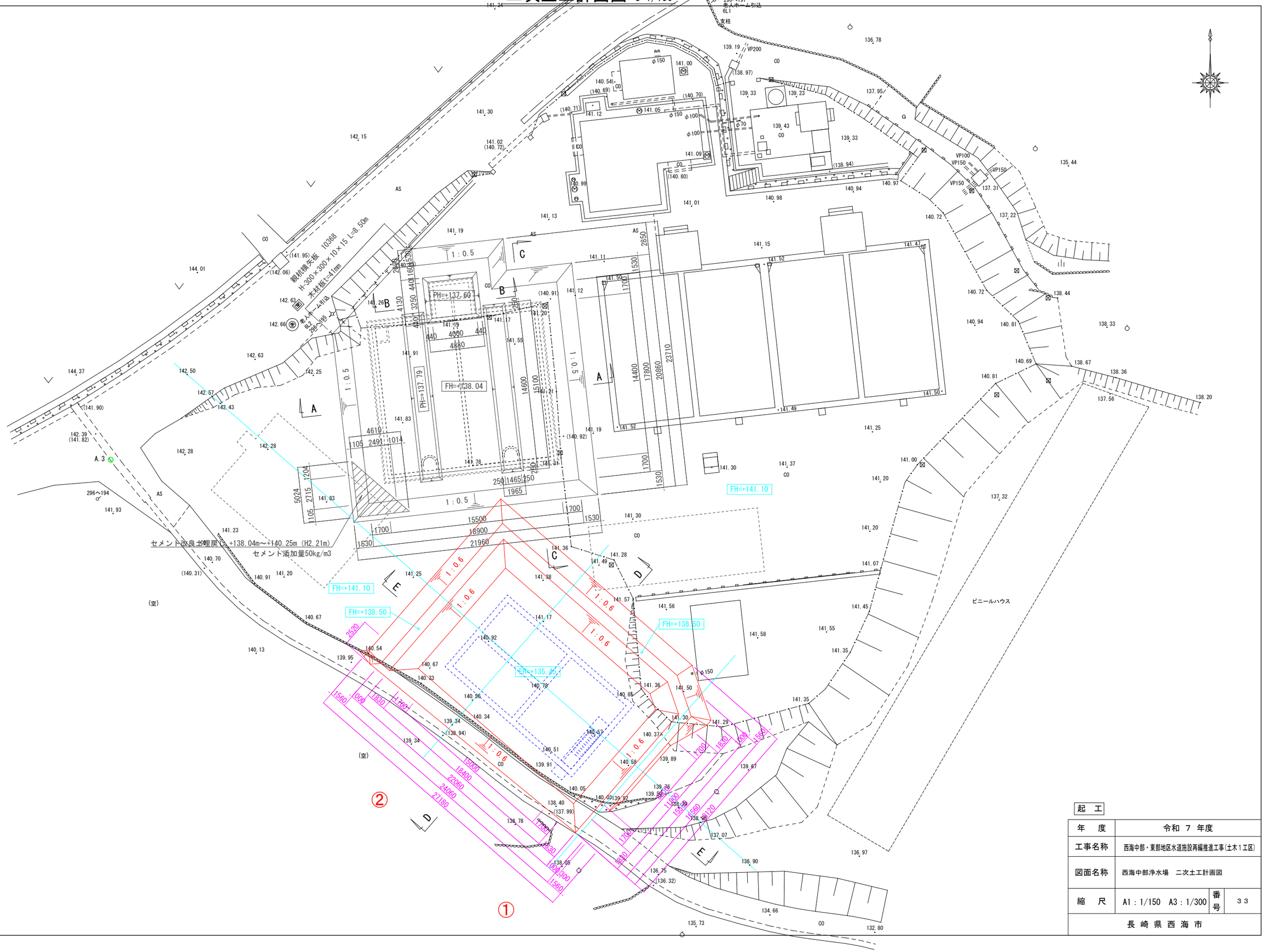
A=823㎡　平均鋤取り厚0.6m

起　工

年　度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場　一次土工計画図
縮　尺	A1：1/150　A3：1/300
番号	３２

長 崎 県 西 海 市

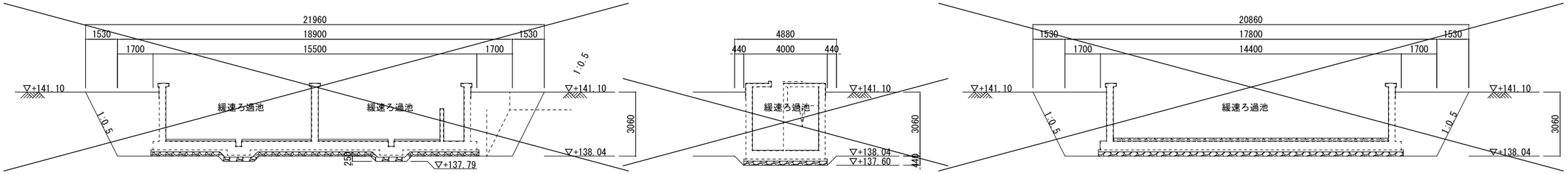
二次土工計画図 S=1/150



起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木1工区)		
図面名称	西海中部浄水場　二次土工計画図		
縮　尺	A1：1/150　A3：1/300	番号	３３
長崎県西海市			

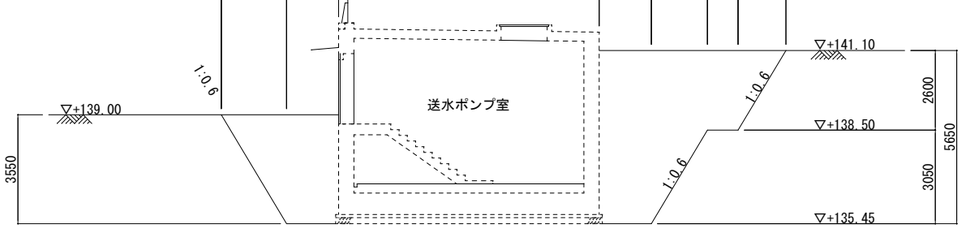
二次土工計画断面図 S=1/50



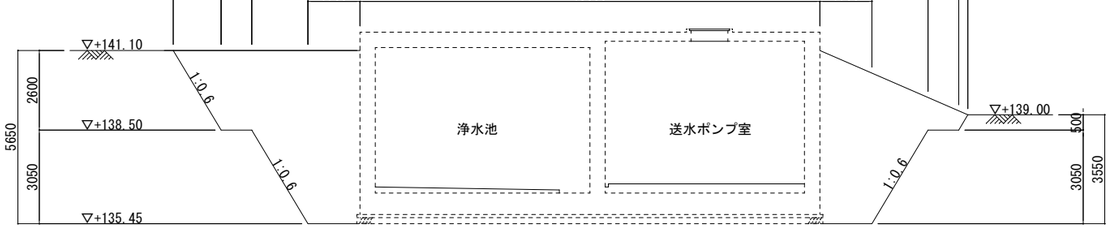
A-A断面図

B-B断面図

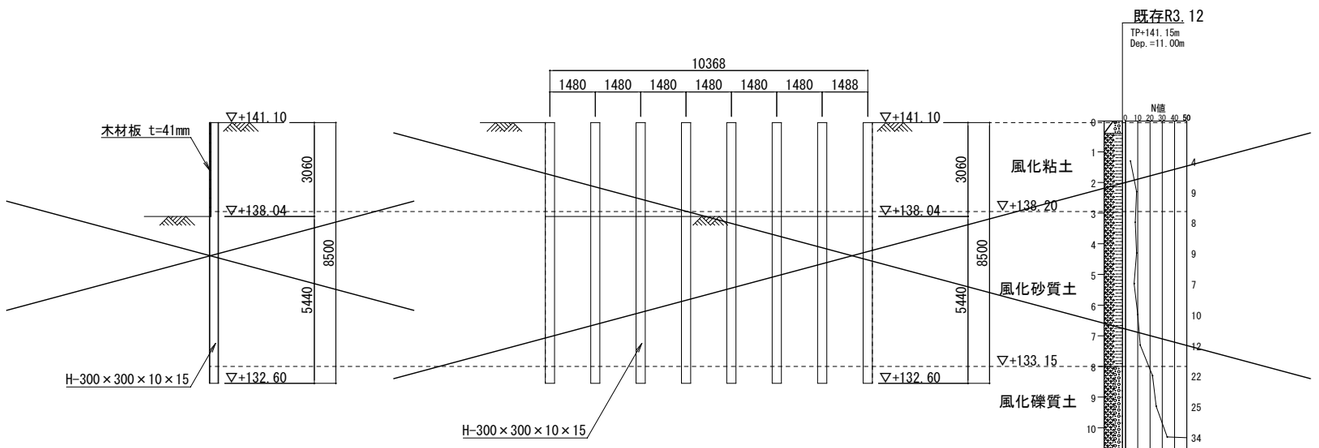
C-C断面図



D-D断面図



E-E断面図



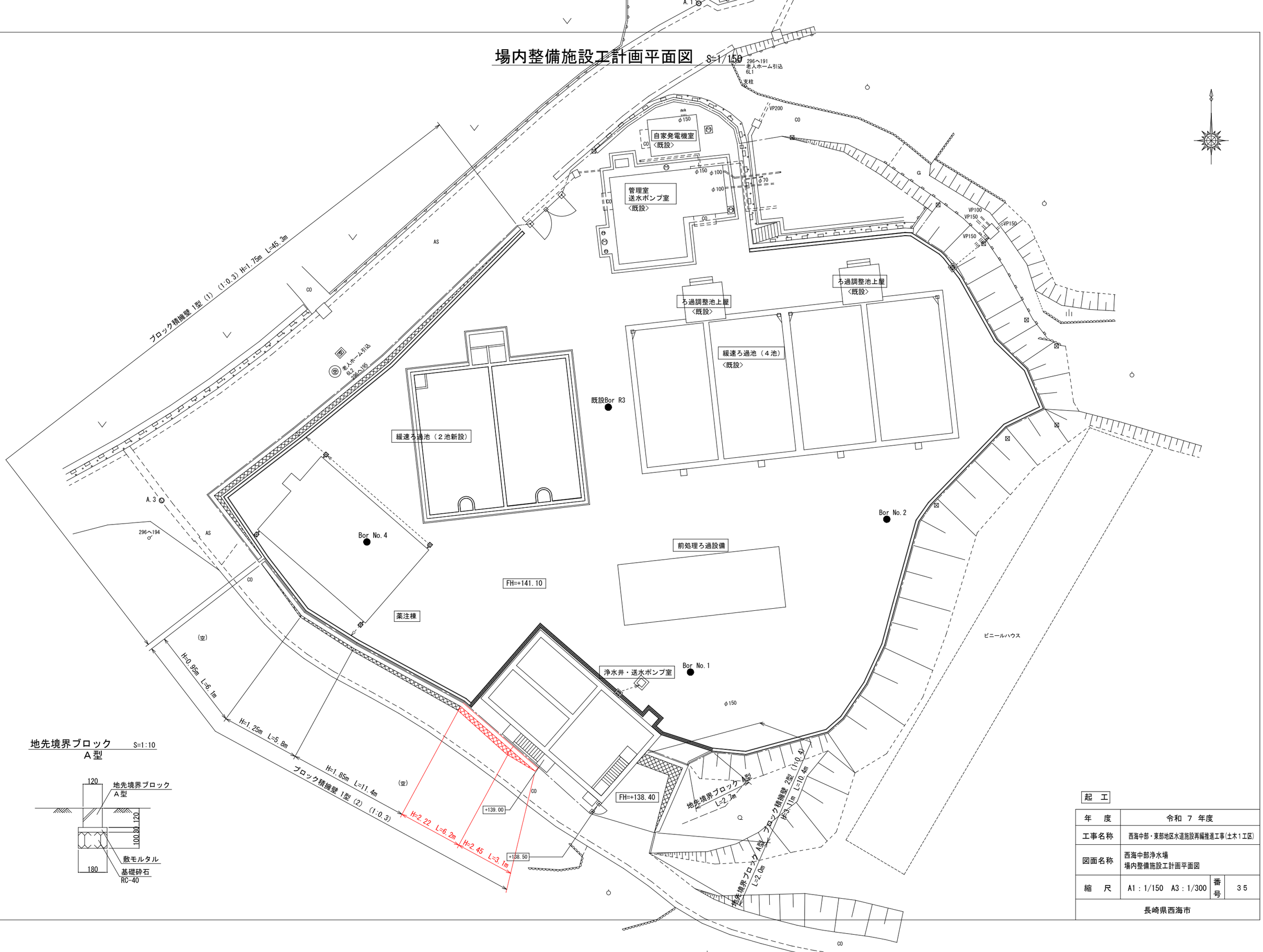
親杭横矢板断面図

親杭横矢板正面図

起 工

年 度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木1工区)		
図面名称	西海中部浄水場 二次土工計画断面図		
縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	番号	34
長崎県西海市			

場内整備施設工計画平面図 S=1/150



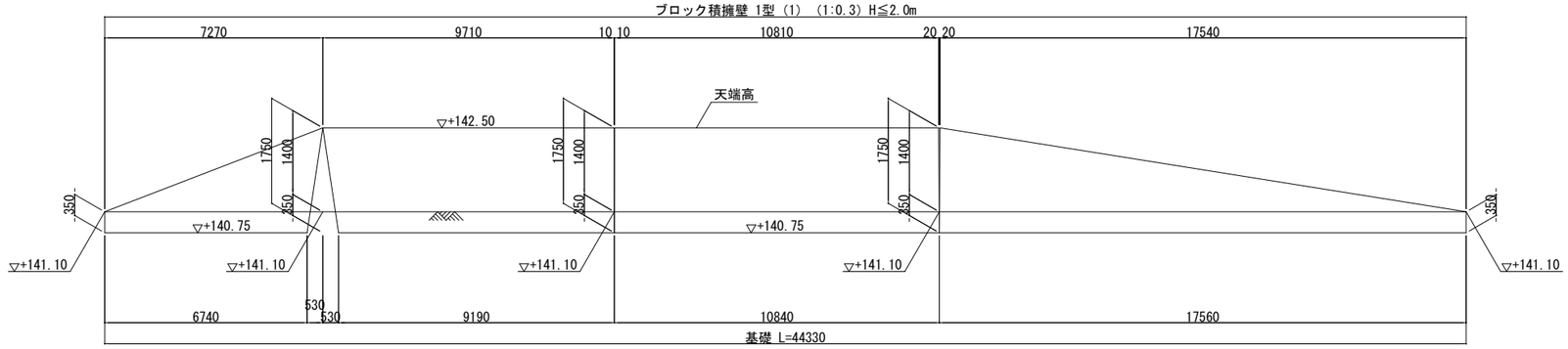
地先境界ブロック A型 S=1:10

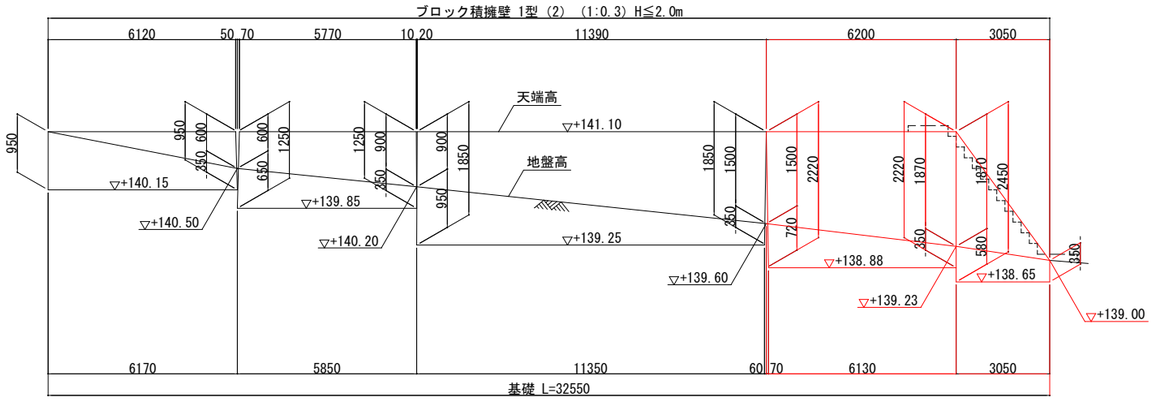
起　工

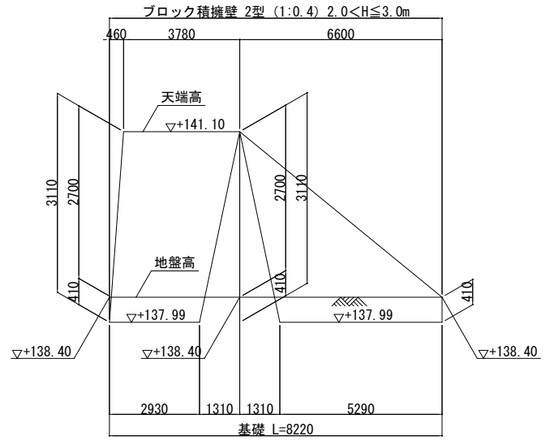
年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場 場内整備施設工計画平面図		
縮　尺	A1：1/150　A3：1/300	番号	35
長崎県西海市			

ブロック積擁壁詳細図　S=図示

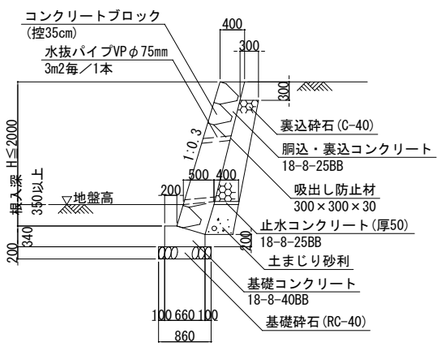
ブロック積擁壁展開図　S=(V)1:50, (H)1:100





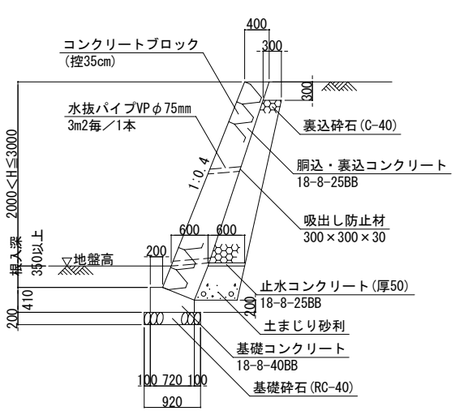


ブロック積擁壁 1型構造図　S=1:50
(1:0.3) H≦2.0m



必要地耐力＝75kN/㎡以上

ブロック積擁壁 2型構造図　S=1:50
(1:0.4) 2.0<H≦3.0m



必要地耐力＝75kN/㎡以上

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木1工区)		
図面名称	西海中部浄水場 ブロック積擁壁詳細図		
縮　尺	図示	番号	36
長崎県西海市			

解体工事特記仕様書

Ⅰ 工事概要

1. 工事名称
2. 工事場所　西海市西海町川内郷地内
3. 敷地面積
4. 解体建物概要
   1）構造・規模　RC造　平家建　延べ面積　30.24m2
   2）新築工事の着工日
   3）耐火　・耐火　・準耐火　◯・その他
   4）その他
5. 工事範囲　（1）管理倉庫解体・撤去工事一式
6. 別途工事

Ⅱ 建築工事仕様

1．共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修，建築物解体工事共通仕様書・同解説（令和４年版）（以下，「解体仕様書」という。）による。

電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は，それぞれ公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編），公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）による。

(1) 地元企業及び地場製品の活用

本工事受注者は，地元企業，地場製品の積極的な活用に努める。

(2) 疑義に対する協議等

設計図書に定められた内容に疑義が生じた場合（記載されてない事項等）又は現場の納まり，取り合い等の関係で，設計図書によることが困難若しくは不都合が生じた場合は，監督員と協議する。

2．特記仕様

(1) 章，項目は番号に○印のついたものを適用する。

(2) 特記事項は ◯ 印のついたものを適用する。
◯ 印のつかない場合は，※印のついたものを適用する。
◯ 印と ⊗ 印のついた場合は共に適用する。

(3) 項目欄に記載の（ ）内番号は共通仕様書の該当項目を示す。

章		項	特記事項
一般共通事項	①	適用基準等	※ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ※ 建設廃棄物処理指針 ※ 建設副産物適正処理推進要綱 ※ 建設工事公衆災害防止対策要綱 ※ 建築工事安全施工技術指針 ※ 労働安全衛生法　※ 石綿障害予防規則 ※ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法） ※ 建築基準法　※ 環境基本法　※ 騒音規制法 ※ 大気汚染防止法　※ 土壌汚染対策法 ※ 資源の有効な利用の促進に関する法律 ・ 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法） ・ フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）
	②	監理(主任)技術者	受注者は，監理技術者及び主任技術者を建設業法により定め，工事現場内において工事名，工期，写真，所属会社名及び証明印の入った名札を着用する。
	③	官公署手続き等 (1.1.3)	工事の着手，施工，完成に当たり，関係機関への必要な手続き等を遅延なく行うこと。また，これらの手続き等を行うに当っては，届出内容についてあらかじめ監督員に報告すること。なお，手続き等に要する費用は受注者の負担とする。
	④	工事実績情報の登録 (1.1.4)	受注者は，次表に従い，工事実績情報を登録する。 ※ 登録内容について，あらかじめ監督員の承諾を受けたのちに，次表の期間内に登録申請を行う。ただし，期間には，土曜日，日曜日，祝日，年末年始の閉庁日を除く。 なお，変更時と工事完成時の間が10日に満たない場合は，変更時の提出を省略できる。（登録要） 変更登録は，工期，技術者等に変更が生じた場合に行う（請負代金の み変更の場合，登録不要） ※ 登録後は速やかに登録されたことを証明する資料を監督員に提出する。
			請負金額 / 工事受注時 / 登録内容の変更時 / 工事完成時 500万円以上 / 契約後10日以内 / 変更契約後10日以内 / 工事完成後10日以内
	⑤	別契約の関連工事との調整等 (1.1.7)	施工範囲　※ 図示による。 関連工事との調整 ※ 別契約の関連工事受注者が足場などを使用する場合は無償とする。 ※ 別契約の関連工事受注者と工程を含めた総合的な打合せを定期的に行い，監督員の調整に協力し，当該工事関係者とともに円滑な施工に努める。
	⑥	工事工程表 (1.2.1)	検査期間としての１４日間を含んだ工程とし，工事全体を把握して作成し監督員の承諾を受ける。 ※ 契約締結後１４日以内に実施工程表を提出する。
	⑦	施工計画書 (1.2.2)	工事に先立って次の計画書・書面を提出する。 ※ 解体工事施工計画書　２部（１部返却） （総合仮設計画書，安全対策計画書，分別解体等計画書，建設副産物処理計画書） 添付書類 廃棄物処理業者（収集、運搬、中間処理最終処分）の許可の写し 二者の委託契約書の写し 処分場の位置及び運搬ルート ※ 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書　各２部（１部返却） ※「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（建設リサイクル法）による対象建設工事に係る書面　各２部（法第１２条第１項、法第１３条及び省令第４条）
	⑧	工事の記録 (1.2.3)	下記のものを監督員に提出する。工事中及び完成写真の作成は「営繕工事写真作成要領」による。 ◯ 工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を工事履行報告書に添付するものとする。 ◯ 工事中写真 全般的な解体工事の状況，建設副産物処理及び事前措置，解体手順の各段階における施工が完了した写真，水中又は地下に埋設される部分，分別解体を行っていることが確認できる状況写真，その他工事終了後では確認できない事項，その他監督員が指示する箇所はＡ４版写真台紙にまとめて完成検査日までに提出するものとする。 なお，基礎や地下構造物等の撤去については，撤去物の全般に亘り，その位置・深さが明確に分かり撤去前と撤去後の状況が確認できる写真とすること。 【提出部数】：１部 ◯ 完成写真 撤去前と撤去後の状況が確認できる写真とすること。

章		項	特記事項
一般共通事項			（撮影箇所）　監督職員が指示する箇所 （写真規格）　・カラーサービス版　・カラーキャビネ版　・ （規格・提出部数）　・Ａ４版クリアファイル　部　・Ａ４版写真台紙　部　・アルバム　部
			◯ その他の写真 隣接建物等に損傷の恐れがある場合は，施工前，施工後の写真を監督員の指示により提出すること。
			◯ 保管 工事写真のネガは工事完成後，受注者において２年間保管すること。
	⑨	施工管理 (1.3.1)	受注者は施工管理体制を確立し，工程，安全，建設廃棄物処理等の施工管理を行う。 ※ 施工体制台帳（建設業法等に従って作成し，写しを提出する。） 技術者台帳（施工体制台帳に添付） 監理技術者・主任技術者（下請を含む）及び専門技術者の写真，名前，生年月日，所属会社名を記載する。 ※ 施工体系図（建設業法に基づき，当該現場の見やすい場所に掲示する。）
	⑩	電気保安技術者 (1.3.3～1.3.4)	◯ 適用する　・ 適用しない
	⑪	施工条件 (1.3.5)	1）作業時間は，原則午前８時から午後５時までとし，通学時間帯を考慮すること。 2）日曜日及び祝日に作業を行わないこと。ただし，あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は，この限りではない。
	⑫	施工中の安全確保 (1.3.6～1.3.8)	1）労働安全衛生法第３０条第２項の規定に基づく指名　◯ 有り　・ 無し 2）受注者は，現場代理人を工事現場に常駐させ，工事現場内外及び下請け業者の管理を十分に行い，周囲の建物，通行者等に損傷を与えないように注意して工事を施工すること。 なお，万一損傷が生じた場合は，受注者の責任において処理すること。 3）工事中は，騒音，振動の発生，粉塵の飛散（散水），道路の汚染等の防止に努めること。 ※ 低騒音型・低振動型建設機械を使用すること（近隣住民の生活環境の保全の必要性がある場合） 4）歩行者等の通行に支障を生じないよう交通誘導員を配置し，適切な処置を講じること。 ※ 本工事は，交通誘導員として　***　人を見込んでいる。 なお，交通誘導員の配置については，実施伝票（原本）および配置状況のわかる立会写真の撮影を行い監督員に提出する。 5）ダンプトラック等による過積載の防止を図ること。 6）作業現場には，労働安全衛生法に基づく作業主任者等を置き，作業の安全管理に努めること。 ① つり足場（ゴンドラのつり足場を除く），張出し足場又は高さ５m以上の構造の足場の組立て，解体を行う場合，コンクリート造又は鉄骨造の工作物（その高さが５m以上のもの）の解体作業を行う場合は，労働安全衛生法第１４条に基づく技能講習を修了したものとする。 ② 木造建築物の解体作業を行う場合は，平成３年１月２１日付け基発第３９号「安全衛生教育の推進について」及び平成元年５月９日付け基発第４８５号「木造建築物の解体工事の作業指揮者に対する安全教育について」に基づく安全教育を終了した者とする。
	⑬	近隣との折衝 (1.3.6)	地域住民等と工事の施工上必要な折衝を行うものとし，あらかじめその概要を監督員に報告する。 また，その経過について記録し，遅滞なく監督員に書面で報告する。
	⑭	発生材の処理 (1.3.10) (4.1.3～4.5.1)	◯ 引渡しを要するもの　（ ＰＣＢ含有物　） ・ 現場において再利用を図るもの　（　） ・ 次の建設廃棄物は上記によるものを除き再資源化する。 (1) 建設リサイクル法による特定建設資材廃棄物及び建設発生土 （ ・建設発生土　・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材） (2) 金属類　(3) 小型二次電池 ◯ その他建設廃棄物の再資源化　※ 無し ・ 有り（・蛍光ランプ，ＨＤランプ　・硬質塩化ビニル管） ・ 指定建設資材廃棄物（木材が廃棄物となったもの）の縮減　・ 無し　・ 有り ・ 産業廃棄物広域認定制度の適用　※ 無し　・ 有り（　） ・ 処理に注意を要する建設廃棄物　※ 無し ・ 有り（・CCA処理木材　・ひ素，ホウ素，カドミウム含有石膏ボード） ※ 建設副産物情報交換システム（ＣＯＢＲＩＳ）　（財）日本建設情報総合センター 本工事は登録対象工事であるため，受注者は，施工計画時，工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は，速やかに当該システムにデータの登録を行うものとする。 また，建設リサイクル法に規定する建設資材を搬出（搬入）する場合は，次表により計画書（実施書）を提出する。なお，これにより難い場合は，監督員と協議する。

	施工計画時	工事完了時
搬出	再生資源促進利用計画書	再生資源促進利用実施書
搬入	再生資源利用計画書	再生資源利用実施書

1）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は，廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては，廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）のうち受入条件が合うものの中から，運搬費と受入費（平日の受入費用）の費用の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って，正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。

一般共通事項	⑮	施工計画調査 (1.5.1)	工事の着手に先立ち，施工計画作成のための調査を行う。
	⑯	施工数量調査 (1.5.2)	施工に先立ち，下記の施工数量調査を行う。 ※ 調査範囲　（　地上部　） ※ 調査方法　（　目視・計測　）
	⑰	施工の検査 (1.6.4)	監督員による随時の検査を行う。 ※ 検査に必要な資機材，労務等を提供すること。
	⑱	工事履行報告書	毎月７日までに，前月末までの履行状況を，実施工程表及び現場状況写真を添付して提出すること。
	⑲	埋設物等の報告	工事の施工に当たり，設計図書に記載されていない地下構造物，埋設配管等を発見した場合は，直ちにその状況を監督員に報告すること。
	⑳	地下埋設物調査	◯ 行わない ・ 行う　図示する範囲内において，整地前に敷地境界から２mの距離を置き，幅１m，深さ１．５m で，３m間隔で掘削調査を行う。
	㉑	家電リサイクル法対象機器の処分	特定家庭用機器再商品化法（平成10年6月5日法律第97号）に指定する機械機器を処分する場合は，同法に基づき処理を行うこと。また，工事完了後に管理票の写しを提出すること。
	㉒	完成時の提出書類	◯ 産業廃棄物処分の実績報告書　１部 ※ マニフェスト　（Ｄ・Ｅ票）の写し及び集計表を添付する。 ◯ 写真　１部　（Ａ４判印刷，若しくはＡ４判写真帳） ※ 原版の提出 ◯ しない　・ する　（ ・ 全て　・ 指定する工程のみ　） （電子データ形式等は，監督員の指示による。）
	㉓	試掘	地中に解体撤去すべき工作物等がないことを確認するため，次の時期及び方法により試掘を行う。 ※ 試掘時期　◯ 完成検査時　・　（　） ※ 試掘方法　◯ 機械掘削　・ 人力掘削 なお，試掘は建築物１棟ごとに１箇所以上，外構（排水施設，舗装等）で１箇所以上行い，試掘する箇所については，検査員の指示による。
	㉔	自社施工を求める対象工種	受注者と直接的な雇用関係にある技術者及び作業員等により，次の工種を全て施工すること。 ・ 解体工（仮設工事及び産業廃棄物の収集運搬処分等付帯工事並びに散地整地工事は除く。）

章		項	特記事項
仮設工事	①	騒音・粉塵等の対策（仮囲い等の安全施設） (2.2.1～2.2.2)	・ 解体工事着手前に工事対象区域内に仮囲い　（ ・ Ｈ　m　・ 図示 ）を設置すること。 ・ 解体工事着手前に建物周囲に次の騒音・粉塵等の対策を行う。 （ ・ 防音パネル　※ 防音シート　・ メッシュ金網，養生シート　） ・ 防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲及び高さ等 （ ・ 建物全周囲に建物高さ以上　・　） ※ 枠組み足場を設ける場合は，「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月24日基発第0424001号）により，「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり，中さん及び幅木の機能を有する足場とし，足場の組立て，解体又は変更の作業は，「手すり先行工法による足場の組立てに関する基準」の２の(2)又は(3)の方式により行うこと。 また，上記足場の設置や点検等については，労働安全衛生規則を遵守して実施すること。 ・ 騒音・振動計を設置すること。（設置箇所は図示による）
	②	監督員事務所 (2.3.1)	・ 設ける　（　m2程度）　◯ 設けない ・ 備品等　（　）
	③	受注者事務所等	◯ 敷地内へ建てることができる　・
	④	工事用水	構内既存の施設　・ 有償で利用できる（副メーター設置等） ・ 無償で利用できる ◯ 利用できない
	⑤	工事用電力	構内既存の施設　・ 有償で利用できる　・ 無償で利用できる　◯ 利用できない
解体工事	①	事前措置 (3.2.1)	1）給水管，ガス管，電気ケーブル，下水道等の供給管等の切断及び栓，配管等の撤去は本工事に含む。 ①　配管等の切断及び汚水管，排水管等の末端処理については，供給者と事前に協議すること。 ②　水道，ガス，下水等の切断位置等は本机等で明示する。また，記録を残し監督員に提出する。 ③　配管等の切断位置や，切り回し必要箇所等は図示による。 2）落下するおそれのある付属物は撤去すること。 3）解体に際して周辺環境に害虫等による影響が予想される場合は駆除等を行う。 4）電気設備のコンデンサ等は残留電荷の確認を行い，必要に応じて放電する。 5）衛生器具等は，十分に洗浄を行い，汚水，汚物等による異臭の発生を防止する。 6）浄化槽，排水槽等の解体に係る汚水及び汚物等の残留物は，施設管理者が回収，洗浄等を行うため，時期等について協議すること。
	②	解体順序 (3.3.1)	◯ 解体仕様書による　・ 図示による
	③	杭，基礎等 (3.9.1～3.9.2)	1）基礎の解体撤去は，騒音・振動等に配慮して分別解体し，砂利地業・割り石まで行なうこと。 2）杭の解体　・ 残置させる　・ 解体する　（ ・ 引き抜き工法　・ 破砕方法　・　） ① 杭を残置する場合は，杭の種別・杭径，杭の位置，杭頂部高さ，深さ等の記録を整備し，写真と共に監督員に提出する。 ② 残置杭の中，杭の破砕跡は，現場発生の良質土で埋め戻すこと。 ③ 残置する杭頭は，キャップ等で被いコンクリートを打設すること。
	④	構内舗装等 (3.11.1)	1）アスファルトコンクリート及びコンクリート等の解体は本工事とし，分別解体する。 2）樹木等の伐採伐根及び移植　※ 有り（図示による）　◯ 無し
	⑤	地下埋設物 (3.12.1)	撤去する地下埋設物 ・ 浄化槽　・ 排水桝　・ ハンドホール　・ オイルタンク　・ 埋設廃棄物　・（　） ※ 上記以外で設計図書に記載されていない地下埋設物の存在を確認した場合は，監督員に報告し，対応策を協議すること
	⑥	埋設配管 (3.12.1)	◯ 撤去　・ 存置 ※ 設計図書に記載されていない地下埋設物の存在を確認した場合は，監督員に報告し，対応策を協議すること。
	⑦	整地・埋戻し盛土 (3.13.1)	1）解体撤去後の跡地は整地（整地厚１０cm程度）すること。（なお盛土する場合は図示による） ◯ 持ち込み土（山砂の類）　・ 現場発生の良質土　・ 他現場の現場発生良質土 ・ 再生コンクリート砂　・ リサイクルプラントが販売する処理土 2）土砂流出の恐れのある部分は，土のう等で処置すること。
	⑧	解体後の囲障	・ 設置する　◯ 設置しない　・ 工事中の仮囲いを存置 ※ 囲障を設置する場合の仕様等 種別　◯ 木板＋ロープ　・ 木杭＋番線張り　・（　） 高さ　・ 図示　・ Ｈ　m 設置範囲 ◯ 図示　・ 敷地境界全域
	⑨	建設発生土	・ 場外指示の場所に処分　・ 場外搬出適切処置　・ 場外指示の場所に敷き均し ◯ 場内指示の場所に堆積 ・ 当該工事により発生する建設発生土は，次の公の関与する埋立地に搬出するものとする。 搬出場所：＿＿＿＿＿＿＿＿の公の関与する埋立地
特別管理産業廃棄物・特殊な建設副産物の処理	①	施工計画調査 (5.1.2)（7.1.3）	1）特別管理産業廃棄物等とは，特別管理産業廃棄物及び特殊な建設副産物をいい，その種類は次による。これらについて，設計図書及び目視により，施工調査を実施し調査結果を調書に取りまとめ，監督員に提出する。 ・特別管理産業廃棄物　・廃石綿等　・ＰＣＢを含む機器類　・ＰＣＢ含有シーリング材　・廃油 ・廃酸，廃アルカリ ・特殊な建設副産物　・フロン，ハロン等の特定物質　・放射性物質　・六ふっ化硫黄（SF6） ・特定化学物質等 2）発注者による調査（発注者調査）で判明している特別管理産業廃棄物等は次のとおりであり，適切に処理すること。また，下記については施工調査結果と共に調査結果（調書）に反映させること ・特別管理産業廃棄物　①廃石綿等 ※ 無し ・ 有り（　） ②ＰＣＢを含む機器類 ※ 無し ・ 有り（　） ③ＰＣＢ含有シーリング ※ 無し ・ 有り（　） ④廃油 ※ 無し ・ 有り（ 熱源の残油（オイルタンク及び配管内含む）　） ⑤廃酸，廃アルカリ ※ 無し ・ 有り（　） ・特殊な建設副産物　①フロン等の特定物質 ※ 無し ・ 有り（ ・ 空気調和設備の冷媒　・　） ②放射性物質 ※ 無し ・ 有り（ ③六ふっ化硫黄(SF6)

章		項	特記事項
特別管理産業廃棄物の処理			※ 無し ・ 有り（　） ④特定化学物質等 ※ 無し ・ 有り（　）
	②	特別管理産業廃棄物の処分等 (5.4.1)	処分等の必要な特別管理産業廃棄物は，関係法令に従い適切に処分すること。又，施工調査によって，判明した箇所も，処分方法等を監督員と協議し，同様に処分すること。
	③	廃石綿等 (5.4.1)	廃石綿等の処理は，解体仕様書６章「石綿含有建材の除去及び処理」による。
	④	ＰＣＢ含有機器類 (5.4.1)	事前調査対象機器は次による。 ◯ 無し　・
	5	ＰＣＢ含有シーリング材 (5.4.1)	ＰＣＢ含有シーリング材の分析調査及び撤去は次による。 ・ 分析調査箇所数　（ 計　箇所 ）分析調査箇所　※ 図示 ・ 撤去範囲は，次のとおりとし，ＰＣＢ含有シーリング材はＰＣＢが飛散しないように適当な容器に納め，適切な場所に保管し，調書を作成の上，合わせて監督員に引渡すこと。 （ ・ 図示による　・　）
	6	ダイオキシン類 (5.4.1)	廃棄物焼却施設等の解体方法の指定 ※ 解体作業 ・ 第１管理区域（レベル１）　・ 第２管理区域（レベル２）　・ 第３管理区域（レベル３） ・ （　） ※ 廃棄物焼却炉からの排出物の処分

品目	最終処分場等の名称	所在地（距離）
・もえがら		
・ばいじん		

	⑦	特殊な建設副産物の回収及び処分 (7.3.1)	回収及び処分の必要な特殊な建設副産物は，関係法令に従い適切に回収・処分すること。また，施工調査によって判明した箇所も，処分方法等を監督員と協議し，同様に処分すること。
石綿含有建材の除去及び処理	①	事前調査 (1.4.1)	目視及び設計図書等により，あらかじめ事前に次の事項について事前調査を行い，調査結果をとりまとめて監督員に提出するとともに，その写しを工事の現場に備え置く。また，関係法令等に基づき，官公署へ報告を行う。 (1) 使用部位の確認 (2) 種別，厚さ等の確認 (3) 使用数量の確認 (4) 施工範囲と工事管理区分の確認 ◯ 石綿含有分析調査　（ 既往調査報告書を提供する。事前調査の結果、追加調査が必要となった場合実施 ※ 分析方法　JIS　A1481-1「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による定性分析 ※ 分析必要部位等　（ 上記による必要箇所 ）
	2	石綿粉じん濃度測定 (6.1.3)	石綿粉じん濃度測定を行い，記録し監督員に報告する。 ※ 測定方法は，公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）最新版による。 測定点の取り方 (1) 処理作業前 ・ 処理作業室内（　点） ・ 施工区画周辺又は敷地境界（　点） (2) 処理作業中 ・ 処理作業室内（　点） ※ セキュリティーゾーン入口（　点）･･･空気の流れを確認 ※ 負圧・除じん装置の排出口（　点）･･･除じん装置の性能確認 ・ 施工区画周辺又は敷地境界（　点） (3) 処理作業後（離隔シート撤去前） ※ 処理作業室内（　点） ・ 施工区画周辺又は敷地境界（　点）
	3	除去工事共通事項 (6.2.1～6.2.9)	1）専門工事業者 石綿含有吹付け材の除去を直接行う専門工事業者については，工事に相応した技術を有すること を証明する資料を監督員に提出すること。 2）作業主任者及び特別管理産業廃棄物管理責任者 ①石綿作業主任者技術講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を修了した者のうちから，石綿作業主任者を選任し，管理させること。 ②排出事業者は，石綿含有吹付け材，石綿含有保温材等の除去工事では，特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有する者を選任し管理させること。 3）除去作業者 石綿含有建材の除去に従事する作業者（以下「除去作業者」という。）は，石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号。以下「石綿則」という。）に基づく特別の教育を受けた者とする。また，除去作業者は，一般健康診断，石綿健康診断，じん肺健康診断を受診した者とし，肺機能に異常がない者とする。 4）施工計画書 施工に先立ち，処理工事に伴う石綿粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し，監督員の承諾を受けること。 5）表示及び掲示 ①関係者以外立入禁止，喫煙・飲食の禁止，石綿除去作業中等の表示を行う。 ②石綿の有害性，取扱い上の注意事項，使用すべき保護具の掲示を行う。 ③「建築物等の解体等の作業に関する お知らせ（労働基準監督署への届出内容，粉じん飛散抑制措置，ばく露防止措置等）」を周辺住民の見やすい場所に掲示する。 6）保護具・保護衣 ①作業者は，作業内容に応じた呼吸用保護具，保護めがねを使用するとともに粉じんが付着しにくく，服内部に侵入しにくい保護衣又は作業衣を着用する。 ②監督員の現場作業の立入確認のため，保護具，保護衣を一式現場に備える。 7）官公署への他への手続き ①労働安全衛生法の吹付け石綿除去作業の工事計画届（労働基準監督署） ②「石綿則」第５条第１項の規定による作業届（労働基準監督署） ③大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届出（都道府県知事） ④その他，各自治体の条例又は要綱等により義務付けられている届出（特別管理産業廃棄物管理責任者設置報告書等） 8）適用基準 ※「建設・解体工事に伴うアスベスト廃棄物処理に関する技術指針・同解説」

起　工

年　度	令和 ７ 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	解体工事特記仕様書（１）
縮　尺	A1：　－　A3：　－　　番号　３７
長崎県西海市	

章	項	特記事項
⑤ 石綿含有建材の除去及び処理	4 石綿含有吹付け材の除去 (6.3.1～6.3.4)	1） 処理を行う石綿含有吹付け材の仕様及び部位 ※ 図面による ・ 下記による

石綿含有吹付け材の仕様	使用部位
・	・
・	・
・	・
・	・

2） 作業場の隔離、養生等
①除去に伴い石綿の作業場から外部への飛散防止及び処理を行わない他の部位への汚染を防止するため、プラスチックシート等を用いて負圧隔離養生を行う。
②隔離した作業場内は、HEPAフィルターを備えた負圧除じん装置により、常時負圧を保つ。
③隔離した作業場内への出入りによる石綿粉じんの二次汚染を防止するため、前室、洗浄室及び更衣室の3室で構成するセキュリティーゾーンを設置する。
④洗浄室にはエアシャワー設備を設ける。
⑤除去物の処理
※ 密封処理（二重袋梱包） ・ セメント固化
3） 除去工法
※ 図面による ・ 共通仕様書による
施工場所（ ）

4） 除去した石綿等の保管、運搬、処分等
①除去した石綿含有吹き付け材等を搬出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、シートで覆う等飛散防止措置を講ずる。また、石綿等の保管場所であることの表示を行う。
当該工事により発生する石綿を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（ ） 運搬距離（ ）
受入条件（※平日受入 ・ ）
※ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。
②石綿を廃棄物として排出した時は、その都度、排出量と処理先を監督員に報告するとともに、産業廃棄物管理票（マニュフェスト）の写しを添付した廃棄物処理報告書を提出する。
5） 確認及び後片付け
①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。
②確認の後に、除去面に粉じん飛散防止処理剤等を散布する。
③養生用のプラスチックシートの撤去に先立ち、高性能真空掃除機で養生面、床等の清掃を行う。
④養生用のプラスチックシートに付着した粉じんの再飛散を防止するために、シート全面に粉じん飛散抑制剤を散布する。
⑤壁面等の養生用のプラスチックシートの撤去は、集じん・排気装置で十分に吸引・ろ過し、原則として、隔離空間内部の空気中の総繊維数濃度を測定して、石綿等の粉じんが処理されたことを確認した後に行う。 なお、シートは、取り外して粉じん付着面を内側にして折りたたみ、プラスチック袋に入れる。
⑥養生を行っていない足場、仮設材を清掃した後に解体搬出する。
⑦床養生用のプラスチックシートは、粉じん付着面を内側にして折りたたみ、プラスチック袋に入れる。
⑧養生用のプラスチックシート等の廃棄物は、4 2）⑤により処理等を行う。
⑨後片付け終了後は、高性能真空掃除機で床等の清掃をする。

	5 石綿含有保温材等の除去 (6.4.1～6.4.4)	1） 処理を行う石綿含有保温材等の仕様及び部位 ・ 下記による ※ 図面による

石綿含有保温材等の仕様	使用部位
・	・
・	・
・	・
・	・

2） 養生等
①石綿含有保温材等の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて隔離養生（負圧不要）を行う。
②作業場の隔離 （ ・ 行う ※ 行わない ）
石綿含有保温材等の除去にあたり、掻き落し・破砕・切断による方法の場合は、作業場の隔離を行うこと。
3） 作業場の隔離を行う場合は、4 2）を適用する。
除去工法
※ 粉じん飛散抑制剤により湿潤化した後に手ばらし ・ 石綿含有吹き付け材の除去による
除去物の処理 （ ※ 密封処理（二重袋梱包） ・ セメント固化 ）
4） 除去した石綿等の保管、運搬、処分等
4 4） 除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。
5） 確認及び後片付け
①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。
②確認の後に、除去面に粉じん飛散防止処理剤等を散布する。
③養生シート等の撤去にあたっては、シート等を十分に清掃する。また、石綿の付着が考えられる場合には、必要に応じて粉じん飛散抑制剤又は粉じん飛散処理剤を散布する。

	6 石綿含有成形板等の除去 (6.5.1～6.5.4)	1） 処理を行う石綿含有成形板等の仕様及び部位 ・ 下記による ※ 図面による

石綿含有成形板等の仕様	使用部位
・ 波形ストレート	・ 倉庫1、2 屋根外壁
・	・
・	・
・	・

2） 養生等
石綿含有成形板等の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて作業場所の周辺の養生を行う。
3） 除去工法
①原則、手ばらしで行う。やむを得ず切断、破壊等しなければならない場合は、常時湿潤化した状態で作業を行う。ただし、石綿を含有するけい酸カルシウム板第一種は、養生シート等で作業場**所の隔離養生（負圧不要）を行う。**
②除去した石綿含有成形板等の集積及び積込みに当たっては、高所より落下しないことの他、粉じんの飛散防止に努める。
③破砕された石綿含有成形板等は、湿潤化のうえ、丈夫なプラスチック袋に入れる等飛散防止の措置を講ずる。
4） 除去した石綿等の保管、運搬、処分等
①処分は原形のままとし、処分先は監督員の指示による。
・ 石綿含有石こうボード
※ 埋立処分（管理型最終処分場）
・ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板等
・ 埋立処分（安定型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。
②除去した石綿含有成形板等を現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の廃棄物とを分別して保管するものとし、シートで覆う等飛散防止措置を講ずる。また、保管場所には、石綿等の保管場所であることの表示を行う。
③石綿含有成形板等の運搬に当たっては、運搬車輌の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。
5） 確認及び後片付け
①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。
②養生シート等の撤去にあたっては、シート等を十分清掃する。

章	項	特記事項
⑤ 石綿含有建材の除去及び処理	7 石綿含有仕上塗材（下地調整塗材含む）の除去	1） 処理を行う石綿含有仕上塗材（下地調整塗材含む）の仕様及び部位 ・ 下記による ※ 図面による

石綿含有仕上塗材の仕様	使用部位
・	・
・	・
・	・
・	・

2） 養生等
電気グラインダー等の電動工具により除去を行う場合は、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて隔離養生（負圧不要）を行う。
3） 除去工法 （ 施工場所 ： ※ 図示 ・ ）
①石綿含有仕上塗材の除去は、高圧水洗工法や剥離剤を用いる工法等により、湿潤化した状態で行う。
②電気グラインダー等の電動工具により除去を行う場合は、除去する石綿含有仕上塗材を常時湿潤化した状態で作業を行う。なお、湿潤化が著しく困難な場合は、除じん性能を有する電動工具を使用するなど粉じんの発散を防止する。
③除去した石綿含有仕上塗材の廃棄物は、耐水性のプラスチック袋等により二重でこん包する。
4） 除去した石綿等の保管、運搬、処分等
6 4） 除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。
処分先については、監督員の指示による。
・ 埋立処分 （ ・ 安定型最終処分場 ・ 管理型最終処分場 ）
・ 中間処理 （ 溶融施設又は無害化処理施設 ）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。
5） 確認及び後片付け
①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。
②養生シート等の撤去にあたっては、シート等を十分清掃する。

起 工

年 度	令和 7 年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	解体工事特記仕様書（２）
縮 尺	A1： － A3： －
番号	３８
長崎県西海市	

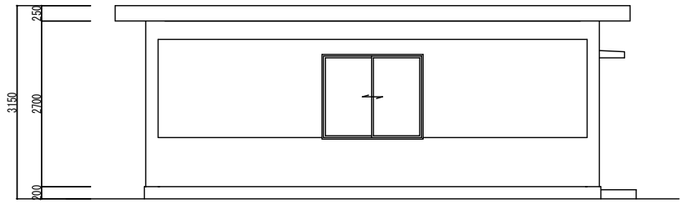
管理倉庫

外部仕上表

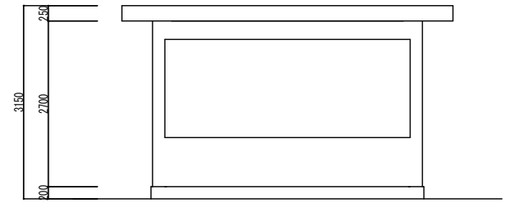
外部仕上表	
屋根	塗膜防水
外壁	コンクリート打放しリシン吹付
腰	コンクリート打放しリシン吹付
軒天	リシン吹付
玄関庇	塗膜防水
ポーチ	コンクリート直均し

内部仕上表

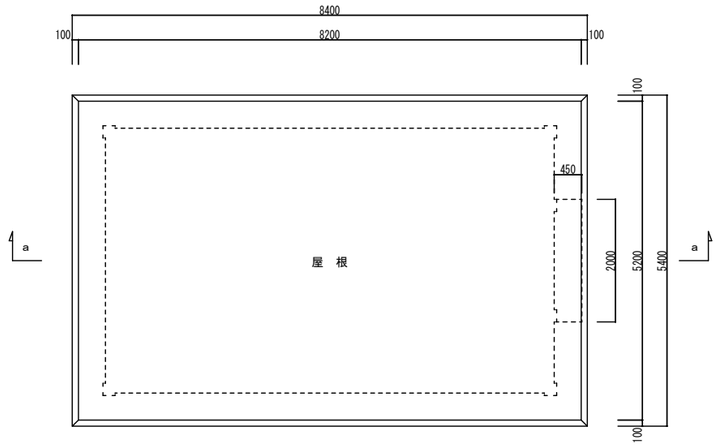
階	室名＼部位		床	巾木・腰	壁	天井
1	倉庫	仕上	コンクリート直均し	ＥＰ塗	ＥＰ塗	ＥＰ塗
		下地	－	コンクリート打放し	コンクリート打放し	コンクリート打放し
		仕上				
		下地				



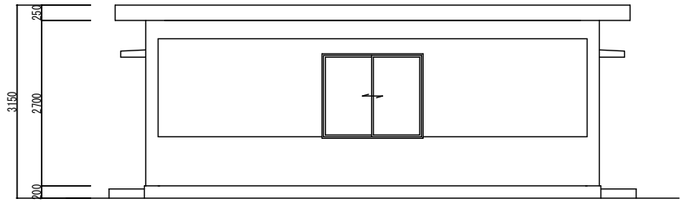
立面図Ａ　　Ｓ＝１／５０



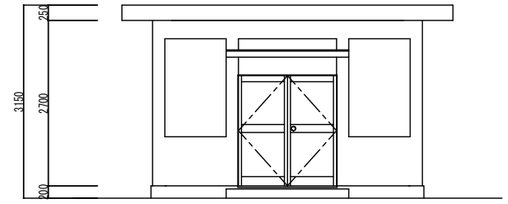
立面図Ｂ　　Ｓ＝１／５０



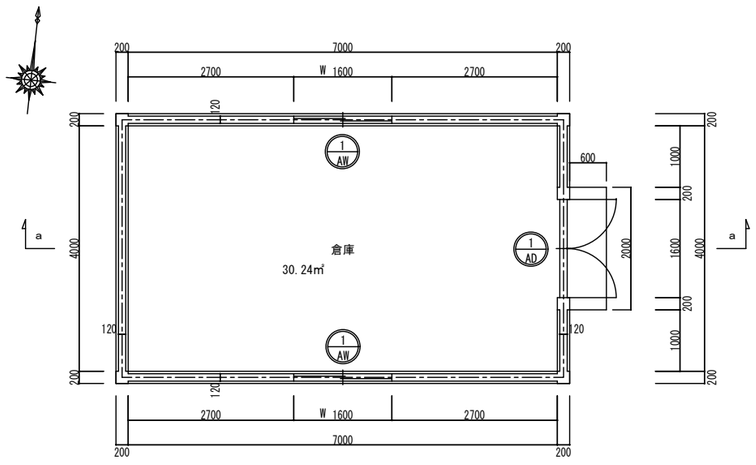
屋根伏図　　Ｓ＝１／５０



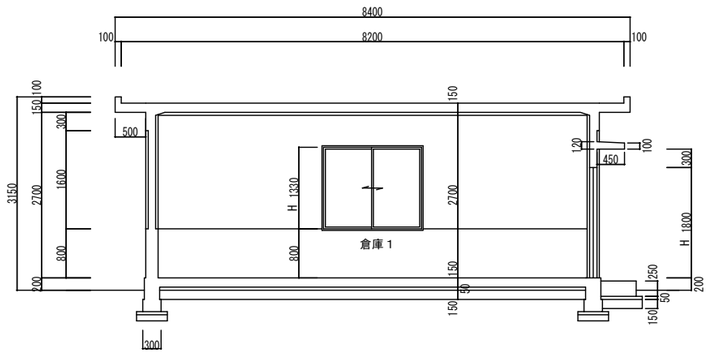
立面図Ｃ　　Ｓ＝１／５０



立面図Ｄ　　Ｓ＝１／５０



平面図　　Ｓ＝１／５０



ａ－ａ断面図　　Ｓ＝１／５０

床面積：　7.200　×　4.200　＝　30.240

30.24㎡

※基礎部は残存する完成図等に基づく想定形状・寸法である。

起　工

年　度	令和 7 年度		
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)		
図面名称	西海中部浄水場　管理倉庫①　撤去之図		
縮　尺	A1：1/50　A3：1/100	番号	３９
長崎県西海市			

管理倉庫

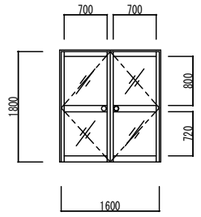
既設建具リスト

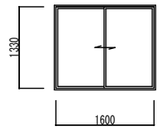
＜撤去対象建具＞　室名は、現（既存の）室名を示す

符　号	開　口　種　別	幅　×　高さ	建具見込 W	建具枠 W	建具枠 撤去の有無	ガラス	建　具　金　物　等	個数	場所	備考
1 AD	アルミ製両開き扉	1600　x　1800	40	70	撤去	Ｎｔ6.8	丁番（4）　握り玉　モノロック　ＤＣ	1	倉庫	
1 AW	アルミ製引き違い窓	1600　x　1330	―	70	撤去	Ｎｔ6.8	付属金物一式	2	倉庫	

＜撤去対象建具姿図＞

1 AD	アルミ製片開き扉					1 AW	アルミ製引き違い窓				





ガラス略号	
Ｆ	型板ガラス
Ｐ	フロート板ガラス
Ｎ	網入型板ガラス
ＮＰ	網入みがき板ガラス

起　工

年　度	令和　7　年度
工事名称	西海中部・東部地区水道施設再編推進工事(土木１工区)
図面名称	西海中部浄水場　管理倉庫
縮　尺	A1：1/100　A3：1/200　番号　４０
長崎県西海市	